

# SYLLABUS



令和 8 年度

独立行政法人国立病院機構  
都城医療センター附属看護学校

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科目名	単位数	時間数	授業担当時間数	実務経験年数	所属
看護技術Ⅱ	1	30	16	看護師 11 年 病院での勤務(病棟)	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			14	看護師 27 年 病院での勤務(病棟)および看護管理、がん化学療法看護認定看護師	都城医療センター附属看護学校 専任教員
看護技術Ⅳ	1	30	16	看護師 18 年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			14	看護師 13 年 病院での勤務(病棟)	都城医療センター附属看護学校 専任教員
成人看護方法論Ⅱ	2	45	41	看護師 14 年 病院での勤務(外科病棟・手術室)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
小児看護学概論	1	30	30	看護師 11 年 病院での勤務(小児科病棟)	都城医療センター附属看護学校 専任教員
精神看護方法論Ⅱ	2	45	29	看護師 18 年 病院での勤務(精神科病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
医療安全	1	30	22	看護師 18 年 病院での勤務(病棟)および看護管理、医療安全管理者	都城医療センター附属看護学校 専任教員
統合看護技術	1	30	18	看護師 7 年 病院での勤務(病棟)	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			12	看護師 18 年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
看護マネジメント論	1	30	18	看護師 16 年(うち看護管理 7 年) 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 教育主事
合計単位数および時間数	10	270			

# 1 年次

## 目次

### 【基礎分野】

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 日本語表現法 | 6. 社会学     |
| 2. 看護物理学  | 7. 生活文化論   |
| 3. 情報科学   | 8. 教育学     |
| 4. 心理学    | 9. 基礎看護英語  |
| 5. 人間関係論  | 10.生涯スポーツ論 |

### 【専門基礎分野】

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1.解剖生理学Ⅰ | 9.病理学Ⅱ    |
| 2.解剖生理学Ⅱ | 10.病理学Ⅲ   |
| 3.生化学    | 11.保健医療論Ⅰ |
| 4.栄養学    |           |
| 5.看護生理学  |           |
| 6.微生物学   |           |
| 7.治療法総論  |           |
| 8.病理学Ⅰ   |           |

### 【専門分野】

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1.看護学概論   | 11.成人看護学概論  |
| 2.看護理論    | 12.老年看護学概論  |
| 3.看護技術Ⅰ   | 13.老年看護方法論Ⅰ |
| 4.看護技術Ⅱ   | 14.小児看護学概論  |
| 5.看護技術Ⅲ   | 15.母性看護学概論  |
| 6.看護技術Ⅳ   | 16.精神看護学概論  |
| 7.看護技術Ⅴ   | 17.基礎看護学実習Ⅰ |
| 8.看護技術Ⅵ   |             |
| 9.看護技術Ⅶ   |             |
| 10.地域看護概論 |             |

基礎分野

【科目】日本語表現法	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】中武 義弘	
【開講時期】第1学期	【配当年次】1年次
【所属・職位等】宮崎公立大学非常勤講師	

【授業における到達目標】

国語(書かれた内容)を正確に理解し、自分の思いを正しく伝えるために、正確に表現するための思考力や想像力及び言語感覚を、アクティブラーニングを通して養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

【授業の概要】

まずは、基本的な語句の使用について学習する。次に書かれた内容を正しく「読み取る」授業を展開する。最終的には、自分の思いを正しく相手に伝えるために「書く・話す・表現する」ことの授業へと移行したい。これらを完全なものにするために「言葉・表現技法」についても確認する。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	イ 自己紹介 ロ 授業の進め方について ハ 原稿用紙の正しい使い方 【課題】自己紹介の文章を書く	講義	中武	
2	日本語表現の基礎を学ぶ①「文末表現と副詞」 【課題】「短歌を詠む」	講義		
3	日本語表現の基礎を学ぶ②「誤解を生む表現・特異な語の読み」 【課題】「作詞と作詩」	講義		
4	イ 短歌を推敲し清書する ロ 日本語表現の基礎を学ぶ③「体の一部を使った表現(その1)」 【課題】「湖とシルエット」	講義		
5	日本語表現の基礎を学ぶ④「ら」抜き言葉について 【課題】「パロディーを作る」	講義		
6	日本語表現の基礎を学ぶ⑤「レトリック」 「変換ミス正す」 【課題】「浦島太郎を考える」	講義		
7	日本語表現の基礎を学ぶ⑥「表記ミスを正す」 「動物を使った表現(40)」 【課題】「格言から」	講義		
8	日本語表現の基礎を学ぶ⑦「敬語表現」 【課題】「杜子春」	講義		
9	様々な文章を味わう①「日本語の言い回し前半30」 「三字熟語60」 【課題】「泣いた赤鬼を読み解く」	講義		
10	様々な文章を味わう②「日本語の言い回し後半30」 「医療に係る漢字前半50」 【課題】「西行法師の和歌から」	講義		
11	正しく文章を書く①「短文で要約する」 「数え方の単位」 【課題】「投稿作文を書く」	講義		

回数	内容	方法	講師	備考
12	正しく文章を書く②「文章から結論を読み取る」 「カタカナの文章を読み解く」 【課題】「帽子」	講義	中武	
13	正しく文章を書く③実践「投稿作品の推敲と清書」 【課題】「未来日記」	講義		
14	正しく文章を書く④「医療に関する漢字後半50」 「ことわざ後半40」 【課題】「随筆を書く」	講義		
15	正しく文章を書く⑤「格言集50」「授業まとめとテストについて」	講義		
	終了試験			

#### 【試験・課題等の内容】

表現に関わる課題を、次回の授業開始までに提出する。文章をできるだけたくさん書く課題に取り組んでほしい。評価の対象にするので、積極的な取り組みを期待したい。最終試験では、テーマに即して小論文を書く。内容は最後の授業で知らせる。

#### 【評価方法】

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	○

授業終了時間に表現に関わる課題を出す。次回の授業開始までに提出。提出点を20点とする。最終試験では、小論文の記述試験を実施し70点で評価。残りの10点は、授業に臨む態度を評価し、合計を100点とする。

#### 【テキスト】

準備する授業プリントで授業を進める。紛失しないようにプリント綴じ（ファイル）等の準備をすること。

#### 【参考文献】

日ごろから新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを心がけること。現代社会はどのように動こうとしているのか、また、何が起きているのかに興味関心を持つことは、一社会人としても重要なことで、それらの課題に関して文章を書く場合も内容について不案内だと書けないということになる。

#### 【授業外における学修方法及び時間】

授業内容でよく理解できないことや、私はこう思うというようなことがあれば、自由に、また積極的に書いて欲しい。

基礎分野

【科目】看護物理学 【単位数・時間】1 単位(30 時間)

【担当講師】野口 大輔

【開講時期】第 1 学期 【配当年次】1 年次

【所属・職位等】都城工業高等専門学校 物質工学科 教授

【授業における到達目標】

1. 身体/身体ケアに関する力学的原理の基礎を説明できる。
2. 検査・治療・処置に関する科学的裏付けを理解し説明できる。

【授業の概要】

人間の生活に必要な物理学の原理の基礎を想起し、看護技術の科学的裏付けや医療機器の仕組みについて理解する。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	移動動作に必要な力の加減と物の量を表す単位について スカラーとベクトル、ベクトルの加法減法、力の単位	講義	野口	
2	体位変換に役立つトルクの知識 トルクとてこ	講義		
3	仕事とエネルギー 運動量と撃力	講義		
4	安定と不安定 重心の求め方、重心と安定性	講義		
5	力のつり合い：牽引 牽引療法、牽引と滑車、ラッセル牽引法	講義		
6	作用・反作用 反対牽引、作用・反作用	講義		
7	摩擦 摩擦の種類と方向、斜面に働く摩擦力	講義		
8	比熱 温度の単位、比熱の定義	講義		
9	圧力の基礎知識 圧力とは、圧力を高さで見る	講義		
10	動圧と側圧 圧力の応用、ベルヌーイの定理、血圧	講義		
11	酸素と圧力の関係 ポンベの種類、ボイルの法則、シャルルの法則、 ボイル-シャルルの法則	講義		
12	比重 比重と密度、浮力、オートクレーブの原理	講義		
13	酸・アルカリと pH 酸性・アルカリ性、pH(ペーハー)、緩衝溶液	講義		
14	濃度 重量パーセント、容量パーセント、モル濃度	講義		
15	浸透圧 Eq 濃度、浸透圧、浸透圧の求め方	講義		
	終了試験			

【試験・課題等の内容】

定期試験は授業で使用した教科書および参考資料を中心に、重要語句の説明や計算問題を出題する。課題は適宜、計算問題を中心に行う。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

完全版ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー 学研メディカル秀潤社  
物理課題(自作)

【授業外における学修方法及び時間】

事前学習により、当該授業時間で進行する部分を高校基礎科学等の教科書にて復習すること。

基礎分野

【科目】情報科学	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】宮川 泰一	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年次
【所属・職位等】有限会社 システムランド	

【授業における到達目標】

1. コンピューターの役割や仕組みを理解し、その活用方法を習得する。
2. コンピューターを活用した情報の取り扱いやコミュニケーションにおけるリテラシーを理解する。

【授業の概要】

情報の基本的な考え方、情報処理の実際を学ぶとともに、コンピューター操作について学ぶ。情報モラルとセキュリティ対策等を含むコンピューター活用の可能性を幅広く理解する科目である。コンピューターの活用による統計処理の基本を学ぶ。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	情報モラル①（個人情報、コピー&ペーストと引用の違い） パソコンの基本操作	講義 演習	宮川	【場所】 情報科学室
2	情報モラル②（個人情報） ワード基礎①（文章作成・編集）	講義 演習		
3	ワード基礎②（図の挿入、表の挿入）	講義 演習		
4	ワード基礎②（表現力を向上する機能）	講義 演習		
5	ワード応用①（長文作成、見出し等）	講義 演習		
6	ワード応用②（見出し、ページ番号） エクセル基礎①（画面の説明、特徴）	講義 演習		
7	エクセル基礎②（データ入力、編集、数式）	講義 演習		
8	エクセル基礎③（グラフ作成、データベース機能） 情報モラル③（著作権問題）	講義 演習		
9	情報モラル④（生成 AI を使用した情報の検索や整理、文章の生成や校正等） エクセル応用①（3D 集計、基本関数、表示形式）	講義 演習		
10	エクセル応用②（条件付き書式設定） エクセル評価テスト	講義 演習		
11	パワーポイント基礎① （画面構成、スライド作成、オブジェクトの挿入）	講義 演習		
12	パワーポイント基礎②（スライドの編集、特殊効果、印刷）	講義 演習		
13	パワーポイント応用 （スライドマスターの編集、ヘッダーフッター編集、スライドショーに役立つ機能）	講義 演習		



回数	内容	方法	講師	備考
14	プレゼンテーション実践（グループ発表）	講義 演習	宮川	
15	情報モラル⑤（ネット社会に潜む危険と対策）と総合演習	講義 演習		
	終了試験			

【科目関連及び進度について】

看護研究、統合看護技術につながる科目である。

【試験・課題等の内容】

必要時、課題を提示する。

【評価方法】

筆記試験		レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

情報リテラシー 総合編 Windows 11 /Office 2021 対応

【授業外における学修方法及び時間】

授業後に復習を行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

## 基礎分野

【科目】心理学	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】保田浩美	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年次
【所属・職位等】宮崎福祉医療カレッジ 社会福祉士学科 精神保健福祉士 教員	

### 【授業における到達目標】

現代社会では多様な価値観や生活様式が認められており、それに伴い、医療現場における心理的ケアのニーズも複雑化しつつある。将来携わるであろう、対人スキルや客観的視点が重視される医療や福祉の現場で役立つ心理学の知識を習得することを目的とする。

### 【授業の概要】

医療現場で求められる人間の「こころ」に関する知識について、現代社会の特徴に重点を置きながら、社会心理学、教育心理学、臨床心理学、実験心理学の観点から講義する。客観的に物事を捉える視点を学び、医療現場における心理学の果たす役割について考える。

心理学の知識を必要とする、将来、直面することが想定される医療現場における場面に対するディスカッションを通して、座学で学んだ知識を、実際の場面で応用可能な知識に深めた上で習得できるようになることを目指す。

### 【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	心理学とは	講義	保田	
2	愛着形成の発達	講義		
3	発達課題	講義		
4	パーソナリティの類型	講義		
5	パーソナリティの測定	講義		
6	ストレスの概念	講義		
7	ストレスコーピング	講義		
8	感情と葛藤	講義		
9	防衛機制	講義		
10	欲求と動機づけ	講義		
11	学習理論に基づく動機づけ	講義		
12	集団心理学	講義		
13	対人認知	講義		
14	リーダーシップ理論	講義		
15	コーチング理論	講義		
	終了試験			

### 【試験・課題等の内容】

試験・課題については、いずれも講義内容に即したものを出题する。講義内容には、教科書に加え配布資料を用いる。

**【評価方法】**

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

**【テキスト】**

メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論 （南山堂）

**【参考文献】**

適宜紹介する。

**【授業外における学修方法及び時間】**

授業後にノートの復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

## 基礎分野

【科目】人間関係論	【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】保田 浩美	
【開講時期】第1学期	【配当年次】1年次
【所属・職位等】宮崎福祉医療カレッジ 社会福祉士学科 精神保健福祉士 教員	

### 【授業における到達目標】

人と人との信頼感を持ち、共に支え合って生活することができるために必要な知識や技術について理解し、さらに、その内容を自分の言葉で表現したり、医療や福祉の現場における様々な人間関係の構築に役立てたりすることができるようになることを目的とする。

### 【授業の概要】

本講義では、医療や看護の現場において不可欠な「対人援助における信頼関係の構築」を核として、人間関係に関する理論と実践的な技術を学ぶ。

単なる知識の習得にとどまらず、自己理解を深めるワークやロールプレイを通じて、相手を尊重しながら自分の考えを伝える力、そして相手の抱える課題に寄り添うためのコミュニケーション能力を養う。

### 【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	人間関係論について～歴史の変遷・ホーソン工場実験～	講義	保田	
2	コミュニケーションの特徴と効果 ～非言語・言語コミュニケーションと、ジョハリの窓～	講義		
3	看護場面のコミュニケーション	講義		
4	人間関係を円滑に結ぶための知識と技術 ～カウンセリングマインド～	講義		
5	相談場面のロールプレイによる演習①	講義		
6	相談場面のロールプレイによる演習①	講義		
7	自己主張（アサーション）の種類	講義		
8	終了試験（45分）			

### 【試験・課題等の内容】

試験・課題については、いずれも講義内容に即したものを出题する。講義内容には、板書だけでなく、配布資料や口頭にて説明した内容も含まれる。

### 【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

### 【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学〔2〕 医学書院  
メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論 （南山堂）

### 【参考文献】

適宜紹介

### 【授業外における学習方法及び時間】

授業後にテキストや、配布資料を復習し、学びを深める。

基礎分野

【科目】社会学	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】林田 康子	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年次
【所属・職位等】南九州大学 非常勤講師	

【授業における到達目標】

1. 人間の行動や生活の仕方が社会的なものであることを理解できるようになる。
2. 社会学の方法を使って、人間の行動や生活の仕方を考察できるようになる。

【授業の概要】

「出生」「学ぶ／教える」「働く」「結婚・家族」「病い・老い」「死」など、人びとが人生で経験するできごとに沿って授業を進める。それぞれのできごとにおいて、これまでの社会学的研究が示してきた知見を通して、我々の行動や社会生活の仕方が、いかに社会とかかわりがあるのか理解を促す。また、各テーマの前半は量的研究、後半は質的研究の成果に基づいて説明を行うので、アプローチの違いによってどのようなことを明らかにできるのか、その違いの理解も促す。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	社会学とは何か 基本的な方法論を示す	講義	林田	
2	出生 なぜ出生率が下がったのかを考える	講義		
3	出生 妊娠・出産という経験が現在どうなっているのかを考える	講義		
4	学ぶ／教える 教育と社会全体の経済水準、教育と社会階層の関係について考える	講義		
5	学ぶ／教える 学校の内部の教育課程で何がなされているのかを考える	講義		
6	働く 「働くこと」の社会的位置づけの変化を考える	講義		
7	働く 具体的な社会状況（組織）のなかに埋め込まれた「働くこと」について考える	講義		
8	結婚・家族 近代化によって家族のあり方はどう変化してきたのか考える	講義		
9	結婚・家族 家族であるとはどのようなことであるのかについて考える	講義		
10	病い・老い 統計学を用いて病いや健康と社会的な要因との関係をみる考え方を紹介する	講義		

回数	内容	方法	講師	備考
11	病い・老い 病むこと・老いることはどのような経験か、当事者などの語りから考える	講義	林田	
12	死 社会学は自殺をどう扱ってきたかを考える	講義		
13	死 死がどのようにして見えるものになるのか、その実践について考える	講義		
14	科学・学問 実証研究としての社会学の考え方を紹介する	講義		
15	科学・学問 科学的知識がどのようにつくられるのか、その実践について考える	講義		
	終了試験			

#### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業内容から出題する。また、適宜レポート課題を出す。

#### 【評価方法】

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

終了試験 70%、レポート課題 30%で評価する。

#### 【テキスト】

筒井淳也・前田泰樹著、2026(第2版),『社会学入門——社会とのかかわり方』有斐閣ストゥディア。

#### 【参考文献】

テキストに記載されている「ブックガイド」「参考文献」を参照のこと。

#### 【授業外における学修方法及び時間】

- ・授業前にあらかじめテキストを読んで、概要を把握しておくこと。
- ・授業後は、授業中に取り上げた内容を振り返り、自分の経験や身近な事例で考えてみる。

## 基礎分野

【科目】生活文化論	【単位数・時間】1 単位(15 時間)
【担当講師】桑畑 洋一郎	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年次
【所属・職位等】国立大学法人 山口大学 人文学部人文学科 教授	

### 【授業における到達目標】

ハンセン病、HTLV-1 関連疾患を患った人々について、①人の生と死により深く携わるために対象者の「生活文化」を把握することの重要性を理解すること、②「生活文化」を把握するために必要な姿勢や身構えを理解することの 2 点を到達目標とする。

### 【授業の概要】

在宅医療や在宅看護に関するドキュメンタリー映像を見ながら、「生活文化」を把握した上で医療・看護と、それによって人の生と死を豊かにすることを学んでいく。集中講義で実施する予定である。

### 【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	授業のガイダンスと目的の説明及びハンセン病の説明	講義	桑畑	
2	ハンセン病と共に生きた人々の歴史を知る (1)	講義		
3	ハンセン病と共に生きた人々の歴史を知る (2)	講義		
4	前半のまとめ：病気と共に生きた人を理解することの重要性	講義		
5	HTLV-1 関連疾患の説明	講義		
6	HTLV-1 関連疾患と共に生きる人々の歴史を知る (1)	講義		
7	HTLV-1 関連疾患と共に生きる人々の歴史を知る (2)	講義		
8	後半のまとめと授業全体のまとめ：看護師として病気と共に生きる人を理解すること、一市民として社会のなかの病気の位置づけを理解すること ＊終了試験含む(45 分)			

### 【試験・課題等の内容】

授業を受けての感想と考察を記述して提出してもらう。

### 【評価方法】

筆記試験		レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献】

必要に応じて授業内で適宜提示する。

### 【授業外における学修方法及び時間】

- ・関連しそうなことについての新聞やニュースを把握しておくこと。
- ・授業で取り上げた内容を、個人的経験や、今後実習等に参加した際の経験と照らし合わせてみる。

## 基礎分野

【科目】教育学	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】竹内 元	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター	授業研究部門 部門長

### 【授業における到達目標】

本授業は、教育学の基礎的な認識を学ぶとともに、教育や看護を越境しつつ、人間が「教えること」や「学ぶこと」を支えるために必要な知識・技能を学びます。そのさい、具体的な事例を検討することを通して、問題定立のあり方や教育学の思考形式を身に付けるとともに、ワークショップを通して論理的なコミュニケーション力を形成します。

### 【授業の概要】

本授業は、具体的な事例を通して教育学の基礎的な知識や思考形式を学びます。みなさんにとって身近な看護臨床の指導事例や生活習慣への指導のあり方を題材としながら、教育方法の視点から検討することを通して、これまで身に付けてきた教育観や指導観を学びほぐします。そのさい、ワークショップを通して、互いの考えをていねいに聴き合い、多角的なものの見方・考え方を身に付けます。

### 【アクティブ・ラーニング】

二列ワークやワールドカフェを通して、互いに考えを聴き合い、問いを生成させながら語り合う場を大切にします。さらに、「たとえば」「なぜなら」「言い換えると」「つまり」などの接続語を駆使し、論理的なコミュニケーションを豊かにする関係を形成することを通して、自らの囚われを学びほぐし、多角的なものの見方・考え方に出会いながら、自己を豊かにしていく方法を学ぶ機会を保障します。

### 【授業計画】

回数	内容・方法	方法	講師	備考
1	それぞれの経験を語り合うワークショップを通して、経験を相対化するとともに、本講義の学習方法を学びます。		竹内	
2	ワールドカフェを通して、話しながら考えるワークショップを体験するとともに、教育学の基礎的な知識を学びます。			
3	看護教育の事例をもとに、二列ワークやワールドカフェを経験しながら、教育学のものの見方・考え方を学びます。			
4	看護教育の事例をもとに、二列ワークやワールドカフェを経験しながら、教育学の論理を学び、教育学の認識を深めます。			
5	アクティビティを通して、生活指導の思考形式を具体的に理解します。			
6	看護教育や学校教育の事例をもとに、グループディスカッションすることを通して、教育学の思考形式を学びます。			
7	看護教育のルーブリックを作成することを通して、見えないルールを見える化する意義を共有します。			
8	看護教育のルーブリックをもとに、教育評価の意義を共有し、臨床実習の学び方を検討します。			
9	「看護であること 看護でないこと」を生活指導の観点から読み解きます。			
10	「看護であること 看護でないこと」を生活指導の観点から読み解きながら、教育と看護の同型性を学びます。			
11	事例検討を積み重ねることを通して、学んだことを言語化します。			
12	二列ワークやワールドカフェを経験しながら、看護と教育の違いを多角的に検討し、生活指導の考え方を学び直します。			



回数	内容・方法	方法	講師	備考
13	二列ワークやワールドカフェを通して、論理的なコミュニケーションを経験しつつ、三角ロジックを学びます。		竹内	
14	ライティング・ワークショップを通して、講義の学びを整理し、自己や他者の考えを多面的に認識します。			
15	教育学の思考形式を使って、自ら探究する看護師像を交流し、未来志向の考えを構築するあり方を学びます。			
	試験			

#### 【試験・課題等の内容】

レポートは、論述課題にて評価します。評価規準は、以下の通りです。

- (1) 序論・本論・結論の構成で書かれているか。本論に段落があるか。
- (2) タイトルに、考えたことを一文で示しているか。タイトルは、課題の問いを書くことではない。
- (3) 序論に、課題をどのように理解したか、どのように限定して述べるのか、どのような立場で書いたのかなど、課題の解題等が示しているかどうか。
- (4) 本論に、思うことなく、考えたことを示しているか。主張、事例やデータあるいは経験、論拠があるかどうか。「たとえば」「なぜなら」など2つ以上の接続詞が使えているかどうかなど。
- (5) 誤字・脱字、主語と述語のねじれなど、正しい日本語表記になっているか。自分の書いたレポートが推敲されているかどうか。

#### 【評価方法】

筆記試験		レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

レポートの成績と授業の参加にて評価します。 ・レポートの成績：80% ・授業の参加：20%

#### 【テキスト】

・フローレンス・ナイチンゲール『看護覚え書ー看護であること 看護でないこと（改訳第7版）』現代社、2022年。

#### 【参考文献】

・竹内元・興津紀子・佐々敬政・藤本将人編著『教壇から見える景色のこと』鉾脈社、2025年  
なお、必要に応じて資料も配付します。

#### 【授業外における学修方法及び時間】

予習や復習の課題を授業の中で示します。予習は、講義のディスカッションテーマをもとに、事前に調べたり、自分なりの考えを整理してきたりするものです。復習は、小児保健、成人看護など、看護学の専門科目をしっかりと復習し、講義の内容を看護学の知見と関連づけたり検証したりします。

基礎分野

【科目】基礎看護英語	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】西村 德行	
【開講時期】通年	【配当年次】1 年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校 名誉教授	

【授業における到達目標】

1. 看護に必要な英語の意味が分かる。
2. 看護に必要な英語表現が使えるようになる。
3. 看護に関する英語文献を読んで理解できる。

【授業の概要】

- ・毎回の授業で「はじめての看護英語」の既習の語句・表現に関して復習テストを実施する。
- ・「看護系学生のための総合英語」については、与えられた英語の文章を一定時間内に読んで、内容を把握する練習を実施する。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	「はじめての看護英語」第1回 「看護系学生のための総合英語」Unit1	講義	西村	
2	「はじめての看護英語」第2回 復習テスト第1回 「看護系学生のための総合英語」Unit2	講義		
3	「はじめての看護英語」第3回 復習テスト第2回 「看護系学生のための総合英語」Unit3	講義		
4	「はじめての看護英語」第4回 復習テスト第3回 「看護系学生のための総合英語」Unit4	講義		
5	「はじめての看護英語」第5回 復習テスト第4回 「看護系学生のための総合英語」Unit5	講義		
6	「はじめての看護英語」第6回 復習テスト第5回 「看護系学生のための総合英語」Unit6	講義		
7	復習テスト第6回 「看護系学生のための総合英語」まとめ	講義		
8	中間試験 「はじめての看護英語」第7回	講義		
9	「はじめての看護英語」第8回 復習テスト第7回 「看護系学生のための総合英語」Unit7	講義		
10	「はじめての看護英語」第9回 復習テスト第8回 「看護系学生のための総合英語」Unit8	講義		
11	「はじめての看護英語」第10回 復習テスト第9回 「看護系学生のための総合英語」Unit9	講義		
12	「はじめての看護英語」第11回 復習テスト第10回 「看護系学生のための総合英語」Unit10	講義		
13	「はじめての看護英語」第12回 復習テスト第11回 読解練習問題（1）	講義		
14	「はじめての看護英語」復習テスト第12回 読解練習問題（2）	講義		
15	読解練習問題（3） 「看護系学生のための総合英語」まとめ	講義		

回数	内容	方法	講師	備考
	終了試験			

【試験・課題等の内容】

- ・「はじめての看護英語」：毎回配布する練習問題より選択して出題する。
- ・「看護系学生のための総合英語」：教科書の問題と毎回配布する練習問題より選択して出題する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

毎回実施する復習テスト・中間試験・最終試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

はじめての看護英語 医学書院

English for Nursing Students 看護系学生のための総合英語 南雲堂

【授業外における学修方法及び時間】

毎回実施する復習テストの学習に1時間程度要する。

## 基礎分野

【科目】生涯スポーツ論	【単位数・時間】1 単位(15 時間)
【担当講師】榮樂 洋光	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年次
【所属・職位等】国立大学法人 鹿屋体育大学	スポーツ・武道実践科学系 講師

### 【授業における到達目標】

健康の保持増進や楽しみを目的とする生涯スポーツの意義を理解する。また、様々な尺度や計算方法を使用し指標を知るとともに、運動による心身への効果を理解できるようになる。

### 【授業の概要】

健康の保持増進や楽しみを目的とする生涯スポーツの意義を理解する。また、様々な運動による心身への効果について学び、実践を通じた効果についても学んでいく。

### 【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	運動が健康に及ぼす影響 体力とは、体力の定義	講義 実技	榮樂	
2	運動が健康に及ぼす影響 POMS 尺度を用いた運動の効果	実技		
3	有酸素運動と無酸素運動 運動の種類	実技		
4	有酸素運動と無酸素運動 よい有酸素運動	実技		
5	健康に良いスポーツとは 適度な運動強度	実技		
6	体力と健康の関係	実技		
7	疲労の防止法 肥満とその解消方法	実技		
8	終了試験(45 分)			

### 【試験・課題等の内容】

レポート課題を与えます。書式を揃えて提出してください。

### 【評価方法】

筆記試験		レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

### 【テキスト】

適宜、配布します。

### 【参考文献】

適宜、紹介します。

### 【授業外における学修方法及び時間】

各回のふり返り学習を実施し（与えられたテーマについて）、生涯スポーツの理解を深める。（各回 1 時間）

専門基礎分野

【科目】解剖生理学Ⅰ 【単位数・時間】2単位(45時間)  
 【単元】解剖総論<sup>1)</sup>、消化器系<sup>2)</sup>、呼吸器系<sup>3)</sup>、循環器系<sup>4)</sup>、腎泌尿器系<sup>5)</sup>  
 【配当年次】1年 【開講時期】第1学期  
 【担当講師】富田雅樹<sup>1)</sup> 島雅保<sup>2)</sup> 白濱知広<sup>3)</sup> 阿南隆一郎<sup>4)</sup> 山崎丈嗣<sup>5)</sup>  
 【所属・職位等】1)都城医療センター副院長 2)都城医療センター統括診療部長  
 3)都城医療センター呼吸器腫瘍センター長 4)都城医療センター循環器医師  
 5)都城医療センター血液浄化センター長

【授業における到達目標】

正常な人体の細胞・組織・器官の構造を理解する。

【授業の概要】

正常な人体の細胞、組織、器官の構造と機能及び各機能を関連づけて教授する。

【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1～2	解剖総論	1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1)人体の素材としての細胞・組織 2)構造と機能からみた人体	講義	富田	
3		2. 外部環境からの防御 1)皮膚の構造と機能 2)生体の防御機能 3)体温の調節機能	講義		
4		5. 血液 1)血液の組成と機能 (1)血液の成分(血球、血漿、血清) (2)赤血球のはたらき (3)造血と造血因子 2)止血機構 (1)血液凝固 (2)線維素溶解 3)血液型 (1)ABO式、Rh式	講義		
5～9	消化器系他	3. 栄養の消化と吸収 1)口・咽頭・食道の構造と機能 (1)口腔・舌・歯列・唾液腺の構造と機能 (2)咽頭・喉頭の構造と機能 (3)食道の構造と機能 (4)咀嚼・嚥下機能 2)腹部消化管の構造と機能 (1)胃・小腸・大腸の構造 (2)胃における消化 (3)小腸における消化 (4)栄養素の消化と吸収 3)膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	島	
10～13	呼吸器系	4. 呼吸のはたらき 1)呼吸器の構造と機能 (1)上気道 (2)下気道と肺 (3)胸膜・縦隔 2)内呼吸と外呼吸 3)呼吸運動 4)呼吸器量 5)ガス交換とガス運搬 6)肺の循環と血流 7)換気障害と拡散障害	講義	白濱	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
14～ 18	循環器系	6. 血液の循環とその調節 1)心臓の構造 2)心臓の拍出機能 (1) 心臓の興奮とその伝播 (2) 心電図 (3) 心臓の収縮 3)末梢循環系の構造 (1) 血管の構造 (2) 肺循環の血管 (3) 体循環の動脈 (4) 体循環の静脈 4)血液循環の調節 (1) 血圧 (2) 血液の循環 (3) 血圧・血流量の調節 (4) 微小循環 5)リンパとリンパ管 (1) リンパ管の構造 (2)リンパの循環	講義	阿南	
19～ 20	腎泌尿器系	7. 体液の調節と尿の生成 1)腎臓の構造と機能 2)排尿路（尿管・膀胱・尿道）の構造と機能 3)体液の調節 8. 生殖機能 1)男性生殖器の構造と機能	講義	山崎	
21～ 22	解剖総論	解剖学示説見学	講義 見学	澤口	宮崎大学
23		終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

微生物学や生化学の知識を基に本科目につなげ、さらに看護技術の学習進度を踏まえて授業計画を立案する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院

【参考文献】

からだの地図帳 講談社

イメージできる解剖生理学 メディカ出版

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】解剖生理学Ⅱ	【単位数・時間】2単位(45時間)
【単元】神経系 <sup>1)</sup> 、感覚器系：耳鼻 <sup>2)</sup> 、感覚器系：眼 <sup>3)</sup> 、内分泌系 <sup>4)</sup> 、身体の支持と運動 <sup>5)</sup> 、生殖器系 <sup>6)</sup>	
【開講時期】第2学期	【配当年次】1年
【担当講師】 <sup>1)</sup> 外山勝浩 <sup>2)</sup> 上松健太郎 <sup>3)</sup> 石井隆雄 <sup>4)</sup> 吉川教恵 <sup>5)</sup> 古田 賢 <sup>6)</sup>	
【所属・職位等】 1)	
2) 都城医療センター耳鼻咽喉科部長 3) 宮田眼科医師	
4) 都城医療センター内科医師 5) 都城医療センター整形外科医長	
6) 都城医療センター 周産期・母子医療センター長	

【授業における到達目標】

正常な人体の細胞・組織・器官の構造と機能および各機能の関連性を理解する。

【授業の概要】

正常な人体の細胞、組織、器官の構造と機能及び各機能を関連づけて教授する。

【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	神経系	1. 神経系の構造と機能 1)神経細胞と支持細胞 2)ニューロンでの興奮の伝導 3)シナプスでの興奮の伝導	講義		
2		2. 脊髄と脳 1)脊髄の構造と機能 2)脳の構造と機能	講義		
3		3. 脊髄神経と脳神経 1)脊髄神経の構造と機能 2)脳神経の構造と機能	講義		
4		4. 脳の高次機能 1)脳波と睡眠 2)記憶 3)本能行動と情動行動 4)内臓調節機能 5)中枢神経系の障害	講義		
5		5. 運動機能と下行伝導路	講義		
6		6. 感覚機能と上行伝導路	講義		
7	感覚器系	1.耳の構造 1)外耳 2)中耳 3)内耳 2.聴覚 1)中耳の役割 2)内耳での感音機構 3)聴力の検査 3.平衡感覚 1)三半規管と耳石器 2)眼振（ニスタグムス）	講義	外山	
8	耳鼻	4.外気道 1)鼻（外鼻、鼻腔、副鼻腔） 2)咽頭 3)喉頭 4)発声と構音 5.嗅覚と味覚 1)嗅覚器（鼻）の構造と機能 2)味覚器（舌）の構造と機能	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
9	感覚器系 眼	1.眼球の構造 2.眼球附属器 1)眼筋                      2)眼瞼および結膜    3)涙器	講義	上松	
10		3.視覚 1)調節と屈折    2)視細胞と視物質 3)網膜での情報処理    4)色覚    5)暗順応と明順応 6)視力と視野    7)瞳孔と対光反射	講義		
11	内分泌系	1. 自律神経による調節 1)自律神経の構造と機能 2. 内分泌系による調節 1)内分泌とホルモン 2)ホルモンの化学構造と作用機序	講義	石井	
12		3. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 1)視床下部一下垂体系    2)甲状腺と副甲状腺 3)膵臓    4)副腎    5)性腺    6)その他の内分泌腺	講義		
13		4. ホルモン分泌の調節 1)神経性調節 2)物質の血中濃度による自己調節 3)促進・抑制ホルモンによる調節 4)負のフィードバック 5)正のフィードバック	講義		
14		5. ホルモンによる調節の実際 1)ホルモンによる糖代謝の調節 2)ホルモンによるカルシウム代謝の調節 3)ストレスとホルモン 4)乳房の発達と乳汁分泌 5)高血圧をきたすホルモン	講義		
15	身体の支持と運動	1. 骨格とは 1)人体の骨格 2)骨の形態と構造 3)骨の組織と組成 4)骨の発生と成長 5)骨の生理的な機能	講義	吉川	
16		2. 骨の連結 1)関節 (1)関節の一般構造    (2)関節の正常と可動性 (3)関節運動の障害 2)不動性の連結	講義		
17		3. 骨格筋 1)骨格筋の構造 2)骨格筋の作用 3)骨格筋の神経支配 4. 体幹の骨格と筋 1)脊柱    2)胸郭    3)背部の筋    4)胸部の筋 5)腹部の筋	講義		



回数	単元	内容	方法	講師	備考
18		5. 上肢の骨格と筋 1)上肢帯の骨格 2)自由上肢の骨格 3)上肢帯の筋群 4)上肢の筋群 5)前腕の筋群 6)手の筋群 7)上肢の運動	講義		
19		6. 下肢の骨格と筋 1)下肢帯と骨盤 2)自由下肢の骨格 3)下肢帯の筋群 4)大腿の筋群 5)下腿の筋群 6)足の筋 7)下肢の運動	講義		
20		7. 頭頸部の骨格と筋 1)神経頭蓋 2)内臓頭蓋 3)頭部の筋 4)頸部の筋 8. 筋肉の収縮 1)骨格筋の収縮機構 2)骨格筋収縮の種類と特性 3)不随意筋の収縮の特徴	講義		
21		1. 女性生殖器の構造と機能 1)卵巣 2)卵管・子宮・膣 3)外陰部・会陰部 4)乳腺 5)女性の生殖機能	講義	古田	
22	生殖器系	2. 受精と胎児の発生 1)生殖細胞と受精 2)初期発生と着床 3)胎児と胎盤 (1)胎盤と臍帯 (2)生殖器の分化と発達 (3)妊娠中の母体の変化 (4)分娩 (5)胎児の血液循環	講義		
23		終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

微生物学や生化学の知識を基に本科目につなげ、さらに看護技術の学習進度を踏まえて授業計画を立案する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院

【参考文献】

ステップアップ解剖生理学ノート (サイオ出版)  
ナーシング・サプリー イメージできる解剖生理学 (メディカ出版)  
からだの地図帳 講談社

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】生化学 【単位数・時間】1 単位(30 時間)

【担当講師】高橋 利幸

【開講時期】第 2 学期 【配当年次】1 年次

【所属・職位等】都城工業高等専門学校物質工学科 教授

【授業における到達目標】

生体物質の基礎的知識とその物質代謝について理解する。

【授業の概要】

生命の維持のために必要な人体の細胞レベルでの物質代謝の基礎的な知識を学ぶ。また、本科目での学習内容を栄養学や各病態学における学習につなげる。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	生体の分子化学	講義	高橋	
2	代謝の基礎と酵素	講義		
3	代謝の基礎とビタミン・ミネラル	講義		
4	糖質とその代謝	講義		
5	脂質とその代謝	講義		
6	タンパク質とその代謝	講義		
7	核酸・ヌクレオチド・遺伝	講義		
8	ホメオスタシスを維持するための情報伝達	講義		
9	水・電解質のホメオスタシスの維持	講義		
10	生体防御	講義		
11	疾患の生化学	講義		
12	消化・吸収と栄養価	講義		
13	血液	講義		
14	尿	講義		
15	免疫系・運動系・消化器系	講義		
	終了試験			

【科目関連及び進度について】

生化学の知識から病理学、栄養学・薬理学につながる科目である。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

わかりやすい生化学（別冊ノート付）（ヌーベルヒロカワ）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎科目

【科目】栄養学	【単位数・時間】1 単位(15 時間)
【担当講師】祝迫裕江	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年次
【所属・職位等】栄養管理室長	

【授業における到達目標】

人体に必要な栄養素とその働きおよび健康状態に応じた栄養摂取の方法を学ぶ。

【授業の概要】

解剖生理学及び生化学で学習した知識をもとに、人間が発育・成長し、健全な生活を営むために必要な栄養の基礎を学ぶ。また、健康障害により栄養管理を必要とする人に対する臨床栄養や管理、栄養サポートチームについても学習する。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	1. 栄養学と看護 1)栄養とは 2)栄養素と人間の栄養状態 3)保健医療における栄養学 4)看護と栄養	講義	祝迫	
2	2. 栄養素の種類と働き 1)糖質 2)脂質 3)タンパク質 4)ビタミン 5)ミネラル 6)食物繊維 7)水 3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 1)食物の消化 2)栄養素の吸収 3)血漿成分と栄養素 4)栄養素の代謝 5)吸収・代謝産物の排泄	講義		
3	4. エネルギー代謝 1)食品のエネルギー 2)体内のエネルギー 3)エネルギー代謝の測定 4)エネルギー消費	講義		
4	5. 食事と食品 6. ライフステージと栄養	講義		
5	7. 臨床栄養 1)病院食 2)経腸栄養製品 3)疾患・症状別食事療法 (1)糖尿病患者の食事療法 (2)腎臓病患者の食事療法 (3)摂食・嚥下障害患者の食事療法	講義		
6	7. 臨床栄養 4)場面別の栄養管理 (1)術前・術後の栄養管理 ①胃切除後 ②人工肛門造設後 (大腸切除後) (2)がんの食事療法	講義		
7	8. 健康づくりと食生活 9. 栄養サポートチーム (NST) 1)NST の機能と役割 2)NST における看護師の役割	講義		
	終了試験(45 分)			

【科目関連及び進度について】

前期に看護技術Ⅲ（食事）に食事の目的、食事援助について学習する。  
生化学の開講後に開始。

【試験・課題等の内容】

授業で学習した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕栄養学 医学書院  
糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版 日本糖尿病協会・文光堂

【参考文献】

ナーシング・サプリー イメージできる生化学・栄養学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

## 専門基礎分野

【科目】看護生理学	【単位数・時間】1 単位 (30 時間)
【担当講師】一柳明日香	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師 7 年

### 【授業における到達目標】

日常生活行動を実践し、身体の形態と仕組みについて自らの身体の変化をとおして理解する。

### 【授業の概要】

「動く」「話す・聞く」「食べる」では実際に行動し、身体の形態と仕組みについて自らの身体をとおし理解する。「トイレに行く」「お風呂に入る」「息をする」「眠る」では、日常生活行動を想起し身体の形態と仕組みについて自らの身体をとおし理解する。これらの理解をとおし、「恒常性維持」の仕組みを理解する。

### 【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	「動く」 姿勢の保持、歩く、走るにおける神経・筋肉・骨格の動きと神経からの指令	講義	一柳	解剖生理学Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動)が終了後
2	「食べる」 空腹、満腹感、渇きのメカニズム 食行動と消化吸収	講義		解剖生理学Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動、消化器)が終了後
3	生命維持としての「食べる」—恒常性維持	講義		
4	「トイレに行く」 尿意・便意のメカニズム・排泄行動のメカニズム	講義		解剖生理学Ⅰ(腎泌尿器系)・Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動)が終了後
5	「トイレに行く」—恒常性維持	講義		
6	「話す・聞く」 言葉の獲得、運動としての話す 「聞く」「話す」の脳の働き	講義		解剖生理学Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動)が終了後
7	「眠る」 なぜ眠くなるのか 睡眠と覚醒のリズム生命維持としての	講義		解剖生理学Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動)が終了後
8	「息をする」 安静時、運動時、睡眠時の呼吸のメカニズム	講義		解剖生理学Ⅰ(呼吸器系)Ⅱ(神経系、身体の支持と運動)が終了後
9	生命維持としての「息をする」—恒常性維持	講義		
10	「お風呂に入る」 入浴による皮膚の変化、温度の変化 入浴行動のメカニズム	講義		解剖生理学Ⅰ(呼吸器系、循環器系)解剖生理学Ⅱ(神経系、身体の支持と運動)が終了後
11	子どもを生む 男と女、遺伝子組み換え、性交と受精 赤ちゃん、生殖を支えるホルモン、出産	講義		
12	何のための生活行動か 内部環境の恒常性 生命維持と生活行動	講義		解剖生理学Ⅱ(神経系、身体の支持と運動、呼吸器系、循環器系)が終了後

回数	内容	方法	講師	備考
13	1. 恒常性維持のための物質の流通 1) 流通の媒体—血液 血液の恒常性維持、物質の運搬、侵入物に対する防衛、血液凝固 流通路（血管・リンパ管、脾臓） 2) 活動によるバイタルサインの変動のメカニズム（心臓、血圧、血圧の調整）	講義		解剖生理学Ⅱ（神経系）が終了後
14	1. 恒常性維持のための調節機構 1) 神経性調節（受容器、中枢神経、末梢神経）	講義		解剖生理学Ⅱ（神経系、呼吸器系、循環器系）が終了後
15	1. 液性調節 1) ホルモン作用機序 2) ホルモン分泌の調節 3) 恒常性維持のためのホルモンのほたらき 2. ストレスの恒常性維持	講義		
	終了試験			

【科目関連及び進度について】

解剖生理学の進度と関連しながら進める。  
看護技術は本科目を基盤として教授する。

【試験・課題等の内容】

終了試験  
課題レポート

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会  
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院

【参考文献】

看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社  
形態機能学ワークブック 日本看護協会出版会

【授業外における学修方法及び時間】

今回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門基礎分野

【科目】微生物学	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】後藤 義孝	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年次
【所属・職位等】国立大学法人 宮崎大学 農学部獣医学科	名誉教授

【授業における到達目標】

医療現場に必要な基礎知識として病原微生物はもとより、広く微生物の性状を理解し、多様化する感染症とその予防や診断、治療について学習することで質の高い看護を提供することを目指す。

【授業の概要】

看護者は、医療従事者媒介感染を起こさないための知識と技術、細心の注意と遵守が求められる。微生物が人体に影響を及ぼす影響を中心に、人体の免疫機能および感染症についての基本的な知識を教授する。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1～ 2	微生物とは 1)微生物の性質          2)微生物と人間 3)予防接種、ワクチン、抗毒素	講義	後藤	
3	細菌の性質 1)形態と特徴          2)培養環境と栄養 3)遺伝                  4)分類 5)常在細菌叢 真菌の性質 1)形態と特徴          2)増殖 3)分類                  4)栄養と培養	講義		
4	原虫の性質 1)特徴と基本構造      2)病原原虫の種類 ウィルスの性質 1)特徴                  2)構造と各部分の機能 3)増殖                  4)分類	講義		
5	感染と感染症 1)微生物感染の機構    2)感染の成立から発症・治癒まで 3)細菌感染の機構      4)真菌感染の機構 5)原虫感染の機構      6)ウイルス感染の機構	講義		
6	感染源・感染経路からみた感染症 1)経口感染              2)経気道感染 3)接触感染              4)経皮感染 5)母児感染	講義		
7	感染に対する生体防御機構 1)自然免疫のしくみ    2)獲得免疫のしくみ 3)粘膜免疫のしくみ    4)感染の徴候と症状	講義		
8	滅菌と消毒 1)バイオハザードとバイオセーフティー 2)滅菌・消毒の意義と定義 3)滅菌法                  4)濾過除菌 5)消毒と消毒薬	講義		

回数	内容	方法	講師	備考
9	感染症の検査と診断 1)病原体を検出する方法 2)生体の反応から診断する方法	講義		
10	感染症の治療 1)化学療法の基礎 2)各種化学療法薬	講義		
11	病原細菌と細菌感染症 1 1)グラム陽性球菌 2)グラム陰性球菌 3)グラム陰性好気性桿菌 4)グラム陰性通性桿菌 5)カンピロバクター属	講義		
12	病原細菌と細菌感染症 2 6)グラム陽性桿菌 7)抗酸菌と放線菌 8)嫌気性菌 9)スピロヘータ 10)マイコプラズマ 11)リケッチア目 12)クラミジア科	講義		
13	病原真菌と真菌感染症 1)深在性真菌症をおこす真菌 2)深部皮膚真菌症をおこす真菌 3)表在性真菌症をおこす真菌 病原原虫と原虫感染症 1)根足虫類 2)鞭毛中類 3)孢子虫類 4)繊毛虫類	講義		
14	病原ウイルスとウイルス感染症 1 1)RNA ウィルス	講義		
15	病原ウイルスとウイルス感染症 2 2)DNA ウィルス 3)ウィルスの臨床的分類	講義		
	終了試験			

【試験・課題等の内容】

講義で学習した内容から、試験を出題する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。



## 専門基礎分野

【科目】治療法総論	【単位数・時間】1 単位（30 時間）
【单元】手術療法 <sup>1)</sup> 、臓器移植 <sup>2)</sup> 、リハビリテーション療法 <sup>3)</sup> 、放射線療法 <sup>4)</sup> 、ME 機器を用いた治療 <sup>5)</sup>	
【担当講師】横山幸三 <sup>1)</sup> 、中川かな子 <sup>2)</sup> 、陣内 崇 <sup>3)</sup> 、日野祐一 <sup>4)</sup> 、作元辰也 <sup>5)</sup>	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】	
1)株式会社キュア薬品 2)公益財団法人宮崎県移植推進財団 臓器移植コーディネーター	
3)都城医療センター理学療法士長 4)都城医療センター画像診断センター長	
5) 都城医療センター臨床工学技士	

### 【授業における到達目標】

#### <手術療法>

健康障害に対して行われる手術療法及び麻酔法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

#### <リハビリテーション療法>

健康障害に対して行われるリハビリテーション療法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

#### <放射線療法>

健康障害に対して行われる放射線療法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

#### <ME 機器を用いた治療>

ME 機器の原理や取り扱い、管理の知識を習得する。

### 【授業の概要】

#### <手術療法>

手術療法では、手術侵襲が生体に及ぼす影響を教授する。術前・術中・術後管理について呼吸管理、輸液・輸血管理、栄養管理を含めた内容で教授する。

#### <リハビリテーション療法>

リハビリテーションの基本的な考え方を理解し、基礎看護学の看護技術 I（活動・体位・休息）と関連させながら教授する。

#### <放射線療法>

放射線療法の基本的な考え方や治療について教授する。

#### <ME 機器を用いた治療>

臨床現場で使用頻度の高い ME 機器を取り上げ、目的や原理や安全対策について教授する。実際に ME 機器に触れながら、取り扱いや管理について学ぶ。

### 【授業計画】

回数	单元	内容	方法	講師	備考
1	手術療法	外科的治療とは 手術侵襲と生体の反応 手術侵襲と麻酔の役割	講義	横山	
2		麻酔法 術前管理・術中管理・術後管理	講義		
3		全身麻酔・局所麻酔	講義		
4		呼吸管理 体液管理	講義		
5		栄養管理 輸血療法	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
6	臓器移植	移植の分類、移植免疫と拒絶反応、臓器保存と再灌流障害 移植の臨床 臓器移植を受ける患者、家族の思い 臓器移植に対する提供者、家族の思い 脳死判定基準の改定に伴う最近の動向	講義	中川	
7	リハビリテーション療法	リハビリテーションの概念 回復過程とリハビリテーション	講義	陣内	
8		リハビリテーションの方法 不動・低活動の予防 活動の促進に向けた援助	講義 演習		2回目は実習室使用
9		肺理学療法 摂食嚥下訓練	講義		
10	放射線療法	放射線とは 画像診断の役割 放射線治療の役割	講義	日野	
11		X線診断の特徴と成り立ち CT検査の特徴と成り立ち MRI検査の特徴と成り立ち 核医学検査の特徴と成り立ち	講義		
12		放射線治療の原理と基礎 正常組織の有害反応 放射線治療の特徴と目的 照射法 IVR	講義		
13	ME機器を用いた治療	ME機器を用いた治療 1)医療機器を安全に使用する環境	講義	作元	
14		ME機器を用いた治療 2)測定用医療機器の原理、目的、保守点検	講義		
15		ME機器を用いる患者の管理(演習) 1)ME機器の仕組みと管理 (輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器・低圧持続吸引器)	講義		
		終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

病理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・臨床看護総論、成人看護方法論Ⅱにつながる内容の科目である。

【試験・課題等の内容】

試験は、学習した内容から出題する

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

＜手術療法＞

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

＜リハビリテーション療法＞

看護学テキストシリーズ NiCE リハビリテーション看護 改訂第2版 南江堂

＜放射線療法＞

系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

＜ME 機器を用いた治療＞

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論

【参考文献】

成人看護学 急性期看護Ⅰ 南江堂

成人看護学 急性期看護Ⅱ 南江堂

看護技術プラクティス 学研

新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術

看護技術ベーシックス 医学芸術新社

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

＜ME 機器を用いた治療＞

使用頻度の高いME 機器に関する安全対策や原理を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅰ	【単位数・時間】1 単位 30 時間
【単元】病理学総論 <sup>1)</sup> 、腎・泌尿器系 <sup>2)</sup>	
【担当講師】長安真由美 <sup>1)</sup> 山崎丈嗣 <sup>2)</sup>	
【開講時期】通年	【配当年次】1 年
【所属・職位等】1) 都城医療センター病理診断科医長 2) 血液浄化センター長	

【授業における到達目標】

- ・人体における病的状態の原因、発生機序、経過について理解する。
- ・腎・泌尿器系統の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

本授業では、解剖生理学の知識をふまえ、炎症や循環障害、腫瘍など臓器の違いをこえて共通にみられる病気の原因や病気の成り立ちについて教授する。その後、腎・泌尿器系の代表的疾患の原因・特徴・病理的变化や反応について教授する。

【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	病理学総論	1. 病理学の領域 1)看護と病理学 2)病気の原因	講義	長安	
2		2. 細胞・組織の傷害と修復、炎症 1)細胞の損傷と適応 2)組織の修復と創傷治癒 3)炎症とその分類	講義		
3		3. 免疫、移植と再生医療 1)免疫と免疫不全 2)アレルギーと自己免疫疾患	講義		
4		3. 免疫、移植と再生医療 1)自己免疫疾患	講義		
5		4. 感染症 1)感染と宿主の防御機構 2)おもな病原体と感染症 3)感染症の治療と予防	講義		
6		5. 循環障害	講義		
7		6. 代謝障害 1)脂質代謝障害 2)タンパク質代謝障害 3)糖尿病 4)その他の代謝障害	講義		
8		7. 老化と死 1)個体の老化と老年症候群 2)加齢に伴う諸臓器の変化 3)個体の死と終末期医療	講義		
9		8. 先天異常と遺伝子異常 1)先天異常 2)遺伝子の異常と疾患 3)先天異常・遺伝子異常の診断と治療	講義		
10		9. 腫瘍 1)腫瘍の定義と分類 2)悪性腫瘍の広がりや影響 3)腫瘍の発生病理 4)腫瘍の診断と治療 5)腫瘍の統計	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
11		10. 生活習慣と環境因子による生体の障害 11. まとめ	講義	長安	
12	腎・泌尿器系	1. 慢性腎臓病・腎不全 1) 症状 2) 腎機能検査・尿検査 3) 薬物療法・食事療法・生活指導・透析療法・腎移植	講義	山崎	第3回以降開講
13		2. 腎炎・膀胱炎 1) 症状 2) 血液検査・腎生検・尿検査 3) 安静療法・食事療法・薬物療法	講義		
14		3. 腎・尿路結石 1) 症状 2) 画像検査 3) ESWL・TUR・PNLなど	講義		
15		4. 腎がん・尿管がん・膀胱がん 1) 症状 2) 膀胱鏡検査・排泄性腎盂造影・超音波検査・尿細胞・経尿道的生検 3) 回腸導管造設術・放射線療法など	講義		
		終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

解剖生理学Ⅰ 第1.2回の終了後に、本科目第1回を開講する。

解剖生理学Ⅰ 第19.20回「体液の調節と尿の生成」終了後に、本科目第12回～15回を開講する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サプリー イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

授業前後に1時間程度の学習を要する。

【授業外における学修方法及び時間】

授業前後に1時間程度の学習を要する。

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅱ	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【单元】呼吸器系 <sup>1)</sup> 、循環器系 <sup>2)</sup>	
【担当講師】今津善史 <sup>1)</sup> 阿南隆一郎 <sup>2)</sup>	
【開講時期】第2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】1) 都城医療センター呼吸器内科医長 2) 都城医療センター循環器内科医師	

【授業における到達目標】

呼吸器系および循環器系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

本授業では、解剖生理学の知識をふまえ、呼吸器系・循環器系の代表的な疾患の原因・特徴・病理的变化や反応について教授する。

【授業計画】

回数	单元	内容	方法	講師	備考
1	呼吸器系	1.呼吸器感染症 1)肺炎 (1)症状と病態生理、分類、種類 (2)主な検査 (3)主な治療法：薬物療法、予防接種 2)インフルエンザ (1)症状と病態生理、感染経路 (2)主な検査：咽頭ぬぐい液・鼻腔ぬぐい液検査 (3)主な治療法：薬物療法、予防接種	講義	今津	
2		2.気道疾患 1)気管支喘息 (1)症状と病態生理、発作の種類 (2)主な検査：呼吸機能検査、血液検査 (3)主な治療法：薬物療法、吸入 2)気管支拡張症 (1)症状と病態生理 (2)主な検査：胸部 X 線検査、胸部 CT (3)主な治療法：薬物療法、吸入療法、酸素療法、禁煙	講義		
3		3.慢性閉塞性肺疾患 1)症状と病態生理 2)主な検査:胸部 CT、呼吸機能検査 3)主な治療:禁煙、薬物療法、呼吸リハ、在宅酸素療法	講義		
4		4.肺腫瘍 1)肺癌 (1)症状と病態生理、分類 (2)主な検査 (3)主な治療法：外科療法、放射線療法、化学療法	講義		
5		5.間質性肺炎 1)主な症状と病態生理 2)主な検査：胸部 CT、呼吸機能検査 3)主な治療法：化学療法	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
6		6.肺結核 1)症状と病態生理、感染経路、病型 2)主な検査：胸部X線検査、胸部CT、喀痰検査、抗酸菌検査 3)主な治療法：化学療法      4)院内感染対策と予防 7.自然気胸 1)症状と病態生理、種類 2)主な検査：胸部X線検査、胸部CT 3)主な治療法：外科療法	講義		
7		8.過換気症候群 1)症状と病態生理    2)主な治療法 9.睡眠時無呼吸症候群 1)症状と病態生理    2)主な検査：ポリソムノグラフィー 3)主な治療法	講義		
8	循環器系	1.虚血性心疾患 1)狭心症 (1)症状と病態生理、分類 (2)主な検査：心電図、運動負荷心電図、心エコー (3)主な治療法：薬物療法、 経皮的冠状動脈インターベンション	講義	阿南	
9		1.虚血性心疾患 2)心筋梗塞 (1)症状と病態生理、合併症 (2)主な検査：心電図、心臓マーカー、心エコー、 心臓カテーテル検査 (3)主な治療法：再灌流療法（PCI、CABG、血栓溶解療法）リハビリテーション	講義		
10		2.心不全 1)症状と病態生理と分類、合併症 2)主な検査：胸部X線検査、心電図、心エコー、BNP測定 3)主な治療法：薬物療法、補助循環装置	講義		
11		3.血圧異常 1)症状と病態生理、基準と分類 2)主な治療法：薬物療法、生活習慣への指導	講義		
12		4.不整脈 1)症状と病態生理と種類 2)主な検査：心電図、ホルター心電図 3)主な治療法：薬物療法、ペースメーカー植え込み、 植込み型除細動器、カテーテルアブレーション	講義		
13		5.弁膜症 1)症状と病態生理と種類 2)主な検査：胸部X線検査、心電図、心エコー 3)主な治療法：薬物療法、手術療法	講義		





専門基礎分野

【科目】病理学Ⅲ	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【单元】消化器系 <sup>1)</sup> 、生殖器系 <sup>2)</sup> <sup>3)</sup> 内分泌系 <sup>4)</sup>	
【担当講師】島 雅保 <sup>1)</sup> 古田 賢 <sup>2)</sup> 横山幸三 <sup>3)</sup> 石井隆雄 <sup>4)</sup>	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】	
1) 都城医療センター統括診療部長	
2) 都城医療センター周産期・母子医療センター長	
3) 株式会社キュア薬品	
4) 都城医療センター内科医師	

【授業における到達目標】

消化器系、生殖器系、内分泌系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【授業計画】

回数	单元	内容	方法	講師	備考
1 2	消化器系	1.食道・胃の疾患 1)食道アカラシア、胃食道逆流症 2)胃・十二指腸潰瘍 3)胃炎 4)食道がん、胃がん 2.主な検査及び治療法 1)上部消化管内視鏡検査 2)上部消化管造影 3.主な治療法 1)食道再建術 2)内視鏡的ポリープ切除術 3)ピロリ菌除菌治療 4)胃切除術 5)胃全摘術	講義	島	
3 4		1.腸・腹膜の疾患と病態生理 1)大腸がん（結腸・直腸・直腸） 2)イレウス 3)過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、 4)クローン病 5)虚血性大腸炎、腹膜炎（急性・慢性）、虫垂炎 6)ヘルニア、憩室炎 2.主な検査法 3.主な治療法 1)手術療法 2)人工肛門造設術	講義		
5		1.肝臓の疾患 1)肝炎（急性・慢性） 2)肝硬変、門脈圧亢進症、肝不全 3)肝臓がん 2.主な検査法 1)門脈血管造影 3.主な治療法 1)肝庇護療法 2)インターフェロン療法 3)内視鏡的硬化療法 4)肝切除術 5)肝移植	講義		
6		1.胆嚢・膵臓の疾患 1)胆石症 2)急性胆嚢炎・胆管炎	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
		3)胆管がん 4)膵炎（急性・慢性） 5)膵臓がん 2.主な検査法 1)内視鏡的逆行性胆膵管造影（ERPD）、胆道造影 2)内視鏡的逆行性胆管膵管造影法 3.主な治療法 1)腹膜鏡下胆嚢摘出術			
7	生殖器系	1.性分化疾患 1)主な疾患の病態生理 (1)半陰陽 (2)性染色体異常 (3)遺伝子変異による性分化異常 2)主な検査法 3)主な治療 2.臓器別疾患 1)主な疾患の病態生理 (1)外陰の疾患 (2)膣の疾患 (3)子宮の疾患 2)主な検査法 3)主な治療	講義	古田	
8		2.臓器別疾患 1)主な疾患の病態生理 (4)卵管の疾患 (5)卵巣の疾患 (6)骨盤内炎症性疾患 2)主な検査法 3)主な治療	講義		
9		3.機能的疾患 1)疾患の病態生理 (1)月経異常・月経随伴症状 (2)更年期障害 (3)不妊症 (4)不育症 2)主な検査法 3)主な治療	講義		
10		4.乳腺の疾患 1)疾患の病態生理 (1)乳腺炎 (2)乳腺症 (3)線維腺腫 (4)乳がん 2)主な検査法 3)主な治療	講義	横山	
11	内分泌系	1.内分泌系疾患の病態生理と検査法・治療 1)甲状腺疾患 (1)甲状腺機能亢進 (2)甲状腺機能低下症 (3)甲状腺炎 (4)バセドウ病 2)副甲状腺疾患 (1)副甲状腺機能低下症 (2)副甲状腺機能亢進症	講義	石井	
12		1.内分泌系疾患の病態生理と検査法・治療 1)副腎皮質・髄質疾患 2)腫瘍 (1)下垂体腫瘍 (2)甲状腺癌	講義		
13		2.代謝異常の疾患の病態生理と検査法・治療 1)糖尿病	講義		
14		2.代謝異常の疾患の病態生理と検査法・治療 1)脂質異常症 2)高尿酸血症、痛風	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
15		3.体液調節の疾患の病態生理と検査・治療 1)水・電解質の異常 (1) 低ナトリウム血症      (2) 高カリウム血症 2)酸塩基平衡の異常 (1) アシドーシス      (2) アルカローシス	講義		
		終了試験			

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器系 医学書院  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サプリー イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】 ※15 時間（900 分）

- 1.消化器系疾患、女性生殖器系疾患、内分泌・代謝系疾患に関するナーシングチャンネル視聴
- 2.消化器系疾患、女性生殖器系疾患、内分泌・代謝系疾患の病態・症状・検査・治療の理解を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】保健医療論Ⅰ	【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】濱田浩朗	
【開講時期】第1学期	【配当年次】1年次
【所属・職位等】都城医療センター院長	

【授業における到達目標】

医学・医療の歴史的変遷について理解し、これからの時代における望ましい医療の在り方について学ぶ。また、国立病院機構及び母体病院での医療の特徴を理解する。

【授業の概要】

医学や医療の現状と課題について学ぶことから、看護の学習へ発展させる。また、国立病院機能の役割と機能を理解し、さらに当院における医療の特徴と地域で担う役割について学ぶことで、地域のニーズに応じた医療について深めていく。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	1. 医学・医療の歴史 1)医学・医療の歴史 2)医学の進歩と発展 2. 人の生活を支える医療 1)ライフステージからみる病 2)家族形態の変化と医療 3)女性・男性の性別役割と疾病との関係	講義		
2	3. 健康と疾病 1)健康の概念 2)疾病の概念 3)生活と健康	講義		
3	4. 医学と医療 1)医学と医療の違い 2)医療における医師の義務と看護師の役割 3)多職種連携 4)医療機関の連携	講義		
4	5. グローバル化と健康への影響 1)グローバル化と感染症 2)日本国内に住む外国人の健康問題 3)日本の医療の国際展開	講義		
5	6. 国が担う医療 1)国立病院機構の役割と機能 2)診療事業 (1)5 疾病 がん・精神・脳卒中、糖尿病・急性心筋梗塞	講義		
6	7. 国が担う医療 1)診療事業 (1)5 事業 救急医療・災害医療・周産期医療・小児医療・小児救急・へき地医療 (2)セーフティネット分野の医療	講義		
7	8. 国が担う医療 1)臨床研究事業 2)都城医療センターの医療 (1)都城医療センターの特徴 (2)都城医療センターが地域で担う役割	講義		
8	終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

医療の現状と課題について学ぶことから、保健医療全般についての理解を深め、看護の学習へ発展させる内容であるため、看護学概論の学習進度が進んだ段階で計画する。

【試験・課題等の内容】

課題は適宜提示する。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 メヂカルフレンド社

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

## 専門分野

【科目】看護学概論	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】山本真由美 <sup>1)</sup>	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】1)教育主事	
【実務経験】1)看護師年 16 年	

### 【授業における到達目標】

1. 看護の本質を理解し、「看護とは何か」について自分の言葉で説明できる。
2. 看護の主要概念（人間・健康・環境・看護）について、各看護理論家の考えを調べて説明できる。
3. 看護の対象である人間を理解し、人々の健康を守るために看護職が果たすべき役割について述べることができる。
4. 看護における様々な倫理的課題に向き合い、倫理に基づいた行動の在り様を考えることができる。
5. 保健・医療・福祉サービスの連携と継続看護の必要性について説明できる。
6. 現代の社会情勢から、看護職に求められている役割と機能について考え、自己の見解を述べることができる。

### 【授業の概要】

本科目は、看護の本質、看護の定義、看護の対象である人間の理解や人々の健康のために果たすべき看護の役割と機能など、「看護」とは何か、看護師として果たすべき役割とは何かを考え、追求していく科目である。したがって、一方的に講義を受けるだけでなく、グループワークや課題学習を行い、主体的に学びを深めていく中で看護に対する関心を高めていく授業である。本科目の学習内容は全ての看護学の基盤となる考えであり、ここで学習する内容は単なる知識の習得ではなく、看護職者としての姿勢や態度の形成にも影響する。

授業内容としては、「看護の本質」、「看護の主要概念の理解」、「看護の対象の理解」、「人々の健康と健康増進に向けた支援」、「看護の質保証」、「看護倫理」、「チーム医療と継続看護」、「グローバル社会と看護」について学ぶ。

### 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	看護の基本となる概念	1.看護の本質 1) 看護の定義 2) 看護の役割と機能 3) 看護の変遷	講義	山本	
2		1.看護の基盤となる哲学、社会的考え方 1) システム理論（ベティ・ニューマン） （1）恒常性の維持 2) マズローの欲求 5 段階説 3) ケアリング（ミルトン・メイヤロフ）	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
3～5		1.看護理論と看護 1) 看護理論家の考え方 (1) 看護理論家の功績 (2) 理論の概要 (3) メタパラダイム (人間・健康・環境・看護) <<看護理論家>> ・フローレンス・ナイチンゲール ・ヴァージニア・ヘンダーソン ・シスター・カリスタ・ロイ ・ドロセア・E・オレム ・ヒルデガード・E・ペプロウ ・アーネスティン・ウィーデンバック ・アイダ・ジーン・オーランド ・マーガレット・ジーン・ワトソン ・ジョイス・トラベルビー ・マーサ・E・ロジャーズ	講義 演習		
6	看護の対象	1.看護の対象の理解 1) 成長・発達する存在としての人間 (1) 成長・発達の概念 (2) ライフサイクルと発達課題 (エリクソン、ピアジェ) 2) 生活者としての人間 3) 看護の対象としての家族・集団・地域	講義		
7・8	健康の概念	1.人々の健康と生活 1) 健康の捉え方 (1) 健康の定義 (2) 健康観 2) 健康レベル 3) 健康に影響する要因 4) 疾病と障害 5) 健康の実現 (1) ヘルスプロモーション (2) プライマリ・ヘルスケア 2.国民の健康状態 1) 健康に関する指標 (保健統計) 3.各ライフサイクルにおける健康上の課題とその予防 4.健康増進に向けた看護の役割	講義 演習		
9	看護の役割と機能	1.看護実践と質保証 1) 看護の感性和観察 2) 安全・安楽・自立に向けた援助 (1) 安全性と安楽性 (2) 自立の促進 3) 倫理的配慮とプライバシー保護 4) 看護過程の展開とクリティカルシンキング 5) 科学的根拠 (EBM、EBN) を追求する姿勢 6) 患者・家族への説明と助言 (1) インフォームド・コンセント (2) アドボケートとしての役割 7) 看護職者個々の自己研鑽 2.QOL の維持・向上に向けた支援	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
10・11		1.看護における倫理 1) 倫理と法律 2) 患者の権利と養護 3) 倫理原則 4) 職業倫理 (1) 看護職者の倫理綱領	講義 演習		
12	看護活動の場と看護が果たすべき役割	1.主な看護活動の場と看護の機能 1) 看護提供の場の拡大 2) 看護の場に応じた看護活動 (1) 病院 (2) 在宅 (3) 学校 (4) 職場 (5) 地域・行政 2.保健・医療・福祉システム 1) 地域包括ケアシステムの考え方	講義		
13		1.チーム医療と継続看護 1) チーム医療 (1) 多職種との連携・協働 (2) 看護師の役割 2) 継続看護 (1) 保健・医療・福祉の連携 (2) 病病連携、病診連携、看看連携 (3) 地域連携クリティカルパスの活用	講義		
14		1.グローバル社会と看護 1) 国際看護 (1) 異文化の理解 (2) 国際協力の仕組みと国際看護活動 (3) 在留外国人に向けた看護 2) 災害看護 (1) 災害の概念 (2) 災害看護とは (3) 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響 (4) 災害サイクルに応じた	講義		
15		1.「看護」について考える	演習		
		終講試験			

#### 【科目関連及び進度について】

基礎分野の「心理学」、「社会学」、「人間関係論」と関連があるが、進度としては同時進行あるいは本科目のほうが先行して学ぶことになる。本科目で学んだ内容を関連科目での学びにつなげていく必要がある。また、本科目の内容は、看護学を学ぶ基礎となるため、各看護学概論で発展的に学習を深めていくことはもちろん、「看護技術」ではケアリングの考えや安全・安楽・自立に向けた支援方法を考えていく上で重要となる。

ここで学ぶ看護法や看護倫理については、2年次で学ぶ専門基礎分野の「関係法規」や「保健医療論Ⅱ」と関連がある。専門職業人としての職業倫理に基づいた行動がとれるようになるよう、道徳や倫理だけでなく法律面を含めてさらに学習を深めていく。

#### 【試験・課題等の内容】

終了試験の内容

筆記試験は授業で教授した内容および関連するテキストの内容から出題する。



## 課題の内容

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

演習への取り組み状況・グループディスカッションへの参加状況も評価の対象とする。

## 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

## 【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院

看護覚え書 現代社

ザ・ロイ適応看護モデル 医学書院

NiCE 看護学テキスト 看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用 南江堂

NiCE 看護学テキスト 看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ 南江堂

看護六法 令和 8 年度 新日本法規

## 【参考文献】

国民衛生の動向

## 【授業外における学修方法及び時間】

基本的に、動画の視聴や調べ学習など、提示された課題を行うための学習時間が必要である。学習時間は提示される内容によって異なる（合計で 15 時間程度）。

また、講義内容の理解を深めるための事前学習・事後学習（テキストを読む、講義資料を見直す等）として、毎回最低でも 30 分の学習は必要である。

専門分野

【科目】看護理論	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】山本真由美 <sup>1)</sup>	
【開講時期】第2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】1)教育主事	
【実務経験】1)看護師年 16 年	

【授業における到達目標】

1. 大理論および中範囲理論の必要性を理解し、看護実践場面における看護理論の活用の実際を学ぶ。
2. 看護現象を意味づけし、実践の場で見られる対象の心理や行動の意味を考えることができる。

【授業の概要】

大理論及び中範囲理論の概要を理解し、理論を活用した事例への適用を学習していく。第 14・15 回目の講義では基礎看護学実習で受け持った患者の事例を使って、看護実践の意味付けを行う。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	1.看護理論の種類と内容 2.看護理論の実践への活用 3.ニード論（マズロー、ヘンダーソン）	講義	山本	看護技術Ⅶの授業が開始する前までに4 講目までの授業を受ける。
2	1.セルフケア理論（オレム看護論）	講義		
3・4	1.適応システム理論（ロイ看護論） 2.適応システム理論の臨床への活用	講義		
5	1.家族理論	講義		
6	1.病みの軌跡理論	講義		
7	1.自己概念 2.自尊感情 3.ボディイメージ	講義		
8	1.障害の受容過程 2.死の受容過程	講義		
9	1.危機理論 2.ストレス・コーピング理論	講義		
10	1.症状マネジメントモデル 2.コンフォート理論	講義		
11	1.エンパワーメント	講義		
12	1.行動変容ステージモデル	講義		
13	1.自己効力感	講義		
14・15	1.看護理論を用いた看護実践の検討	演習		基礎看護学実習Ⅰ終了後に受け持った患者の事例を用いて検討する。
	終講試験			

【科目関連及び進度について】

看護学概論で学んだ内容をもとに、具体的な事例を考えながら看護実践への意味づけを行っていく。これらの学びがさらに各看護学方法論につながり、さらには看護学実習へと発展していく。特に専門実習においては対象の理解と看護介入の方法を決定していく過程において本科目で学習した内容を活かすことができる。3年次の統合看護技術（課題研究演習）のケーススタディを行う際に、本科目で学んだ中範囲理論を用いることとなる。

【試験・課題等の内容】

終了試験の内容

筆記試験は授業で教授した内容および関連するテキストの内容から出題する。

課題の内容

事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

NiCE 看護学テキスト 看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用 南江堂  
事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 日総研

【参考文献】

看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研

【授業外における学修方法及び時間】

提示された課題を行うための学習時間が必要である。また、各理論を理解するための自己学習は必須である（合計で 15 時間程度）。

## 専門分野

**【科目】** 看護技術 I  
**【単元】** 1) 看護技術の概念 2) コミュニケーション技術 3) 感染防止の技術 4) 安全の確保  
**【単位数・時間】** 1 単位(30 時間)  
**【担当講師】** 1) 今田南生人、2) 出口由美、3) 脇田由紀子、4) 西元智子  
**【開講時期】** 第 1 学期 **【配当年次】** 1 年  
**【所属・職位等】** 専任教員  
**【実務経験】** 1) 看護師 11 年、2) 看護師 18 年、3) 看護師 27 年、  
 4) 看護師 14 年 医療安全管理者 4 年

### 【授業における到達目標】

1. 看護技術の性質を知り、看護技術を修得する必要性を説明できる。
2. 看護におけるコミュニケーションの重要性を知り、基本的コミュニケーション技術を実践できる。
3. 感染防止の必要性を理解し、感染防止に関する知識・技術を習得することができる。
4. 医療安全における看護者の役割を知り、看護場面における安全確保の実践方法を説明できる。

### 【授業の概要】

この授業では技術の本質概念から人間を対象とした技術について学び、患者の生命と生活を守るための基本的な技術について学ぶ。

### 【授業計画】

回	単元	内容	方法	講師	備考
1	看護技術の概念	技術とは何か ・看護技術の特徴 ・看護技術の範囲 ・看護技術を適切に実践するための要素	講義	今田	
2	コミュニケーション技術	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義	出口	
3		プロセスレコード ・対人関係の振り返り	講義		
4		対人関係の振り返り ～プロセスレコードの援用～	演習		
5		・効果的なコミュニケーション ・コミュニケーション障害への対応 ・オンラインコミュニケーション	講義		
6		基本的コミュニケーション技術	演習		
7	感染防止の技術	1. 感染とその予防の基礎知識 2. 標準予防策の基礎知識	講義	脇田	
8		標準予防策 1) 衛生的手洗い 2) 個人防護具の着脱	演習		

回	単元	内容	方法	講師	備考
9		1. 感染経路別予防策 1) 接触予防策 2) 飛沫予防策 3) 空気予防策 2. 洗浄・消毒・滅菌	講義	脇田	
10		1. 無菌操作 2. 感染性廃棄物の取り扱い 3. 針刺し防止策 4. 医療施設における感染管理	講義		
11		無菌操作 1) 清潔区域 2) 滅菌包装の開き方 3) 滅菌物の取り出し方 4) 鉗子・鑷子の取り扱い	演習		
12		無菌操作 5) 滅菌手袋の着脱 6) ガウンテクニック 7) 消毒	演習		
13	安全の確保	・安全確保の基礎知識 1) 医療の安全確保と看護師の役割 2) 医療事故と医療過誤 ・インシデント・アクシデントレポート	講義	西元	
14		・誤薬防止 ・チューブ類の事故防止 ・患者誤認防止	講義		
15		・転倒・転落防止 ・薬剤・放射線曝露の防止	講義		
		終了試験			

#### 【科目関連及び進度について】

看護技術を学ぶ基礎的内容であり、看護学概論と同時期に開講する。

#### 【試験・課題等の内容】

- ・試験  
講義での教授内容とそれと関連するテキストの内容の理解を問う。
- ・課題  
随時課題を提示する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

#### 【テキスト】

①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

## ②根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術

### 【授業外における学修方法及び時間】

授業の予習と復習を必要とする。予習は【授業計画】に示す内容に該当するテキストの内容を読み、分からないことを明確にしておく。復習は講義内容を振り返り、理解を深めるとともに知識の定着を図る。演習における予習は、ナーシングチャンネルの視聴、テキストを用いて基本動作を確認して臨む。

講義ごとの予習と復習には1時間程度（科目全体で15時間）要する。

専門分野

【科目】看護技術Ⅱ

【単元】環境<sup>1)</sup>、活動・休息<sup>2)</sup> 【単位数・時間】1単位(30時間)

【担当講師】1) 脇田由紀子 2) 今田南生人

【開講時期】第1学期

【配当年次】1年

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】1) 看護師27年 2) 看護師11年

【授業における到達目標】

1. 患者の生活環境を整える意義と根拠に基づいた環境調整技術を習得できる。
2. 人間の身体構造や機能使い、効率的な動作を行うための身体を使う技術を習得できる。
3. 生活を整えるための活動、睡眠・休息を促す援助技術を習得できる。
4. 苦痛を軽減し、安楽を促す援助技術を習得できる。

【授業の概要】

- 1) 環境や環境調整技術の基本的知識を学習し、その知識を活用しながらベッドメイキング、臥床患者のリネン交換の援助技術を習得する。
- 2) 基本的活動の知識を学習し、その知識を活用して人間の基本的な生活行動である移動の援助技術を習得する。
- 3) 睡眠・休息の基本的知識を学習し、環境や活動で得た知識を統合しながら休息を促す援助技術を習得する。

【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	環境	環境調整の援助の基礎知識 1. 環境とは 2. 環境と看護について 3. 病床環境とは 病床環境をとらえる視点 入院患者に共通する病床の物品	講義	脇田	
2		環境調整の援助の基礎知識 4. 病室の特徴 個室と多床室の違い 5. 病室における快適な療養環境の条件	講義		
3	環境	環境調整の援助の基礎知識 6. 病棟・病室の構造・機能 7. ベッドサイドの環境整備の視点・方法	講義		
4		ベッドメイキングの援助の実際 1. ベッドサイドの環境整備 2. ベッドメイキング交換の目的・方法	講義		
5	活動・休息	活動の援助 1. 基本的活動の基礎知識 1) よい姿勢 2) ボディメカニクス 2. 体位 体位の種類と特徴	講義	今田	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
6	環境	環境調整の援助 1. ベッドサイドの環境整備 2. ベッドメイキング	演習	脇田	20名ずつ
7	活動・休息	活動の援助 3. 移動 1) 体位変換 体位変換の基礎知識 2) 歩行の援助 ①自力歩行 ②杖歩行 ③歩行器	講義	今田	
8		活動の援助 3) 車椅子での移送援助 4) ストレッチャーでの移送援助	講義		*車いす移送は体験レポートを課す。
9		活動の援助 4. 体位変換 1) 水平移動 2) 仰臥位から側臥位 3) 仰臥位から長坐位 4) 長坐位から端坐位	演習		20名ずつ
10		活動の援助 5. 移乗の介助 1) 車いすへの移乗と移送 2) ストレッチャーへの移乗と移送	演習		20名ずつ
11		睡眠・休息の援助 1. 睡眠・休息の基礎知識 2. 睡眠・休息を促す援助	講義		
12	活動・休息	苦痛の緩和・安楽確保の技術 1. 体位保持の基礎知識 2. 廃用症候群を予防する援助 1) 体位保持（ポジショニング） 2) 関節可動域訓練 3. 菴法 4. リラクセーション	講義		
13		苦痛の緩和・安楽確保の技術 体位保持（ポジショニング）の実際	演習		
14	環境	環境調整の援助① 臥床患者の環境整備・リネン交換	演習	脇田	第13回、第14回は連続で実施する。
15		環境調整の援助② 臥床患者の環境整備・リネン交換			
		終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

看護物理学第6回履修後から本科目第4回を履修するのがのぞましい。

解剖生理学Ⅱ（身体の支持と運動）履修後から、本科目第7回を履修するのがのぞましい。



【試験・課題等の内容】

演習に臨むにあたりテキストと動画を活用し、技術の根拠、要点、必要物品等の事前学習を必要とする。技術チェックは、「①ベッドメイキング」、「②仰臥位にある患者の車椅子への移乗」を行う。十分に自己練習に取り組んで受験することを課す。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	○

【技術チェック】「ベッドメイキング」、「車椅子への移乗」

技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。学生は、技術チェックについては、必ず年度内に合格する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

【参考文献】

＜環境＞

看護覚え書 フローレンスナイチンゲール

＜活動、睡眠・休息＞

- 1) 学ぶ・活かす・共有する看護ケアの根拠と技術 第3版（医歯薬出版株式会社）
- 2) 新訂版 写真でわかる 実習で使える看護技術アドバンス（インターメディカ）
- 3) からだの地図帳 新版（講談社）
- 4) 完全版 ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー（Gakken）

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は、本科目に関連するナースングチャンネルの視聴、テキストを用いて技術練習を行う。技術の習得ができるまで反復練習を要する。

## 専門分野

**【科目】** 看護技術Ⅲ  
**【单元】** (食事 排泄)  
**【単位数・時間】** 1 単位 (30 時間)  
**【担当講師】** 永田歩<sup>1)</sup> 脇田由紀子<sup>2)</sup>  
**【開講時期】** 第 1 学期 **【配当年次】** 1 年  
**【所属・職位等】** 専任教員  
**【実務経験】** 1) 看護師 18 年 2) 看護師 27 年

### 【授業における到達目標】

#### (食事)

1. 身体的・心理的・社会的側面から食の意味について考え、食生活を支えることの必要性が分かる。
2. 食生活を整えるための視点が分かる。
3. 食ること・飲むことに必要な機能について理解する。
4. 基本的な食事介助の方法を理解し、実践できる。
5. 非経口での栄養摂取の方法と管理について理解する。

#### (排泄)

6. 身体的・心理的・社会的側面から排泄の意味について理解できる。
7. 排泄のメカニズムや観察の視点が分かる。
8. 排泄援助の方法について理解できる。
9. 床上排泄における基本的な援助方法が実施できる。
10. 排泄の援助を受ける対象の心身の苦痛について考えることができる。

### 【授業の概要】

この授業では看護の対象を生活者として捉え、解剖生理学や看護生理学で学習したことを活用し、根拠をもって「食べる」「排泄する」ことに関する対象の生活を整えるための基本的技術を学ぶ。演習では、事前課題をもとに「食べる」「排泄する」援助について、看護師役・患者役を体験することで、援助場面における倫理的課題についても検討する。

### 【授業計画】

回数	单元	内容	方法	講師	備考
1	食事	1. 食の意義 (身体的・心理的・社会的意義) 2. 現代社会の食生活 1) 日本における食の変遷 2) 食事に影響を与える因子 3) 食育について 3. 食ることに関するアセスメントの視点 1) 栄養アセスメント (1) 栄養状態の評価 (SGA・ODA) 栄養摂取量およびエネルギー必要量の基準 各栄養素の望ましい摂取量 (2) 食事摂取に関する身体機能 (運動機能・認知機能・感覚機能) 2) 水分・電解質バランスアセスメント 3) 食欲のアセスメント (1) 食欲や食に対する認識 4) 摂食・嚥下能力のアセスメント 5) 摂食行動のアセスメント 6) 食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント	講義	永田	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
		(1) 食事の環境 7) 医療施設で提供される食事の種類と形態 食事の種別と種類 特別食 食形態			
2		4. 食べること・飲むことのメカニズム 1) 摂食・嚥下のメカニズム(5期モデル) 5. 摂食・嚥下訓練について 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 (1) 実施前の評価 (2) 間接訓練 (3) 直接訓練	講義		
3		6. 自力摂取できない場合の看護 1) 食事介助の方法、留意点 ①食事の準備(患者の準備、環境調整) ②食事用自助具の選択 ③誤嚥防止の介助方法 ④食事中、食後の観察 7. 非経口的栄養摂取 1) 経管(経腸)栄養法 ①栄養剤の種類と特徴②経鼻経管栄養法 ③胃ろうからの栄養法 瘻管法の評価 必要物品 実施方法 栄養物品の注入 注入中の観察 注入時以外の観察と管理 胃ろうカテーテルの抜去防止 口腔内の清潔 2) 経静脈栄養法(TPN、PPN) 中心静脈栄養法 中心静脈栄養法に伴う合併症の予防と早期発見 カテーテル挿入時の合併症 カテーテル留置による合併症 代謝関連合併症 長期の中心静脈栄養法に伴う合併症	講義		
4		食事介助の技術 1) 自力摂取できない場合の座位での食事介助 2) 自力摂取できない場合のベッド上での 食事介助 目的・適応 実施前の評価 患者への説明 実施方法 援助中の観察 食事後の援助	演習		
5		非経口的栄養摂取 1) 経鼻胃チューブ挿入について 禁忌 実施前の評価 必要物品 患者への説明 胃管挿入手順 胃管挿入時の位置確認 栄養物注入 経鼻経管栄養法の評価 2) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経鼻胃チューブの挿入 (2) 経管栄養の方法・管理について	講義 演習		
6	排泄	1. 排泄の意義(身体的・心理的・社会的意義) 2. 排泄の援助を行う際の基本的姿勢 援助を提供する看護師に求められる基本的姿勢 3. 排尿・排便に関する機能とメカニズム	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
		1) 自然排尿および自然排便の基礎知識 (1) 排尿のメカニズム 尿意・排尿反射と排泄行動 (2) 排便のメカニズム 食物の消化と糞便の形成 便意・排便反射と排泄行動 (3) 排泄機能と排泄行動 移動動作のアセスメント 治療上の安静制限 身体能力 心理・社会的状態アセスメント 生活情報			
7		4. 排泄に関する観察とアセスメントの視点 1) 排泄物の観察 排尿 排便 2) 身体的アセスメントの視点 (1) 排尿のアセスメント 量・回数・性状 排尿障害の有無 尿失禁 (2) 排便のアセスメント 量・回数・性状 自覚症状 便失禁 視診・触診、聴診のフィジカルアセスメント 3) 心理的アセスメントの視点 4) 社会的アセスメントの視点 (生活習慣、排泄に関する価値観) 患者の状態に応じた援助の決定	講義	脇田	
8		5. 自然排尿および自然排便を促す援助の方法 1) 患者の状態に応じた援助の決定について (1) トイレでの排泄介助 (2) ポータブルトイレでの排泄援助 (3) 床上排泄(尿器・便器)の援助 目的 実施前評価 必要物品 患者への説明 実施方法 実施後の 評価・記録 (4) おむつによる排泄の援助 目的 実施前評価 必要物品 患者への説明 実施方法 実施後の評価・記録	講義		
9		床上排泄の援助(尿器)	演習		
10		床上排泄の援助(便器)	演習		
11		6. 排泄障害への援助 1) 尿失禁・便失禁 2) 尿失禁・便失禁の原因と対応	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
12		7. 排便障害への援助 援助の基礎知識 援助の実際 1) 便秘への援助 排便を促す援助の基礎知識 排便のアセスメント 便秘改善のための看護ケア 食生活の見直しと調整 日常生活行動の調整 腹部マッサージ 温電法 2) 摘便について 3) 浣腸について 目的 適応 禁忌 実施前評価 患者への説明 実施方法 実施中・後の評価・記録 4) ストーマケア (1) 援助の基礎知識 ストーマの分類 ストーマ装具 (2) 援助の実際 ストーマからの排泄方法 ストーマ装具の交換方法 実施前評価 必要物品 患者への説明 実施方法 実施中・後の評価・記録	講義		
13		浣腸の援助	演習		
14		8. 排尿障害への援助 1) 尿閉について 2) 導尿(一時的導尿・持続的導尿)の方法 3) 持続的導尿の管理について 目的 適応 禁忌 実施前評価 必要物品(無菌操作での物品準備) 患者への説明 実施方法 実施中・後の評価・記録	講義		
15		導尿(一時的導尿)の援助	演習		20名ずつ
		終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

解剖生理学Ⅰ(消化器系、腎・泌尿器系)と看護生理学にて「食べる」「排泄する」を関連させながら学ぶ。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションおよび演習の前後にはレポート課題を提示する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	○

**【テキスト】**

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）  
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

**【参考文献】**

看護技術プラクティス第3版（学研メディカル秀潤社）  
看護技術がみえる2（メディックメディア）

**【授業外における学修方法及び時間】**

次回の授業に対する事前の課題を提示する。

専門分野

【科目】看護技術Ⅳ

【単元】清潔・衣生活

【単位数・時間】1 単位（30 時間）

【担当講師】永田 歩<sup>1)</sup> 田尻 朝恵<sup>2)</sup>

【開講時期】第 1 学期 【配当年次】1 年 【所属・職位等】1) 2) 専任教員

【実務経験】1) 看護師 18 年 2) 看護師 13 年

【授業における到達目標】

1. 身体の清潔の意義を理解し、清潔・衣生活の援助の目的、方法について理解する
2. 清潔・衣生活のニーズを満たすための援助の方法を理解する
3. 安全・安楽に留意しながら、対象の清潔・衣生活を整えるための技術を習得する

【授業の概要】

清潔の意義とその援助の目的を理解し、対象の日常生活行動（ADL）に合わせた清潔・衣生活の援助を考える基礎的知識を学ぶ。

また、演習では、看護師役、患者役を体験することで、援助場面における対象が安楽に安心して援助を受けることについても検討する。

【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	清潔 ・ 衣生活	1. 清潔の意義 2. 清潔に影響を及ぼす因子	講義	永田	
2		1. 援助方法の種類 2. 整容の意義とその援助 1) 洗面 2) 眼・耳・鼻の清潔 3) 爪切り 4) ひげそり	講義		
3		口腔ケアの意義とその援助	講義		
4		援助の実際：口腔ケア・整容	演習		
5		1. 衣服を用いることの意義と選択 2. 病衣・寝衣交換の実際	講義		
6		援助の実際：病衣・寝衣交換	演習		20 名ずつ ※看護技術Ⅱ体位変換の演習終了後に開講する。
7		頭髮部の清潔援助 洗髪	講義		
8		援助の実際：洗髪	演習		20 名ずつ
9		皮膚の清潔援助 1) 入浴・シャワー浴 2) 清拭	講義	田尻	
10		援助の実際：清拭①	演習		20 名ずつ

回数	単元	内容	方法	講師	備考
11		援助の実際：清拭②	演習		20名ずつ
12		部分浴の清潔援助 1) 足浴 2) 手浴	講義		
13		援助の実際：足浴	演習		
14		陰部の清潔援助 陰部洗浄	講義		※看護技術Ⅲ終了後に開講する。
15		援助の実際：陰部洗浄	演習		
		終了試験(45分)	試験		

#### 【科目関連及び進度について】

解剖生理学Ⅰで学んだ皮膚の構造と機能、生体の防御機能と関連させて学ぶ。

また、陰部洗浄は、解剖生理学Ⅰの腎泌尿器系（男性生殖器）、解剖生理学Ⅱの生殖器系（女性生殖器）の履修終了後がのぞましい。

また、演習時には、看護技術Ⅱ（環境）で学んだ療養環境調整に関する技術や看護技術Ⅱ（活動・体位・休息）で学んだ安楽な姿勢・体位の保持や体位変換、ボディメカニクスに関する知識、看護技術Ⅲ（排泄）で学んだ床上排泄の援助に関する知識を用いて演習を行う。

#### 【試験・課題等の内容】

演習はテキストと動画を活用し、事前学習を必要とする。

技術チェックは、洗髪と清拭を行う。十分に自己練習に取り組んで受験することを課す。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

※洗髪の技術、清拭の技術についてはチェックに必要な講義、演習が終了後に行う。

技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。学生は、技術チェックについては、必ず年度内に合格する。

#### 【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）  
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

#### 【参考文献】

看護技術プラクティス（学研）  
新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）  
看護技術がみえる vol. 1 基礎看護技術（メディックメディア）  
看護技術ベーシックス（医学芸術新社）

#### 【授業外における学修方法及び時間】

自己学習時間は、本科目に関連する技術の動画の視聴、技術練習等に取り組む。



## 専門分野

【科目】看護技術VI	
【単元】フィジカルアセスメント	
【単位数・時間】1 単位 (30 時間)	【担当講師】西元 智子
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師 18 年

### 【授業における到達目標】

1. ヘルスアセスメントの必要性和構成する要素を説明できる。
2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメントをする必要性を理解し、実践方法を説明できる。
3. 視診、触診、聴診、打診の方法と留意点が説明できる。
4. バイタルサイン（体温、呼吸、脈拍、血圧、意識）の観察ができる。
5. 計測の方法と留意点が説明できる。
6. フィジカルアセスメントの目的と必要性を理解し、系統別のフィジカルイグザミネーションの方法がわかる。
7. 観察データをもとにフィジカルアセスメントができる。（正常と異常の判断）
8. 心理・社会状態をアセスメントする必要性と方法を説明できる。

### 【授業の概要】

1. 人の健康状態を身体・精神(心理)・社会的な視点からアセスメントするための基本的な知識、考え方、様々な情報収集方法について、講義と演習での実践体験を組み合わせながら学習を進める。バイタルサインの観察技術は、患者の生命反応を把握するための基本的かつ最も重要な技術である。正確な観察技術の身につけるため技術チェックによる技術修得を必須とする。
2. 看護記録のもつ意味を目的、留意点、構成要素から捉えていく。看護記録が患者の健康回復につながる資料となることと、一方で不適切な扱いが患者の人権を侵害につながることを学習する。

### 【授業計画】

回	内容	方法	担当	備考
1	・ヘルスアセスメント ・健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義	西元	
2	・全身状態・全体印象の把握	講義		
3	・フィジカルアセスメントに必要な技術 ・計測	講義		
4	バイタルサインの観察とアセスメント 体温、脈拍、呼吸、血圧、意識	講義		
5	バイタルサイン測定 体温測定・脈拍測定・呼吸測定	演習		技術 チェック有
6	バイタルサイン測定 血圧測定	演習		
7	呼吸器系フィジカルアセスメント	講義		
8	循環器系フィジカルアセスメント	講義		
9	呼吸・循環のフィジカルイグザミネーション 《呼吸音の聴診》《胸郭可動域》《心音の聴診》 《頸動脈の聴診と触診》《中心静脈圧の推定》	演習		
10	筋・骨格系フィジカルアセスメント	講義		

回	内容	方法	担当	備考
1 1	神経（中枢・末梢）系フィジカルアセスメント	講義		
1 2	運動・感覚系のフィジカルイグザミネーション 《膝蓋腱反射》《リンネテスト》《瞳孔と対光反射》 《関節可動域》	演習		
1 3	腹部のフィジカルアセスメント	講義		
1 4	腹部のフィジカルイグザミネーション 《腸蠕動音》《腹部血管音》《肺肝濁音界》 《スクラッチテスト》《浅い触診・浅い触診》	演習		
1 5	心理・社会状態のアセスメント	講義		
	終了試験			

【科目関連及び進度について】

解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学習した解剖生理の知識を用いながら学習をすすめていく。

【試験・課題等の内容】

・試験

講義・演習での教授内容とそれと関連するテキストに含まれる内容の理解を問う。

・課題

随時課題を提示する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

【テキスト】

- 1) フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる（医学書院）
- 2) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
- 3) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版（医学書院）

【参考文献】

- 1) フィジカルアセスメントがみえる 第1版（メディックメディア）
- 2) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学（医学書院）

【授業外における学修方法及び時間】

授業の予習と復習を必要とする。予習は【授業計画】に示す内容に該当するテキストの内容を読み、分からないことを明確にしておく。復習は講義内容を振り返り、理解を深めるとともに知識の定着を図る。第7回から第14回に係る系統別フィジカルアセスメントの予習では、解剖生理の知識を前提とするため、解剖生理学Ⅰ・Ⅱの既習学習内容を確認して臨む。

演習における予習は、テキストを用いて基本動作を確認して臨む。講義ごとの予習と復習には1時間程度（科目全体で15時間）要する。

## 専門分野

【科目】看護技術Ⅶ（看護過程展開技術）	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】西裕也	【開講時期】第 2 学期
【配当年次】1 年	【所属・職位等】専任教員
【実務経験】看護師 15 年	

### 【授業における到達目標】

看護過程の一連のプロセスを理解し、事例を用いて看護過程を展開することができる。

### 【授業の概要】

本授業では、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクションなどの看護過程を展開する際に基盤となる考え方をもとに看護過程展開技術について学ぶ。また、ロイ適応看護モデルの枠組みを用いて、実際に看護過程を展開し、情報収集や情報の分析・解釈、診断、計画立案、実施、評価の一連のプロセスについて学ぶ。

### 【授業計画】

回数	内容・方法	方法	講師	備考
1	看護過程とは	講義	西	
2	情報整理と行動のアセスメント（生理的様式）	講義 演習		
3				
4				
5				
6				
7	行動のアセスメント（自己概念様式、役割機能様式、相互依存様式）			
8	刺激のアセスメントと看護診断			
9				
10	関連図			
11				
12				
13	看護目標設定と看護計画立案			
14	看護計画に基づいた実施と評価 事前情報からの患者の状態のロールプレイング演習)			
15				

### 【科目関連及び進度について】

看護過程については、解剖生理学や病理学、看護技術、臨床看護総論などの知識を活用して理解につなげる。フィジカルアセスメントや症状別看護、治療論総論（手術療法）と並行し、進度を計画する。

### 【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

**【評価方法】**

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

**【テキスト】**

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）  
ザ・ロイ適応看護モデル（医学書院）  
看護過程に沿った対症看護（学研メディカル秀潤社）  
疾患別看護過程の展開（Gakken）  
看護診断ハンドブック第12版（医学書院）

**【参考文献】**

からだの地図帳（講談社）  
エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版（中央法規出版）

**【授業外における学修方法及び時間】**

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回事前学習を要する。

## 専門分野

【科目】看護技術Ⅷ

【単元】1) 経過に応じた看護 2) 経過に応じた看護に必要な技術

【単位数・時間】1単位（30時間） 【担当講師】1) 今田南生人 2) 一柳明日香

【開講時期】第2学期 【配当年次】1年 【所属・職位等】専任教員

【実務経験】1) 看護師11年、2) 看護師7年

### 【授業における到達目標】

1. 看護記録・報告および学習支援の基本的考え方を理解し、看護実践における意義を説明できる。
2. 急性期・回復期・慢性期・終末期といった経過に応じた看護の特徴と援助の視点を理解できる。
3. 臨床判断の概念および臨床判断モデルの構造を理解し、看護過程との関連を説明できる。
4. 一般的・典型的な人間の反応を踏まえ、患者の状況・背景・関係性から必要な情報に「気づく」ことができる。
5. 分析的推論・直観的推論・説話的推論を用いて、得られた情報を解釈し、説明できる。
6. 解釈に基づいた適切な援助（反応）を考え、実践につなげることができる。
7. 自身の援助について省察し、看護実践を振り返り、今後の課題を明確にできる。

### 【授業の概要】

本授業は、経過に応じた看護の理解と臨床判断力の育成を目的とし、講義と演習を組み合わせ構成する。

前半では、看護記録・報告、学習支援の基本、および急性期・回復期・慢性期・終末期における看護の特徴を講義により学ぶ。これにより、患者の状態変化を踏まえた看護の視点を整理する。後半では、臨床判断モデルを用い、「気づき」「解釈」「反応（援助）」「省察」のプロセスを段階的に学習する。紙上演習および実践演習を通して、一般的・典型的な人間の反応やコンテキストを踏まえた情報の捉え方、分析的・直観的・説話的推論による判断、判断に基づく援助の実践、さらに援助の振り返りと評価を行う。これらの学修を通して、学生が看護過程と臨床判断を統合的に理解し、根拠をもって看護実践を考えられる力を養うことを目指す。最終的に、終了試験により学修成果を評価する。

### 【授業計画】

回	単元	内容	方法	講師	備考
1	経過に応じた看護	急性期の看護の特徴	講義	今田	
2		回復期の看護の特徴	講義		
3		慢性期の看護の特徴	講義		
4		終末期の看護の特徴	講義		
5	経過に応じた看護に必要な技術	看護記録・報告	講義	一柳	
6		学習支援	講義		
7		臨床判断モデル ・臨床判断とは ・臨床判断モデルの構造	講義		
8		臨床判断モデルを取り入れた実践トレーニング① ～「気づき」につなげるトレーニング～ 一般的・典型的な人間の反応を知る (コンテキスト・背景・関係性の把握)	演習 (紙上)		
9		臨床判断モデルを取り入れた実践トレーニング② ～「気づき」につなげるトレーニング～ 一般的・典型的な人間の反応を知る (気づきにつながる観察内容の整理)	演習 (紙上)		

回	単元	内容	方法	講師	備考
10	経過に応じた看護に必要な技術	臨床判断モデルを取り入れた実践トレーニング③ ～「気づき」のトレーニング～ 予期・初期把握	演習 (実践)	一柳	
11		臨床判断モデルを取り入れた実践トレーニング④ ～「解釈」のトレーニング～ 分析的推論	演習 (紙上)		
12		臨床判断モデルを取り入れた実践トレーニング⑤ ～「解釈」のトレーニング～ 直観的推論	演習 (紙上)		
13		臨床判断モデルを取り入れた実践トレーニング⑥ ～「解釈」のトレーニング～ 説話的推論	演習 (紙上)		
14		臨床判断モデルを取り入れた実践トレーニング⑦ ～「反応（援助）」のトレーニング～ 解釈したことに基づく援助の実践	演習 (実践)		
15		臨床判断モデルを取り入れた実践トレーニング⑧ ～「省察」のトレーニング～ 援助の振り返りと評価	演習 (紙上)		
		終了試験			

【科目関連及び進度について】

解剖生理学、病理学の一部、看護生理学と看護技術Ⅶ（看護過程）の学修内容を活用することで臨床判断に繋がる思考、臨床判断に基づく看護実践について理解が深まる。

【試験・課題等の内容】

適宜課題提示する。授業を踏まえた内容を問う試験を行う。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

【テキスト】

- ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院
- ・系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学Ⅳ 医学書院

【参考文献】

適宜紹介する

【授業外における学修方法及び時間】

授業の他 15 時間程度の学修に要する。授業に臨むにあたり、提示された課題に取り組み、課題を明確にもって授業を受ける必要がある。

【科目】地域看護概論	【単位数・時間】1 単位(15 時間)
【担当講師】西元 智子	【開講時期】第 1 学期
【配当年次】1 年次	【所属・職位等】専任教員
【実務経験】看護師 18 年	

【授業における到達目標】

1. 地域で暮らす人々の生活と多様性を理解し、地域の環境が人々の生活に及ぼす影響を説明できる。
2. 生活と健康をめぐる社会の動向をとらえ、地域におけるケアの必要性について説明できる。
3. 地域・在宅看護論の目的、機能、対象、活動の場・内容について説明できる。
4. 地域で暮らす人々の健康を支援する多職種について説明できる。
5. 地域共生と地域包括ケアシステムについて説明できる。
6. 地域・在宅看護に関連する法と制度について説明できる。
7. 地域・在宅看護の基本となる倫理について、説明できる。

【授業の概要】

本科目の目的は、地域で生活する人々とその家族の健康を支援するために基盤となる考え方を学ぶことである。

身近な人々の生活から地域社会の理解と人々の生活のありようを学ぶ。

地域における生活と健康を支えるための法や制度の概観を踏まえた上で、地域・在宅看護の機能、対象、理念、地域における看護実践の変遷や基本倫理について理解する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	方法	講師	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の暮らす多様性</li> <li>人口構成・産業構造</li> <li>・地域包括ケアシステムと地域共生社会</li> <li>地域包括ケアシステム</li> <li>地域包括ケアシステムの構成要素</li> <li>地域包括ケアシステムと「自助・互助・共助・公助」</li> <li>地域包括ケアシステムの推進</li> <li>・地域共生社会</li> </ul>	講義	西元	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしを支える地域・在宅看護</li> <li>「暮らしを支える看護」と実践</li> <li>暮らしに関連する環境</li> <li>暮らしの環境を整える看護</li> <li>看護師に求められる態度・知識・姿勢</li> <li>広がる看護の対象と提供方法</li> <li>健康に対する人々のニーズ</li> <li>看護の実践方法の広がり</li> <li>人々の健康ニーズにこたえる看護</li> </ul>	講義		
3	在宅療養者のいる家族の理解と健康課題 家族の定義、家族の機能、キーパーソン、家族発達論、 家族システム論、生活様式	講義		
4	地域・在宅看護に関する制度：医療保険制度、医療介護 総合確保推進法、障害者総合支援制度、難病法	講義		
5	地域・在宅看護の変遷 地域・在宅看護に関する制度：介護保険制度 ケアマネジメントの概念と機能	講義		

回数	内容（方法）	方法	講師	備考
6	地域の多様な場における看護職の役割 訪問看護の役割、訪問看護の制度	講義	西元	
7	地域・在宅看護における倫理 在宅療養者の権利擁護、虐待防止、個人情報の保護と管理 サービス提供者の権利の保護 看護における倫理の4原則を踏まえ、地域・在宅看護論における倫理的課題の特徴と人々の尊厳と権利を守る解決法について考える。	講義		
8	終了試験	講義		

#### 【科目関連及び進度について】

本科目での学びを2年次の「公衆衛生学」や3年生の「家族関係論」へつなげる。本科目における「地域で暮らす人々の生活と健康を支えるケア」の学びを土台に各看護論の社会の動向、対象理解、ケアを考える。

#### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

レポート課題は、授業中に提示する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

#### 【テキスト】

系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1（医学書院）

系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2（医学書院）

#### 【参考文献】

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

#### 【授業外における学修方法及び時間】

毎回シラバスで授業範囲を確認し、テキストを読んで授業に臨む。

居住する地域のことや社会の動向に日ごろから関心を寄せる。ニュースや新聞記事に目を向け、学習に役立てる。

演習課題に対しては、授業時間内だけでなく、自己学習時間を活用しレポートにまとめる。



専門分野

【科目】成人看護学概論	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】田尻朝恵	
【開講時期】通年	【配当年次】1年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師13年

【授業における到達目標】

1. 成人期にある対象を理解するために各期の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。
2. 成人期にある対象を取り巻く社会の環境や生活の影響による健康課題を理解する。
3. 成人の健康の動向と対象とした保健・医療・福祉政策について理解する。

【授業の概要】

成人各期（青年期、壮年期、向老期）の身体的・精神的・社会的特徴と成人を取り巻く社会的な環境や役割の変化により生じる健康課題を学び、成人看護の対象を理解する。また、成人の健康問題と保健・医療・福祉対策を学ぶ。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	ライフサイクルからみた成人期① 法律上の成人、身体的側面からみた成人、精神・社会的側面からみた成人	講義	田尻	
2	ライフサイクルからみた成人期② ライフサイクルと発達課題、生涯発達と成人	講義		
3	青年期の身体的・精神的・社会的特徴	講義		
4	壮年期の身体的・精神的・社会的特徴①	講義		ワークを含む
5	壮年期の身体的・精神的・社会的特徴②	講義		ワークを含む
6	向老期の身体的・精神的・社会的特徴	講義		
7	成人期にある人と職業生活① 働くことの意味	講義		
8	成人期にある人と職業生活② 過労死など職場における様々な問題	講義		
9	成人期と家族① 成人期を生きる人と家族	講義		
10	成人期と家族② 多様な家族の姿と人生の選択、子どもを産み育てる	講義		
11	成人の健康と保健の動向	講義		
12・13	成人期各期における健康状態の特徴 青年期・壮年期・向老期に特徴的な健康問題	講義		
14	成人期を対象とした健康に関する政策と考え方 母子保健対策、生活習慣病対策、ヘルスプロモーション 成人学習理論	講義		

回数	内容	方法	講師	備考
15	成人期にある人を対象とした健康に関する考え方や理論 エンパワメント、健康行動理論、ストレスコーピング 障害受容、危機モデル	講義		
	終了試験(45分)			

#### 【科目関連及び進度について】

看護学概論の授業が開講した後、5月後半頃より開講予定  
2年次の成人看護方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにつながる科目である。

#### 【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。  
終了試験は授業で教授した内容から出題する。  
グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

#### 【テキスト】

新体系看護学全書 成人看護学Ⅰ 成人看護学概論／成人保健 メヂカルフレンド社

#### 【参考文献】

国民衛生の動向 厚生労働統計協会

#### 【授業外における学修方法及び時間】

- 1.成人各期の特徴について、課題を提示するため、事前課題に取り組む。内容についてはグループでまとめ時間内に発表し、内容を共有する。
2. 授業終了後に配布する課題に基づいて復習して、授業内容の理解を深める。次回の授業時に課題を提出し、授業開始時に小テストを行うので準備しておく。

専門分野

【科目】老年看護学概論	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】永田歩	
【開講時期】第1学期	【配当年次】1年次
【所属・職位等】専任教員	
【実務経験】看護師18年	

【授業における到達目標】

1. 高齢者の身体的、精神・心理的、社会的特徴がわかる。
2. 高齢者の生活状況がわかる。
3. 高齢者を取り巻く環境がわかる。
4. 高齢者に関連した保健医療福祉制度の現状と課題がわかる。

【授業の概要】

高齢者の自我発達に基本を置いたうえで、高齢者の身体的・心理的・社会的特徴や社会情勢の変化にともなう高齢者の生活の変化について学ぶ。さらに高齢者個々の状況に応じた看護の必要性や老年看護の理念や役割を学ぶ。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	1.老年看護学を理解するための基盤 1)人間発達論における老年期 人間発達論・発達段階・発達課題からとらえた老年期 2)老いを生きることの意味 3)加齢と健康 (1)老性変化 (2)加齢と疾病 (3)平均余命と健康寿命	講義	永田	
2	高齢者体験	演習		
3	1.高齢者を取りまく社会状況 1)人口構成と政策 2)社会的課題 (1)経済状況 (2)高齢者の孤立 (3)差別(エイジズム・スティグマ)と虐待 (4)ノーマライゼーション	講義		
4	1.高齢者を取りまく社会制度 1)社会制度 (1)高齢者に関する保健・医療・福祉の変遷 (老人福祉法・老人保健法・高齢者の医療の確保に関する法律) (2)医療保険制度 (3)高齢化と医療制度 (4)高齢者の人権に関する制度 (5)介護保険制度	講義		

回数	内容	方法	講師	備考
	(6)介護保険制度の仕組みと動向 2.地域活動 介護予防への転換		永田	
5	1.高齢者の生活の実態 1)高齢者を取り巻く社会的課題について調べる (1)経済状況：年金 (2)孤独死 (3)虐待の背景 (4)交通事情(免許返納) (5)老々介護	演習		
6	1.高齢者と家族 1)高齢者のいる家族の形態と機能 2)高齢者を介護する家族の理解 3)家族による高齢者介護の動向 4)高齢者を介護する家族の二面性 5)高齢者を介護する家族への支援の必要性のアセスメントの視点	講義		
7	1.高齢者の労働 1)高齢者の就労と雇用 2)高齢者にとっての労働の意味 2.高齢者の暮らしの場 多様な生活の場と生活様式 3.生活の場の移転 1)移行期に生じる高齢者のリロケーションダメージ 2)暮らしの場の選択における意思決定支援	講義		
8	1.老年看護の理念と目標 1)老年者の自我発達の特徴 2)老年看護の理念 3)老年看護の目標 2.老年看護に活用できる理論・概念 1)老年看護に活用できる健康の概念 2)サクセスフルエイジング 3)サクセスフルエイジングの考え方、意義 4)サクセスフルエイジングの考え方で捉える高齢者	講義		
9	1.老年看護の倫理 1)高齢者の尊厳を支える看護師の倫理的態度と倫理的課題と法的整備 2)身体拘束 3)意思決定の場での意思の確認軽視 4)日常ケアにおける意思の軽視 5)倫理的課題が気づかれにくい要因	講義		
10	高齢者の生活の実態	演習		
11	1.老年看護の対象理解、対象理解のためのアセスメント 1)高齢者特性	講義		

回数	内容	方法	講師	備考
	(1)からだ、こころ、かかわり、暮らし、生きがい (2)個別性と多様性 (3)自分の再吟味・再方向づけの模索 (4)高齢者のもつ文化と価値観 (5)生活史 2.対象把握のためのアセスメント 1)からだ (1)老化 (2)フレイル 2)からだの把握 (1)身体機能のアセスメント：老化の過程および生理学的観点 (2)こころや暮らし、かかわりによる影響 健康歴		永田	
12	3.対象把握のためのアセスメント 3)こころ 高齢者のこころの状態に影響する要因 4)こころの把握 高齢者のこころに関心を寄せ、理解しようと努力を続ける 5) かかわり 高齢者の立場からかかわりを理解する 6)かかわりの把握 かかわりが高齢者に与える影響 7) 暮らし 高齢者の生活環境 8)暮らしの把握 (1)日常生活機能(ADL、できる ADL、している ADL) (2)生活環境	講義		
13	9)生きがい 高齢者にとっての生きがいとは 10)生きがいの把握 (1)日々の役割、就労状況や社会活動などへの参加状況 (2)その人が価値を置いているものを見出す	講義		
14	1.高齢者の生活機能のアセスメント ICF（国際生活機能分類） 2.高齢者総合機能評価（CGA） 3.基本的日常生活動作（BADL）と手段的日常生活動作（IADL） 4.認知機能のアセスメント	講義		
15	1.高齢者の地域生活を支える多職種協働・連携 予防のための多職種協働・連携 2.療養生活のための多職種協働・連携 3.地域包括ケアシステムの構築に向けた協働・連携	講義		
	終了試験			

**【試験・課題等の内容】**

高齢者の理解を深めるために高齢者の特徴や生活の実態を調べる課題等を示す。

**【評価方法】**

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

**【テキスト】**

看護学テキスト NiCE 老年看護学概論改訂第3版～「老いを生きる」を支えることとは～（南江堂）

**【参考文献】**

最新 老年看護学 第3版 水野敏子、水谷信子著

国民衛生の動向 2022/2023（厚生労働統計協会）

国民の福祉と介護の動向 2022/2023（厚生労働統計協会）

**【授業外における学修方法及び時間】**

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

## 専門分野

【科目】老年看護方法論Ⅰ                      【単位数・時間】1単位（30時間）  
 【担当講師】永田 歩<sup>1)</sup>    本村真理亜<sup>2)</sup>  
 【開講時期】第2学期                      【配当年次】1年次  
 【所属・職位等】1)専任教員、2)南九州病院皮膚排泄ケア認定看護師  
 【実務経験】看護師18年

### 【授業における到達目標】

1. 加齢変化による生活への影響が分かる。
2. 老年期特有の生活機能障害をアセスメントし、高齢者の健康生活を支援する援助方法がわかる。
3. 高齢者の自立を目指した具体的な援助方法が理解できる。

### 【授業の概要】

高齢者に生じる特有の生活機能障害を取り上げて、アセスメントと予防・補完・代替・調整の視点で高齢者の自立を目指した具体的な援助方法を学ぶ。

### 【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	1. 老年看護の基本的技術 1) 老年看護におけるヘルスアセスメント 2) 高齢者の示す症状の特徴 3) ヘルスアセスメントの実際 4) 身体所見のとり方と老年看護におけるポイント	講義	永田	
2	1. 高齢者の生活と看護【動作と移動】 1) 高齢者における動作と移動とは 2) 動作と移動の特徴 3) 動作・移動能力に影響する要因 2. 高齢者に特徴的な症状と看護 1) 起立・歩行障害 (1) 老年性歩行 (2) サルコペニア (3) 虚弱化(フレイル)化のサイクル	講義		
3	1. 高齢者の生活と看護【コミュニケーション】 1) 高齢者のコミュニケーションとは 2) 高齢者のコミュニケーションの特徴 3) 高齢者のコミュニケーションに影響する要因 2. 高齢者に特徴的な症状と看護 1) 感覚機能障害 (1) 白内障を予防する (2) 老人性難聴を予防する (3) 感覚機能障害のある高齢者の安全に配慮した環境への支援 (4) 感覚機能障害を代償する日常生活の自立に向けた支援	講義		

回数	内容	方法	講師	備考
4	1. 高齢者の生活と看護【食事】 1) 高齢者における食事とは 2) 高齢者の摂食機能の特徴 3) 高齢者の食生活の特性と生活への影響	講義	永田	
5	1. 高齢者の生活と看護【食事】 1) 高齢者の食生活を支援する上でのアセスメントと看護 2) 食形態の工夫 3) 口腔ケア(義歯ケア) 4) 誤嚥を予防するポジショニング	演習		
6	1. 高齢者の生活と看護【排泄】 1) 高齢者における排泄とは 2) 高齢者の排尿・排便の特徴と生活への影響 3) 高齢者の排尿・排便のアセスメントと看護	講義		
7	1. 高齢者の生活と看護【清潔】 1) 高齢者における皮膚の清潔とは 2) 高齢者の皮膚の特徴 3) 高齢者の皮膚保護機能に影響する要因	講義		
8	1. 高齢者に特徴的な症状と看護 1) 褥瘡 (1) 褥瘡予防ケア (2) スキンケア	講義	本村	
9	1. 高齢者の生活と看護【排泄】 高齢者のおむつ交換	演習	永田	
10	1. 高齢者に特徴的な症状と看護 1) 転倒 (1) ロコモティブシンドローム (2) 骨折 2) 脆弱性骨折を予防する 3) 骨粗鬆症	講義		
11	1. 高齢者の生活と看護【睡眠】 1) 高齢者における睡眠とは 2) 高齢者の睡眠の特徴 3) 高齢者の睡眠に影響する要因	講義		
12	1. 高齢者の生活リズムを整える看護 1) 高齢者と生活リズム 2) 高齢者に特徴的な生活リズムの変調 3) 睡眠と覚醒の変化と生活リズムへの影響 4) 生活行動の変化と生活リズムへの影響 5) 昼間のケア 6) 夜間のケア	講義		
13	1. 高齢者の生活と看護【性】 1) 高齢者における性とは 2) 高齢者の性の特徴 3) 高齢者の性機能に影響する要因	講義		



回数	内容	方法	講師	備考
	2. 高齢者に特徴的な症状と看護 老年症候群にみられる特有の症状と看護			
14	1. 高齢者に特徴的な症状と看護 1) 高齢者の感染に対する身体特性と行動特性 2) 高齢者によくみられる感染症 (1) 肺炎 (2) 尿路感染	講義		
15	1. 高齢者に特徴的な症状と看護 1) 高齢者によくみられる感染症 (1) 疥癬 (2) 感染性胃腸炎 2. 高齢者の感染発生予防ケア 施設における感染管理	講義		
	終了試験			

【科目関連及び進度について】

解剖生理学で学習した知識を活かしながら高齢者の身体機能と生活に及ぼす影響を理解する。

【試験・課題等の内容】

終講後に試験を実施する。

【評価方法】

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

【テキスト】

看護学テキスト NiCE 老年看護学概論改訂第3版～「老いを生きる」を支えることとは～  
(南江堂)

看護学テキスト NiCE 老年看護学技術改訂第3版～最後までその人らしく生きることを支援する～  
(南江堂)

【参考文献】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ (医学書院)

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)

生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版 (医学書院)

【授業外における学修方法及び時間】

1 時間程度の事前学習を要する。

専門分野

【科目】小児看護学概論	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】今田南生人	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師 11 年

【授業における到達目標】

- ・小児各期における発達段階の特徴と、小児及び家族を取り巻く環境を理解できる。
- ・小児看護における看護師の役割について理解できる。

【授業の概要】

健康な小児の成長・発達について理解し、児が健やかに育つための支援について児と家族の特徴をふまえて理解できるよう教授する。講義では、V T R 等も用いて児と家族がイメージできるよう授業を行っていく。

【授業計画】

回数	内容・方法	方法	講師	備考
1	小児看護の変遷と小児看護の役割	講義	今田	
2	諸統計からみた小児と家族の健康問題 小児と家族を取り巻く環境や施策	講義 グループ ワーク		小児と家族を 取り巻く環境 について調べ 学習
3				
4	乳児期の成長発達の特徴 乳児期の成長発達の支援 乳児期の健康問題	講義		
5				
6				
7				
8	幼児期の成長発達の特徴 幼児期の成長発達の支援 幼児期の健康問題	講義		
9				
10				
11	学童期・思春期の成長発達の特徴 学童期・思春期に見られる健康問題	講義		
12	小児の免疫と学校保健	講義		
13	小児における子どもの権利	講義		
14	子どもの権利条約 インフォームドコンセントとインフォーム ドアセント	講義		
15	小児における倫理	講義		
	終了試験(45 分)			

**【科目関連及び進度】**

看護学概論や専門分野Ⅰの知識をもとに小児看護学について学ぶ。また、本科目における学びは、小児看護方法論Ⅰ、小児看護方法論Ⅱと関連させて、発展させる。

**【試験・課題等の内容】**

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

**【評価方法】**

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

**【テキスト】**

小児看護学Ⅰ－小児看護学概論・小児看護技術－ 改訂第4版（南江堂）

**【参考文献】**

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

国民福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

**【授業外における学修方法及び時間】※15時間**

1.DVDを視聴し、小児の成長・発達についてイメージ化して理解する。

「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～0歳児」

「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～1・2歳児」

「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～3・4・5歳児」

2. 生活援助に必要な看護技術に向けた課題への取り組み

専門分野

【科目】母性看護学概論 【単位数・時間】1 単位(30 時間)  
 【担当講師】 内村美子  
 【開講時期】第 2 学期 【配当年次】1 年  
 【所属・職位等】 元鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校副学校長 助産師

【授業における到達目標】

1. 母性の概念と母性看護の役割を理解できる。
2. 母性各期の特徴を理解し、健康の保持増進のための保健の必要性を理解できる。
3. 生命と倫理について考え、生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。

【授業の概要】

広い視野で母性看護の役割や生命倫理について学べるように教授する。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	1. 対象の理解と実践の基盤 1) 親性・母性・父性とは 2) 母性相互作用・愛着形成と親役割 (1) 母親役割 ① 母親役割の獲得過程 ② 母子相互作用の促進 (2) 父親役割 ① 父親役割概念 ② 現代の日本における父親役割 (3) 親役割の獲得過程	講義	内村	
2	1. 母子相互作用・愛着形成と親役割 1) 愛着に関する理論・概念 (1) 母子のきずなの概念 (2) ルービンがとらえた母親役割の獲得 (3) マーサーがとらえた母親役割の達成 (4) 母性意識の形成・発展と母親役割獲得過程	講義		
3	1. リプロダクティブ・ヘルスの基盤 1) 性と生殖に関する健康と権利 (1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツをめぐる動向と諸概念 2) 性 (セクシュアリティ) 3) セックスとジェンダー 4) 性的特徴 (セクシュアル・キャラクター) 5) 性の多様性	講義		
4	1. ウェルネスの概念 2. 女性を中心としたケア <Women-centered care> 1) 尊重 2) 安全 3) ホリスティック 4) パートナースhip 3. 家族を中心としたケア <Family-centered care> 1) 家族とは 2) 家族の発達と機能 3) 家族を中心にしたケア 4. プレコンセプションケア 5. 災害時における女性と妊産婦・新生児の支援	講義	内村	

回数	内容	方法	講師	備考
5	Ⅱ．母性看護を取り巻く環境 1. 母性看護の歴史的変遷 2. 周産期医療のシステム 3. 在留外国人の母子支援 1)統計にみる日本の国際化  2)在日外国人の母子保健 3)多様な背景をもつ人びとへの看護 4)在日外国人の母子保健上の課題とその支援	講義	内村	
6・7	母子保健をめぐる動向と制度 1)母子保健統計(1)人口動態(2)母子保健の現状 2)母子保健にかかわる法律と施策 (1)母子保健に関わる法律 ①母子保健法②児童福祉法③特別養子縁組④児童虐待の防止に関する法律⑤戸籍法⑥死産の届出に関する規程⑦母体保護法⑧特定妊婦⑨困難な問題を抱える女性への支援に関する法律⑩成育基本法⑪DV防止法 3)働く女性の健康・子育て支援に関する法律 (1)労働基準法 (2)男女雇用機会均等法 (3)次世代育成支援対策推進法 (4)育児・介護休業法 4)母子保健行政 5)21世紀の母子保健計画「健やか親子21」 6)切れ目のない母子支援（生育基本法） 7)周産期医療の体制と連携 (1)医療連携が必要となる背景(2)周産期医療連携の実際	講義		
8	赴任治療を受ける女性と家族への看護 1)不妊と看護 2)性と生殖に関する倫理的問題 (生殖補助医療、着床前・出生前診断、先天異常、人工妊娠中絶) 3)倫理上の問題に対する看護職者の役割	講義		
9	4)性と生殖における倫理的問題	G・W		
10	性周期と妊娠の成立 1)月経・排卵と女性ホルモン	講義		
11	2)基礎体温と月経周期			
12	3)心理・社会的特徴 4)思春期における健康教育 (初経準備教育、月経教育、性教育) 5)健康問題（月経異常、性感染症、人工妊娠中絶、摂食障害、貧血）と看護	講義		
13	Ⅲ.女性のライフサイクル各期の健康問題と看護 2．成熟期の看護 1)身体的特徴 2)心理・社会的特徴(結婚、出産、育児、就業) 3)成熟期における健康教育 4)健康問題（月経随伴症状、月経困難症）と看護	講義		

回数	内容	方法	講師	備考
14	<b>Ⅲ. 女性のライフサイクル各期の健康問題と看護</b> 3. 更年期の看護 1) 身体的特徴 2) 心理・社会的特徴 (空の巣症候群) 3) 健康問題 (更年期障害、尿失禁、骨粗鬆症、うつ) と看護 4. 老年期の看護 1) 身体的特徴 2) 心理・社会的特徴 3) 健康問題 (生殖器悪性腫瘍、精神疾患) と看護	講義		
15	<b>Ⅳ. リプロダクティブヘルス/ライツに関するケア</b> 1. 家族計画 2. 人工妊娠中絶 3. 性感染症 4. AIDS 5. ドメスティックバイオレンス 6. 児童虐待	講義		
	終了試験			

#### 【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅰの知識をもとに母性看護学を学ぶが、母子関係や思春期については小児看護学との関連、女性のライフサイクル各期の特徴と看護は、成人看護学および老年看護学と関連する。

#### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

#### 【テキスト】

母性看護学Ⅰ(概論)女性・家族に寄り添い健康を支えるウィメンズヘルスケアの追求 医歯薬出版株式会社

#### 【参考文献】

新体系看護学全書 母性看護概論／ウィメンズヘルスと看護 母性看護学① メヂカルフレンド社

病気が見える(9)婦人科・乳腺外科 メディックメディア

病気が見える(10)産科 メディックメディア

#### 【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 次回の授業に対する事前の課題や内容を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門分野

【科目】精神看護学概論	【単位数・時間】1 単位（15 時間）
【担当講師】田上 博喜	
【開講時期】2 学期	【配当年次】1 年次
【所属・職位等】国立大学法人 宮崎大学医学部看護学科	教授

【授業における到達目標】

1. 精神保健・看護のニーズと背景を理解し、精神看護学の基本的な考え方と精神看護の実践者として必要な視点と態度を説明できる。
2. 精神科医療の世界的な動向と日本の現状が説明できる。
3. 精神の健康と障害の状態について説明できる。
4. 精神障害を説明するモデル、発生メカニズム、予防と回復の概念を説明できる。
5. 心のはたらきと仕組み、自己の形成過程を説明できる。
6. 人間にとっての家族や集団の役割と意味を説明できる。
7. 精神疾患・障害をその治療の流れを歴史的・地域文化的背景から理解し、現在の日本の精神医学・精神医療の現状を説明できる。
8. 精神障害に係る法制度の目的を説明できる。

【授業の概要】

精神（心）の健康について脳科学や精神分析理論、成長発達、社会・環境との関連から学習する。また精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史的変遷を踏まえて人権尊重・権利擁護・リカバリーについて学習し精神看護実践の基礎となる考え方や態度を学ぶ。

【授業計画】

回	内容	方法	講師	備考
1	精神看護で学ぶこと 1. 精神看護学とはなにか 2. 精神障害をもつ人の「病」の体験と精神看護 3. 「心のケア」と日本社会 4. 精神看護の課題	講義	田上	
2	精神保健の考え方 1. 精神の健康とは 2. 心身の影響に及ぼすストレスの影響	講義		
3	精神保健の考え方 3. 心的外傷（トラウマ）と回復 4. 精神障害というとらえ方 5. 精神保健における3つの予防概念	講義		
4	心のはたらきと人格の形成 1. 心のはたらき	講義		
5	心のはたらきと人格の形成 2. 心のしくみと人格の発達	講義		
6	関係のなかの人間 1. システムとしての人間関係 2. 全体としての家族 3. 人間と集団	講義		
7	社会のなかの精神看護	講義		
	終了試験			

【科目関連及び進度について】

解剖生理学と心理学の終了後に開講する。

【試験・課題等の内容】

・試験

教授内容の理解を問う。

・課題

随時課題を提示する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護の基礎（医学書院）

【参考文献】

新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健（メヂカルフレンド社）

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

【授業外における学修方法及び時間】

講義内容の予習、復習や課題レポート等に講義前後 1 時間程度の学習を必要とする。



## 専門分野

【科目】基礎看護学実習Ⅰ（見学実習）

【単位数・時間】日常生活援助と併せて1単位（45時間）

【開講時期】6月

【配当年次】1年

【担当講師】脇田由紀子

所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師27年

### 【授業における到達目標】

1. 患者の入院生活の実際を知る。
2. 看護師が行っている看護活動の実際について理解する。
3. 対象との接し方の基本を学ぶ。

### 【授業の概要】

基礎看護学実習Ⅰ（見学実習）では、患者の療養生活や看護活動の実際を知り、患者の生活や看護師の役割についての理解を深める。

### 【実習期間】

令和8年6月10日（水）

### 【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

### 【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習Ⅰ（見学実習） 要項参照

### 【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習前に実習内容に関する事前学習を行う。
2. 実習前に実習内容に関する看護技術の練習を行う。

## 専門分野

【科目】基礎看護学実習Ⅰ（日常生活援助実習）

【単位数・時間】見学実習と併せて1単位（45時間）

【開講時期】1月

【配当年次】1年

【担当講師】脇田由紀子

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師27年

### 【授業における到達目標】

1. 健康障害が日常生活に影響を及ぼすことを理解し、患者が必要とする日常生活援助を理解できる。
2. 患者の必要とする日常生活援助技術を原理・原則に基づいた実践と評価ができる。
3. チーム医療の一員として求められることを能動的かつ主体的に行動できる。
4. 看護者としての姿勢・態度を身につけることができる。

### 【授業の概要】

基礎看護学実習Ⅰ（日常生活援助実習）では、患者の必要とする援助を明らかにして、原理・原則に基づいた日常生活援助を実施し評価し、その人らしく生活することを支える援助を学ぶ。

### 【実習期間】

令和9年1月12日（火）～令和9年1月22日（金）

### 【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

### 【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習Ⅰ（日常生活援助実習） 要項参照

### 【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習前に実習内容、受け持ち患者の疾患、治療、看護に関する事前学習を行う。
2. 実習前に対象に必要な日常生活援助の看護技術の練習を行う。

# 2 年次

## 目次

### 【基礎分野】

1. 倫理学
2. 看護英会話
3. スポーツ実技

### 【専門基礎分野】

1. 病理学Ⅳ
2. 病理学Ⅴ
3. 薬理学
4. 保健医療論Ⅱ
5. 公衆衛生学
6. 関係法規

### 【専門分野】

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1. 看護理論      | 11. 小児看護方法論Ⅱ    |
| 2. 看護技術Ⅴ     | 12. 母性看護方法論Ⅰ    |
| 3. 地域看護方法論Ⅰ  | 13. 母性看護方法論Ⅱ    |
| 4. 地域看護方法論Ⅱ  | 14. 精神看護方法論Ⅰ    |
| 5. 地域看護方法論Ⅲ  | 15. 精神看護方法論Ⅱ    |
| 6. 成人看護方法論Ⅰ  | 16. 看護研究        |
| 7. 成人看護方法論Ⅱ  | 17. 基礎看護学実習Ⅱ    |
| 8. 成人看護方法論Ⅲ  | 18. 地域看護論実習Ⅰ    |
| 9. 老年看護方法論Ⅱ  | 19. 成人・老年看護学実習Ⅳ |
| 10. 小児看護方法論Ⅰ |                 |

## 基礎分野

【科目】倫理学	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】中別府 温和	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】2 年
【所属・職位等】元 宮崎公立大学教授	

### 【授業における到達目標】

- ・人間が生きているとは何か、について「倫理学」の角度から自分のことばで語ることができる。
- ・よいとは何か、うつくしいとは何か、ただししいとは何かを問い続けることができるようになる。
- ・目的であると同時に義務でもあることを問い続け、且つ、それを行うことができるようになる。

### 【授業の概要】DP は本学のディプロマ・ポリシーを表しています。

担当者が配付する講義資料を使用して行います。ことばで丁寧に筋道を立てて語ることが大事にしますので、哲学者（研究者）のことばに直にふれながら学び合い、倫理的な問題がどこにどのように横たわっているのかを問う糸口を身につけます（DP「論理的思考に基づいて自ら判断し行動できる能力」）。そして、患者とわたしが一人の人間として生きていく途のりで、倫理的な課題のどこにどこまで応答することができるのかの可能性を検討します（DP「看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在としてとらえるとともに、生活者として理解し、その人らしく充実した生活を送ることを支援できる能力」「生命を尊重する心（生命の尊厳）と人間愛を基盤とした豊かな人間性」）。

### 【アクティブ・ラーニング】

各講義において、担当者と受講生との簡単なやりとり（問答）を試みます。また、第 2、第 6、第 8、第 10、第 11、第 14 講義では、10 分～15 分程度、受講生間の意見交換を行います。また、第 2、第 10、第 14 講義では、講義に先立ち受講生全員が提出したコメント（質問に対する意見）を講義内容に反映させる予定です。これらの主体的な学び合いを試みながら、本学のアドミッションポリシー「人に関心を持ち、人とのかかわることができる」「いろいろな人の話を聞き受け止める柔軟性と、自分の考えを表現できる想像力を持つ人」「志を高く持ち、自分の成長のための努力をする」に向かって歩を進めて行きます。

### 【授業計画】

回数	内容	備考
1	「哲学・倫理学」に求められている「知」とは何か －「倫理学」を学ぶときの基本的な態度と方法－	コメントカード ①
2	「わたしが一人の人間として生きている」ということ －このことをどこからどのように問うことができるか－	意見交換
3	「吟味のない生活というものは人間の生きる生活ではない」 －この発言の問うた意味はどこからどのように明らかにできるか－	
4	「知らないのに何か知っているように思っている」という最大の無知 －「知を愛し求めつづけて生きる」ということの意味は何か－	
5	「自分にとってよいと思われること」をしている自分と「自分が本当にのぞんでいること」をしている自分 －医療倫理とディレンマの問題－	
6	「よいとは何か」「うつくしいとは何か」「ただししいとは何か」という問い －徳（人間としてよく生きることのもつ或るかたち）の再検討－	資料 1 意見交換
7	「...とは何か」という問い －問うことができる・問わなければならない・問い続けて生きる－	
8	「わたしが一人の人間として生きている」ということ －「よいとされることをなせ」と「よいひとになれ」－ まとめて代えて	資料 2 意見交換

9	「目的」と「手段」という考え方ははらむ問題 －功利主義的な考え方の再検討－	コメントカード ②
10	「目的」としての幸福 －「何のために」という問いへの最終的な答えとしての幸福－	意見交換
11	「内的で絶対的な自由」と倫理的であることについて －「法」との対比による「忠実な家来の偽証」をめぐる譬えの再検討－	資料 3 意見交換
12	わたしの生を律しているものをどこからどのように問うことができるのか －「自然法」のもつ倫理的な意味と「正義」の再検討も含めて－	
13	「内なる自由」と「意志」 －「それ自体としてよいかわるいか」と問われること－	コメントカード ③
14	「義務であると同時に目的でもあること」とは何か －「目的を達成する手段としての行為」と「目的そのものとしての行為」－	意見交換
15	「倫理的である」ということはどのようなことか －「わたしたちはその人を尊敬しているのではなく、その人が打ち立てた倫理的な態度と方法を尊敬している」－ まとめに代えて	

#### 【科目関連及び進度について】

ことばによって考え、表現し、伝え合い、分かり合おうとするので「日本語表現法」との結びつきは深い。さらに、自然と歴史と社会から成り立つ現実において、且つ、矛盾と明暗両面が重なり合う場所で、在るとは何か、知るとは何か、為すとは何かを個と集団の両面で問い続け判断し行動するので、「社会学」「人間関係論」その他の科目との結びつきも深い。

#### 【試験・課題等の内容】

前半（第1～第8講義）および後半（第9～第15講義）の序論が終わった時点で、「試験問題（論述問題2題：前半1題と後半1題）」を公表します。

試験方法については、第7講義と第14講義において決定します。

#### 【評価方法】

授業中の態度（出席および担当教員との簡単なやりとりや受講生によるコメントメモなどを含む）（15%）、受講生間の意見交換を主とするグループワーク（15%）、試験（70%）で総合的に評価します。

#### 【テキスト】

テキストは使用しません。テキストに代わる講義資料は各回配付します。この講義資料は最終的には小冊子の体裁（「岩波ジュニア新書」程度の分量）になります。

#### 【参考文献】

講義資料の中で紹介します。

#### 【授業外における学修方法及び時間】

特にありません。

## 基礎分野

【科目】看護英会話	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】秦 節子	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】2 年
【所属・職位等】	

### 【授業における到達目標】

- ・英語を使って患者さんを相手に的確な対応ができるようになる。
- ・医療現場で使用される英語の語彙、表現に慣れる。

### 【授業の概要】

- ・患者さんとの英語でのコミュニケーションを想定した演習を通して、重要語句、表現を身につけていきます。
- ・2 回目の授業から、前回の学習事項に関する復習テストを実施します。

### 【授業計画】

回数	内容（方法）
1	Unit 1 First Visit to a Hospital 来院
2	Unit 2 How to Fill in a Registration Form 初診受付
3	Unit 3 Let' s Ask about Mr. Brown' s Daily Activities 生活習慣を聞く
4	Unit 4 Mr. Brown' s Symptoms 問診（1）
5	Unit 5 Medical Check Up 1 脈拍、血圧、体重の測定
6	Unit 6 Medical Check Up 2 採血、採尿
7	Unit 7 Mr. Brown' s Diagnosis 診断（1）
8	Unit 8 Mr. Anderson' s Symptoms 問診（2）
9	Unit 9 Let' s Ask More about Mr. Anderson's Symptoms 症状をより詳しく聞く
10	Unit 10 Explaining Blood Test Results 診断（2）
11	Unit 11 How to Take Medicine 薬の説明
12	Unit 12 Mrs. Johnson Feels Dizzy 問診（3）
13	Unit 13 An MRI Test MRI を受ける
14	Unit 14 Recommending an Operation 手術を勧める
15	Unit 15 Post-operative Care 術後のコミュニケーション
	最終試験

【試験・課題等の内容】

授業時に指定する重要語句、表現、および各種練習問題から出題します。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

First Aid! English for Nursing 看護英語への総合的アプローチ 金星堂

【参考文献】

辞書をご用意ください。

【授業外における学修方法及び時間】

復習テストの準備および事前に配布される予習課題に取り組んでください。

## 基礎分野

【科目】スポーツ実技	【単位数・時間】1単位（15時間）
【担当講師】榮樂 洋光	
【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・職位等】国立大学法人鹿屋体育大学	スポーツ・武道実践科系 講師

### 【授業における到達目標】

生涯スポーツ論で運動による心身への効果について学習したことを活用し、様々なスポーツ種目の特徴をふまえ、ルールやマナーを守って楽しむ実技を目指す。そのためにも準備や片付け等についても、協力しながら実践していく。更に障害を持つ人のスポーツについて理解する。

### 【授業の概要】

様々な種類のスポーツを通して、スポーツが身体に及ぼす影響への理解を深めていく。また、使用場所や環境に応じたルールやマナーを理解していく。更にはスポーツを通して仲間とのコミュニケーション作りについても深めていく。

### 【授業計画】

回数	内容（方法）
1	体育館を活用したスポーツ①
2	体育館を活用したスポーツ①
3	ゴルフ（練習場における打球、マナー）の実践
4	ゴルフ（練習場における打球、マナー）の実践
5	障がい者スポーツの紹介と実践、イニシアティブゲームの紹介と実践
6	障がい者スポーツの紹介と実践、イニシアティブゲームの紹介と実践
7	体育館を活用したスポーツ④
8	終了試験（45分間）

### 【試験・課題等の内容】

最終回にレポート課題

### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験		レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

### 【テキスト】

適宜、資料配付します。

### 【参考文献】

適宜、紹介します。

### 【授業外における学修方法及び時間】

各回のふり返し学習（種目、ルール等の学び、）を実施し、実践種目への理解を深める  
（各回1時間）



専門基礎分野

【科目】病理学Ⅳ（脳神経<sup>1)</sup>、骨・筋系<sup>2)</sup>、感覚器系：耳鼻<sup>3)</sup>、感覚器系：眼<sup>4)</sup>、感覚器系：歯<sup>5)</sup> 6)、  
感覚器系：皮膚<sup>7)</sup>） 【単位数・時間】2単位(45時間)

【担当講師】杉山崇史<sup>1)</sup> 吉川教恵<sup>2)</sup> 外山勝浩<sup>3)</sup> 上松健太郎<sup>4)</sup> 田畑雅士<sup>5)</sup> 新屋俊明<sup>6)</sup> 中山文子<sup>7)</sup>

【開講時期】第1学期

【配当年次】2年

【所属・職位等】

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1)宮崎大学医学部附属病院神経内科助教授 | 2)都城医療センター整形外科医長   |
| 3)都城医療センター耳鼻咽喉科部長    | 4)宮田眼科医師           |
| 5)都城医療センター歯科口腔外科部長   | 6)都城医療センター歯科口腔外科医長 |
| 7)都城医療センター皮膚科医師      |                    |

【授業における到達目標】

1. 脳・神経系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
2. 骨・筋系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
3. 皮膚の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
4. 眼の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
5. 耳鼻の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
6. 歯、口腔の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
1	脳神経系	主な症状・徴候と病態生理 1)意識障害 2)高次機能障害 3)運動機能障害 4)感覚機能障害 5)自律性のある機能障害 6)頭痛 7)めまい	講義	杉山	
2		脳血管障害（脳梗塞、脳出血） 1)病態生理 2)症状 3)検査 4)治療			
3		筋疾患及び神経感染症疾患 1)病態生理 2)症状 3)検査 4)治療			
4		中枢神経脱髄性疾患（多発性硬化症など） 1)病態生理 2)症状 3)検査 4)治療			
5		末梢神経障害（ギランバレー症候群など） 1)病態生理 2)症状 3)検査 4)治療			
6		神経変性疾患Ⅰ（パーキンソン病と関連疾患など） 1)病態生理 2)症状 3)検査 4)治療			
7		神経変性疾患Ⅱ（脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など） 1)病態生理 2)症状 3)検査 4)治療			
8	骨・筋系	主な症状と病態生理 1)疼痛 2)形態異常 3)関節運動異常 4)神経障害 5)異常歩行 6)筋肉の障害	講義	吉川	
9		1. 骨折（大腿骨近位部骨折・上腕骨顆上骨折・腰椎圧迫骨折） 1)病態生理 2)症状 3)検査 4)治療 2. 脱臼 1)病態生理 2)症状 3)検査 4)治療	講義		

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
10		1. 脊髄損傷 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 末梢神経損傷 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療			
11		1. 自己免疫疾患（関節リウマチ） 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 変形性関節症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療			
12		1. 椎間板ヘルニア 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 腰部脊柱管狭窄症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 骨粗鬆症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療			
13		1. 骨肉腫 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療			
14	感覚器系・耳鼻	主な症状と病態生理 1) 聴覚障害 2) 平衡感覚障害 3) 味覚・臭覚障害 4) 嚥下障害	講義	外山	
15		1. 中耳炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. メニエール病 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 副鼻腔炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療			
16		1. 舌がん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 咽頭がん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 咽頭炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 4. 扁桃炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療			
17	感覚器系・眼	1. 白内障 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 緑内障 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	講義	上松	
18		1. 網膜剥離 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 網膜症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療			
19	感覚器系・歯	1. 齲蝕 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 辺縁性歯周炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	講義	田畑	
20		1. 口腔がん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		新屋	

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
21	感覚器系・皮膚	1. アトピー性皮膚炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 熱傷 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	講義	中山	
22		1. 白癬 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 帯状疱疹 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 疥癬 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療			
23		終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

解剖生理学で学習した骨格、筋、脳神経、感覚器の解剖と生理を関連づけて学習していく。

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する。終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	脳・神経	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	運動器	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	皮膚	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	眼	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	耳鼻咽喉	医学書院
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	歯・口腔	医学書院

【参考文献】

病気がみえる 脳神経 メディックメディア  
 病気がみえる 運動器 メディックメディア  
 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復促進 病理学  
 系統看護学講座 人体の構造と機能 解剖生理学

【授業外における学修方法及び時間】

1. 脳・神経系 骨・筋系 感覚器系に関する解剖生理、講義内容を深めるための学習

## 専門基礎分野

【科目】病理学Ⅴ（感染症<sup>1)</sup>、血液・リンパ<sup>1)</sup>、アレルギー<sup>2)</sup>、膠原病<sup>3)</sup>）  
 【単位数・時間】1 単位(30 時間)  
 【担当講師】松本健吾<sup>1)</sup> 中山文子<sup>2)</sup> 濱田浩朗<sup>3)</sup>  
 【開講時期】通年 【配当年次】2 年  
 【所属・職位等】1)都城医療センター内科医師 2)都城医療センター皮膚科医師  
 3)都城医療センター 院長

【授業における到達目標】  
 主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】  
 解剖生理学の知識をふまえ、感染症の病態、症状、検査、治療について教授する。

### 【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
1	感 染 症	1. 症状と病態生理 1) 感染症とは 2) 感染の成立と免疫 3) 感染症の病態生理 4) おこりやすい症状	講義	松本	
2		2. 主な検査法 1) 塗抹・培養検査 2) 抗原検査 3) 抗体検査 4) HIV 検査 5) 毒素の検査 6) 原虫・寄生虫検査			
3		3. 主な治療法 1) 抗菌薬 2) 抗真菌薬 3) 抗ウイルス薬 4) 一次予防・二次予防 5) 予防接種			
4		4. 主な疾患 1) 性感染症 2) HIV/AIDS 感染症 3) 悪性腫瘍・幹細胞移植・固形臓器移植に伴う感染症 4) 新興・再興感染症			
5	血 液 ・ リ ン パ 系	1. 病態及び症状 2. 主な検査 1) 骨髄穿刺 2) 骨髄生検	講義	松本	
6		3. 主な疾患 1) 貧血 2) 白血球減少症 3) 白血病 4) 悪性リンパ腫 5) 成人T細胞白血病 6) 多発性骨髄腫 7) 免疫性血小板減少性紫斑病(ITP) 8) 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP) 9) 血友病 10) 播種性血管内凝固(DIC)			
7		4. 主な治療 1) 化学療法 2) 輸血 3) 造血幹細胞移植 4) 文化誘導療法 5) 分子標的療法 6) 遺伝子治療			

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
8	アレルギー	1. 病態及び症状 1) 免疫反応と疾患 2) アレルギーに関与する免疫担当細胞と化学物質 3) アレルギーのしくみ(分類) Ⅰ型アレルギー      Ⅱ型アレルギー Ⅲ型アレルギー      Ⅳ型アレルギー	講義	中山	
9		2. 主な検査 1) 血液検査      2) 皮膚テスト			
10		3. 主な治療 1) 薬物療法			
11		4. 主な疾患 1) 気管支喘息      2) アレルギー性鼻炎 3) 接触性皮膚炎      4) アナフィラキシーショック			
12	膠原病	1. 病態生理と症状 1) 膠原病とは      2) 自己免疫疾患とその機序 3) 関節痛・関節炎      4) レイノー現象 5) 皮膚・粘膜症状      6) タンパク尿 7) 筋力低下      8) 血管炎に伴う症状	講義	濱田	
13		2. 主な検査 1) 一般検査      2) 血清・免疫学的検査			
14		4. 主な治療 1) 一般療法      2) 薬物療法			
15		3. 主な疾患 1) 関節リウマチ      2) 全身性エリテマトーデス 3) 抗リン脂質抗体症候群      4) シェーグレン症候群 5) 全身性強皮症      6) 多発性筋炎 7) ベーチェット病			
		終了試験(45分)			

#### 【科目関連及び進度について】

解剖生理学で学習した血液・リンパ系の解剖と生理、病理学の免疫機能、感染防御機能を関連づけて学習していく。

#### 【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する。終了試験は授業で教授した内容から出題する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

#### 【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院

#### 【授業外における学修方法及び時間】

各病態学に関する解剖生理、講義内容を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】薬理学	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】生嶋 薫	
【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・役職等】都城医療センター薬剤師	

【授業における到達目標】

薬物の特性と薬物療法の概要を理解し、主な治療薬・麻酔薬の薬理作用を理解する。

【授業の概要】

薬物および薬物療法全体に共通する内容について学ぶ。薬理作用、薬物動態、薬物使用の有益性と危険性については、解剖生理学と関連付けながら学ぶ。更に、解剖生理学や生化学、病理学を基盤とし、系統別治療薬について学ぶ。

【授業計画】

回数	内容（方法）	方法	講師	備考
1	薬物の特性 ・薬が作用するしくみ（用量と作用の関係、標的分子） ・副作用(有害事象) ・与薬方法 ・薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄) ・治療において重要となる薬物動態の指標（分布容積、全身クリアランス、生物学的半減期、定常状態と薬物動態の指標、薬物血中濃度モニタリング）	講義	生嶋	
2	抗感染症薬 1)抗菌薬 2) 抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬 3)感染症の治療における問題点 4) 薬剤耐性	講義	生嶋	
3	抗がん薬 1) 抗がん薬の基礎 2) 抗がん薬の種類 3) 分子標的薬	講義	生嶋	
4	免疫治療薬 1) 免疫抑制薬 2) 予防接種薬 3) 免疫増強薬	講義	生嶋	
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬 1)抗アレルギー薬 2)消炎鎮痛薬	講義	生嶋	
6	末梢神経に作用する薬 1) 交感神経作用薬 2) 副交感神経作用薬 3) 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義	生嶋	
7	中枢神経に作用する薬 1) 全身麻酔薬 2) 麻薬性鎮痛薬	講義	生嶋	
8	中枢神経に作用する薬 1) 気分安定薬・抗うつ薬 2) 催眠薬・抗不安薬 3) パーキンソン症候群治療薬 4) 抗てんかん薬 5) 抗精神病薬	講義	生嶋	
9	循環器系に作用する薬 1)強心薬、抗不整脈 2)狭心症治療薬 3)抗血栓薬	講義	生嶋	

回数	内容（方法）	方法	講師	備考
10	循環器系・腎臓に作用する薬 1)降圧薬、昇圧薬 2)利尿薬 3)電解質平衡治療薬 4)神経因性膀胱と治療薬 5)前立腺肥大症と治療薬	講義	生嶋	
11	呼吸器系に作用する薬 1) 気管支ぜんそく治療薬 (副腎皮質ステロイド薬、気管支拡張薬、抗アレルギー薬)	講義	生嶋	
12	消化器系に作用する薬 1)消化性潰瘍治療薬 2)下剤、止痢薬	講義	生嶋	
13	物質代謝系に作用する薬 1)ホルモンとホルモン拮抗薬（糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬、視床下部・下垂体ホルモン製剤、骨粗鬆症治療薬） 2)治療薬としてのビタミン	講義	生嶋	
14	漢方薬 漢方医学の基礎知識、生薬・方剤と漢方薬の剤型、主な漢方薬 漢方薬の有害作用、漢方薬の有効性に関するエビデンス	講義	生嶋	
15	薬物管理 1)禁忌 2)保存、管理方法 3)薬理効果に影響する要因 薬と法律 4)医薬品に関する法律 (劇薬・毒薬、麻薬・向精神薬、覚醒剤)	講義	生嶋	
	終了試験(45分)			

#### 【科目関連及び進度について】

- ・病理学との関連が深い科目であることから、病理学の学習進度を踏まえ授業計画を立案する。

#### 【試験・課題等の内容】

- ・学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

#### 【テキスト】

- ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

#### 【授業外における学修方法及び時間】

- ・毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】保健医療論Ⅱ 【単位数・時間】1単位(15時間)

【担当講師】濱田浩朗

【開講時期】第2学期 【配当年次】2年

【所属・職位等】都城医療センター 院長

【授業における到達目標】

1. 生命に対する価値観や倫理観を養う。
2. 我が国の医療供給体制、および医療をめぐる諸問題をとらえ、生命に対する価値や倫理について理解できる。

【授業の概要】

保健医療論Ⅰに基づいて、生命に対する価値や倫理について教授する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	方法	講師	備考
1	医療保険制度、提供体制	講義	濱田	
2	医療倫理	講義		
3	患者の権利、説明と同意	講義		
4	臨床医学研究と医療倫理	講義		
5	告知・終末期医療	講義		
6	先端医療と医療倫理	講義		
7	医療安全と医療倫理	講義		
8	終了試験（45分）	講義		

【科目関連及び進度について】

看護学概論、社会学が終了した後に開講する。また、看護研究や各看護学の学習へつなげられるように進度を計画する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 メガカルフレッド社

【授業外における学修方法及び時間】

保健医療に関する講義内容を深めるための学習



専門基礎分野

【科目】公衆衛生学	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】峯田 孝子	
【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・職位等】元 行政保健師	

【授業における到達目標】

疾病予防に関する概念を理解し、人が健康な生活を送るための公衆衛生学的アプローチを学ぶ。

【授業の概要】

授業計画のとおり

【授業計画】

回数	内 容 (方 法)	方法	講師	備考
1	公衆衛生のエッセンス ヘルス（衛生・健康）とはなにか グループワーク	講義	峯田	
2	公衆衛生の活動対象			
3	公衆衛生のしくみ			
4	集団の健康をとらえるための手法—疫学・保健統計			
5	環境と健康			
6	感染症とその予防対策、国際保健			
7	公衆衛生看護とは、母子保健			
8	成人保健、歯科保健			
9	高齢者保健			
10	精神保健、障害者保健、難病保健			
11	学校と健康			
12	職場と健康			
13	健康危機管理・災害保健			
14	保健所見学（都城保健所）		都城保健所担	
15	保健所見学（都城保健所）		都城保健所担	
	終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

公衆衛生の基本、保健活動の基盤となる法や施策、生活者の健康増進について学ぶことから、1 年次の保健医療論Ⅰ、社会福祉、看護学概論、2 年次の関係法規と関連づけて学習する。

【試験・課題等の内容】

講義でふれた内容（制度やしくみ、法律や統計など）

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度 2 医学書院

【参考文献】

国民衛生の動向

【授業外における学修方法及び時間】

講義内容の予習・復習について 1 時間程度の自己学習に取り組む。

専門基礎分野

【科目】関係法規	【単位数・時間】1 単位（30 時間）
【担当講師】八重尾 龍	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】2 年
【所属・役職等】八重尾法律事務所 弁護士	

【授業における到達目標】

・看護師としての役割を遂行するためには看護関係法令の理解が必要であり、法律を理解したうえで看護実践ができる。質の高い看護を提供するため、医療の現場で必要とされる医療に関する法律や関係職種に関する法律を理解する。

【授業の概要】

法の内容と看護職種に関する法律等、具体的事例を示しながら法律の理解を促す。

【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	法の概念 日本国憲法の成立 基本的人権	講義	八重尾	
2	保健師助産師看護師法	講義		
3	保健師助産師看護師法	講義		
4	看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義		
5	医事法	講義		
6	医事法	講義		
7	保健衛生法	講義		
8	保健衛生法	講義		
9	薬務法	講義		
10・11	社会保険法	講義		
12	福祉法	講義		
13	福祉法	講義		
14	労働法	講義		
15	環境法	講義		
	終了試験(45 分)			

【科目関連及び進度について】

医療や看護に関連する法律について学ぶことから、社会の動向についての理解を深め、看護の学習へ発展させる内容であるため、保健医療論Ⅱと同時進行で学習し、1 年次の保健医療論Ⅰ、社会福祉、看護学概論などに関連づけて学習する。

【試験・課題等の内容】

- ・ 学生の理解度を確認しながら適宜課題を提示する。
- ・ 終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

- ・ 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院
- ・ 看護六法 新日本法規

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

## 専門分野

【科目】看護理論	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】出口 由美 <sup>1)</sup>	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】2 年
【所属・職位等】1) 都城医療センター附属看護学校	
【実務経験】1) 看護師 18 年	

### 【授業における到達目標】

1. 中範囲理論の必要性を理解し、看護実践場面における看護理論の活用を実際を学ぶ。
2. 看護現象を意味づけし、実践の場で見られる対象の心理や行動の意味を考えることができる。

### 【授業の概要】

中範囲理論の概要を理解し、理論を活用した事例への適用を学習していく。第 14・15 回目の講義では基礎看護学実習で受け持った患者の事例を使って、看護実践の意味付けを行う。

### 【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	1.看護理論の種類と中範囲理論 2.看護理論の実践への活用 3.ニード論	講義	出口	
2	1.セルフケア理論	講義	出口	
3	1.家族理論	講義	出口	
4	1.病みの軌跡理論	講義	出口	
5	1.自己概念 2.自尊感情 3.ボディイメージ	講義	出口	
6	1.障害の受容過程 2.死の受容過程	講義	出口	
7	1.危機理論	講義	出口	
8	1.ストレス・コーピング理論	講義	出口	
9	1.症状マネジメントモデル 2.コンフォート理論	講義	出口	
10	1.エンパワーメント	講義	出口	
11	1.行動変容ステージモデル	講義	出口	
12	1.自己効力感	講義	出口	
13	1.アンドラゴジー成人教育理論	講義	出口	
14・15	1.看護理論を用いた看護実践の検討	演習	出口	
	終講試験			

### 【科目関連及び進度について】

看護学概論で学んだ内容をもとに、具体的な事例を考えながら看護実践への意味づけを行っていく。これらの学びがさらに各看護学方法論につながり、さらには看護学実習へと発展していく。特に専門実習においては対象の理解と看護介入の方法を決定していく過程において本科目で学習した内容を活かすことができる。3年次の統合看護技術（課題研究演習）のケーススタディを行う際に、本科目で学んだ中範囲理論を用いることとなる。

### 【試験・課題等の内容】

#### 終了試験の内容

筆記試験は授業で教授した内容および関連するテキストの内容から出題する。

#### 課題の内容

事前にレポート課題を提示する。

### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

### 【テキスト】

NiCE 看護学テキスト 看護理論 看護理論 21 の理解と実践への応用 南江堂  
事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 日総研

### 【参考文献】

看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研

### 【授業外における学修方法及び時間】

提示された課題を行うための学習時間が必要である。また、各理論を理解するための自己学習は必須である（合計で 15 時間程度）。

専門分野

【科目】看護技術Ⅴ

【単元】感染防止<sup>1)</sup>、創傷管理<sup>2)</sup>、検査時の看護<sup>3)</sup>、学習支援<sup>4)</sup>、与薬の看護<sup>5)</sup>、呼吸管理<sup>6)</sup>、救命救急処置<sup>7)</sup>

【単位数・時間】2単位 60時間

【担当講師】西裕也<sup>1) 3) 7)</sup> 本村真理亜<sup>2)</sup> 今田南生人<sup>4)</sup> 田尻朝恵<sup>5) 6)</sup>

【開講時期】通年 【配当年次】2年

【所属・職位等】1) 3) 4) 5) 6) 7)専任教員 2)南九州病院 皮膚・排泄ケア認定看護師

【実務経験】1) 3) 7)看護師14年 4) 看護師11年 5) 6)看護師13年

【授業における到達目標】

1. 感染防止の必要性を理解し、感染防止に関する知識・技術を習得することができる。
2. 創傷治癒過程とその影響要因を理解し、創傷による苦痛を緩和し、治癒を促進するための援助技術について理解できる。
3. 検査における看護の役割と責務を理解し、安全に正確に検査時の援助について理解できる。
4. 健康に関わる学習を支援する看護技術について理解できる。
5. 与薬における看護の役割と責務を理解し、薬物による生体の反応から人体への影響を理解し、安全に確実に与薬する技術を習得することができる。
6. 呼吸・循環を整える意義を理解し、対象者に安全かつ安楽な技術を理解できる。
7. 急性の疾病や外傷により生命の危機状況にある対象に対して、速やかに呼吸及び循環を補助し、救命するために行われる処置について理解できる。

【授業の概要】

この授業では、診療の補助技術の中の感染防止、創傷管理、健康に関わる学習に対する支援、検査、与薬、呼吸・循環を整える技術、救命救急処置に関する基礎知識や看護技術を講義、演習を通して学ぶ。

また、演習では、看護師役、患者役を体験することで、援助場面における対象が安楽に安心して援助を受けることについても検討する。

【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	感染防止	感染経路別予防策 1)接触予防策 2)飛沫予防策 3)空気予防策 洗浄・消毒・滅菌	講義	西	
2		無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い 針刺し防止策 医療施設における感染管理	講義	西	
3		無菌操作 1)清潔区域 2)滅菌包装の開き方 3)滅菌物の取り出し方 4)鉗子・鑷子の取り扱い 5)滅菌手袋の着脱 6)ガウンテクニック	演習	西	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
4	創傷管理	創傷管理の基礎知識 創傷治癒のための環境づくり	講義	本村	病理学Ⅳ 感覚器系（皮膚）終了後より開講
5		創傷処置 1) 術後一次縫合創とドレーン創の処置 2) 創洗浄と創保護 3) テープによる皮膚障害 4) 包帯法	講義	本村	
6		創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 1) 創傷処置・創傷ケア 2) 創部のアセスメント・評価 熱傷患者の看護 1) アセスメント 2) 看護の実際	講義	本村	
7		褥瘡予防 1) 褥瘡発生メカニズム 2) 褥瘡のリスクアセスメント 3) 褥瘡の予防 4) 褥瘡のアセスメント 5) 褥瘡の治療、処置・ケア	講義	本村	
8	検査時の看護	臨床検査とその役割 臨床検査の流れと看護師の役割 検体検査と看護援助	講義	西	
9		生体情報のモニタリング 生体検査の看護援助	講義	西	
10		侵襲的検査時の看護援助 検体検査時の看護援助の実際 1) 血液検査	講義	西	
11		モデル人形を用いた真空採血管による静脈血採血	演習	西	A・Bクラス ※技術チェック有。
12	学習支援	学習支援の対象と看護の役割 学習の基礎知識 学習支援の基礎知識	講義	今田	
13		学習支援の技術学習支援の実際 学習支援の実際	講義	今田	
14	与薬	与薬の基礎知 与薬における医療安全	講義	田尻	
15		経口薬の援助の実際(経口) 1) 経口与薬 2) 口腔内与薬 外用薬の援助の実際(外用薬) 1) 吸入 2) 点眼 3) 点鼻 4) 経皮的与薬 5) 直腸内与薬	講義	田尻	
16		注射法の援助の実際 1) 注射方法の種類 2) 注射の準備(アンプル、バイアル) 3) 皮下注射 4) 皮内注射 5) 筋肉内注射	講義	田尻	



回数	単元	内容	方法	講師	備考
17		筋肉内注射時の援助①	演習	田尻	第 17・18 回は連続で 実施する。 ※技術チェ ック有。
18		筋肉内注射時の援助②		田尻	
19		輸液療法を受ける対象者への看護 輸液療法の援助の実際	講義	田尻	
20		安全で確かな輸液療法の実施	講義	田尻	
21		点滴静脈内注射時の援助①	演習	田尻	第 21・22 回は連続で 実施する。
22		点滴静脈内注射時の援助②		田尻	
23		点滴静脈内注射時の援助③ (輸液ポンプ、シリンジポンプ)	演習	田尻	
24		輸血療法時の看護	講義	田尻	
25	呼吸・循環を整える技術	呼吸アセスメント 気道管理 1)加温、加湿                      2) 排痰ケア 3) 呼吸を楽にする姿勢      4) 呼吸法 5) 体位ドレナージ          6) 咳嗽介助 7) 吸入                              8) 吸引	講義	田尻	
26		酸素療法 1)目的                              2)酸素供給方法 3)酸素吸入器具の種類 4)援助時の観察・アセスメント・合併症	講義	田尻	
27		体温・循環のアセスメント 体温管理の技術 1)発熱時    2)うつ熱時    3) 低体温時 末梢循環促進ケア	講義	田尻	
28		呼吸管理に必要な看護技術 一時的吸引法の実際、酸素療法	演習	田尻	
29	救急救命処置	救急救命処置の基礎知識 1) 救急対応の考え方 2) 救急・急変時の初期対応 心肺蘇生法 1) 心肺蘇生の基礎知識 2) 一次救命処置の実際 3) 小児・乳児の心肺蘇生法 止血法 院内急変時の対応 1) エマージェンシーカート    2) 院内救急コール	講義	西	
30		一次救命処置	演習	西	
		終了試験(45 分)			

**【科目関連及び進度について】**

微生物学、解剖生理学Ⅰ（皮膚、呼吸器、循環器、消化器）、病理学Ⅳ：感覚器系（皮膚）、薬理学、治療法総論（ME 機器）、臨床看護総論、成人看護方法論Ⅰ、医療安全と関連する科目である。  
また、感染防止の技術で学んだ技術を用いて、検査時の看護、与薬の演習を行う。

**【試験・課題等の内容】**

演習はテキストと動画を活用し、事前学習を必要とする。

技術チェックは、①真空採血管による静脈血採血、②筋肉内注射を行う。十分に自己練習に取り組んで受験することを課す。採血の技術チェックでスタンダードプリコーション、無菌操作を含めて行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

**【評価方法】**

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

※真空管採血による静脈血採血の技術、筋肉内注射の技術については必要な講義、演習が終了後に行う。

技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。

学生は、技術チェックについては、必ず年度内に合格する。

**【テキスト】**

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）  
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）  
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論（医学書院）  
 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能（医学書院）  
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚（医学書院）  
 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学（医学書院）  
 系統看護学講座 別館 臨床外科看護総論（医学書院）  
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）  
 看護過程に沿った対症看護 第4版（学研）

**【参考文献】**

系統看護学講座 別巻 臨床検査  
 看護技術がみえる vol.1 臨床看護技術  
 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術  
 看護技術プラクティス 学研  
 看護技術ベーシックス 医学芸術新社

**【授業外における学修方法及び時間】**

自己学習時間は、本科目に関連する技術の動画の視聴、技術練習等に取り組む。

## 専門分野

【科目】地域看護方法論Ⅰ

【単元】地域で生活する人々の理解、地域で生活する人々の健康支援・地域看護活動

【単位数・時間】1単位(30時間)

【担当講師】久保 良美

【開講時期】1学期

【配当年次】2年次

【所属・職位等】株式会社ライフファクトリー ライフデイサービス丸谷 社会福祉士・看護師  
保健師・助産師

## 授業における到達目標】

### ＜地域で生活する人々の理解＞

1. 地域の多様な特性が、そこに暮らす人々の健康に影響していることが理解できる。
2. 地域看護の対象者の各ライフステージの特徴とその多様性が理解できる。
3. 地域看護の対象者は、さまざまな健康レベルにあることが理解できる。
4. 地域看護の対象である家族について基本的な理解ができる。

### ＜地域で生活する人々の健康支援・地域看護活動＞

1. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズと、看護の役割が理解できる。
2. 各ライフステージにある人々の特徴を理解し、ライフステージに応じた看護の役割を理解する。
3. 暮らしにおける環境の重要性を理解し、環境を整える地域・在宅看護の役割について考える。

## 【授業の概要】

本講義では、地域・在宅看護において欠かすことのできない「予防の視点」に着目し、地域で生活する人々の健康の保持・疾病の予防に関わる看護について学ぶ。また、リスクの低減をめざす個別指導における健康行動理論の活用について学ぶ。

## 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	地域で生活する人々の理解	・暮らしと健康の関係 暮らしのなかで生じる健康問題と影響、家族の暮らしと健康 ・人々の健康に対する認識やニーズ(多様性)と人々の健康ニーズに 応える看護 ・健康を考える看護の視点	講義	久保	
2		・地域・在宅看護の対象者① 地域による多様性の理解(地域社会の構造、構成要素) ライフステージによる多様性(小児期の対象者、成人期の対象者)	講義	久保	
3		・地域・在宅看護の対象者② ライフステージによる多様性(老年期の対象者) 健康レベルの多様性	講義	久保	
4		・地域・在宅看護の対象者③ 家族の理解 ①日本における家族の現状(世帯状況、婚姻状況、介護状況) ②日本における家族とその変遷(家族形態の変化、世帯の変化、 家族の多様化) ③新しい家族の定義	講義	久保	
5・6		・地域・在宅看護の対象者④ 地域・在宅看護の対象としての家族 家族を捉える視点—家族発達理論、家族システム理論の活用—	講義	久保	
7		・地域に暮らす対象者の理解と看護(事例をもとに考える) ①地域社会を考慮した個人を対象とした看護 ②地域社会をよりよくするための看護	講義	久保	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
8	地域で生活する人々の健康支援・地域看護活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康な暮らしの支援とは 健康づくりと疾病予防システムの手法 (ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、アウトリーチ)</li> <li>セルフケア理論、健康行動理論を活用したセルフケアを引き出す支援</li> <li>健康づくり、疾病予防システムの実際 (① 情報提供、② インテーク、③ 地域交流、④ 連携)</li> </ul>	講義	久保	
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>暮らしの環境を整える看護 生活空間を整える                      日常生活行動を整える 人との関係を整える                      サービス・社会資源の活用・調整</li> <li>地域の健康づくり、疾病予防のための健康教育指導案企画(演習)</li> </ul>	演習	久保	
10		地域の健康づくり、疾病予防のための健康教育指導案企画(発表)	演習	久保	
11・12		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域におけるライフステージに応じた看護(実践例の検討) ライフステージと人々の暮らし ライフステージによる健康課題と予防</li> </ul>	演習	久保	
13		【地域・在宅看護活動の創造】(演習)	講義 演習	久保	
14		「暮らしの保健室」の実践例をもとに、地域住民とともにあるような地域・在宅看護について考える。		久保	
15				久保	
		終了試験			

#### 【科目関連及び進度について】

本科目においては、地域で生活する人々とその家族の健康を支援する方策について学習する。1年次に学習する「生活文化論」の学びをもとに対象者の理解をすすめる。また、地域での暮らしや療養に関わる法制度、施策については「社会福祉」や「公衆衛生学」と関連が深い科目である。本科目で学習する「ライフステージに応じた看護」を小児看護学、母性看護学、老年看護学へ発展させる。

#### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。レポート課題は、授業中に提示する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

#### 【テキスト】

系統看護学講座 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 (医学書院)  
系統看護学講座 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 (医学書院)

#### 【参考文献】

新体系看護学全書 地域・在宅看護論 (メヂカルフレンド社)  
新体系看護学全書 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版 (メヂカルフレンド社)

#### 【授業外における学修方法及び時間】

授業の振り返りと次回の授業の準備で毎回1時間ほどの時間を要する

## 専門分野

**【科目】** 地域看護方法論Ⅱ  
**【単元】** 地域・在宅看護における生活ケアの援助技術<sup>1) 2)</sup>、  
 在宅看護における医療的ケアの援助技術<sup>3) 4) 5) 6)</sup>  
**【単位数・時間】** 1 単位 30 時間  
**【担当講師】** 一柳明日香<sup>1)</sup>、郡山晴喜<sup>2)</sup>、梅垣亜由美<sup>3)</sup>、平野香奈<sup>4)</sup>、西元智子<sup>5)</sup>  
**【開講時期】** 1 学期 **【配当年次】** 2 年次  
**【所属・職位等】** 1) 5) 専任教員 2) ホームクリニックみまた院長  
 3) 訪問看護ステーション優癒看護師  
 4) 都城医療センター副看護師長・皮膚排泄ケア認定看護師  
**【実務経験】** 1) 看護師 7 年 5) 看護師 18 年

### 【授業における到達目標】

＜地域・在宅看護における生活ケアの援助技術＞

1. 暮らしの場で看護を行う前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族との対話・コミュニケーションについて理解する。
2. 暮らしの場で看護を行うために必要な日常生活援助技術について理解する。

＜地域・在宅看護における医療的ケアの援助技術＞

1. 暮らしの場で看護を行うために必要な医療的ケア技術について理解する。

### 【授業の概要】

本科目では、地域で生活する人々の生活と健康を支える生活援助技術と療養者（児）・家族に対する医療処置と看護について学ぶ。

### 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	地域・在宅看護における生活ケアの援助技術	<b>【地域における暮らしを支える看護実践の基本的な考え方】</b> コミュニケーションと意思決定支援 <b>【在宅での暮らしを継続するための日常生活支援】</b> 身体の整理機能を整える 日常生活を維持する 家族なりのやり方をサポートする ケアチームでの連携と協働	講義	一柳	
2		<b>【地域・在宅ケアの実際】</b>	講義	郡山	
3		<b>【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】</b> ①地域・在宅看護における療養環境調整 ②活動・休息に関する地域・在宅看護技術	講義	一柳	
4		<b>【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】</b> ③食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術 ・在宅における食生活の特徴、環境の準備、社会資源の活用 ・経管栄養法 ・在宅中心静脈栄養法とその管理	講義	一柳	
5		<b>【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】</b> ④排泄に関する地域・在宅看護技術 ・排泄環境のアセスメント ・セルフケアのための援助 ・機能の向上・維持を目指す援助	講義	一柳	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
6		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑤清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術 ・清潔の文化・習慣と療養者に合わせた援助 ・療養環境に応じた援助 ・介護者に対する支援	講義	一柳	
7・8		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ・事例に応じた在宅看護における洗髪・足浴・手浴の援助	演習	一柳	
9	在宅看護における医療的ケアの援助技術	【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑥呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術 ・呼吸・循環のフィジカルアセスメント ・日常生活の状況と活動・参加のアセスメント ・セルフモニタリングの支援 ・呼吸法・呼吸リハビリテーション ・排痰ケアと吸引	講義	梅垣	
10		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑦呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術 ・在宅酸素療法（HOT）を受ける療養者の援助 ・在宅人工呼吸療法（HMV）を受ける療養者の援助 ・非侵襲的陽圧換気（NPPV）を受ける療養者の援助 ・気管切開下陽圧換気（TPPV）を受ける療養者の援助	講義	梅垣	
11		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑧創傷管理に関する地域・在宅看護技術 ・テープ類による皮膚トラブルの予防とケア ・褥瘡の予防とケア ・スキンケアの予防とケア	講義	平野	
12		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ・尿道留置カテーテルの管理とケア ・ストーマ管理とケア ・腹膜透析（CAPD と APD）の管理とケア	講義		
13		在宅で使用する医療器具の活用方法 業者との連携の実際	講義	業者	
14		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑨与薬に関する地域・在宅看護技術 ・処方から与薬の流れとさまざまな人の関わり ・セルフケア力と残薬管理、事故防止 ・与薬方法ごとの在宅ケアのポイント（中心静脈栄養法）	講義	西元	
15		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑩苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術	講義	西元	
		終了試験			

#### 【科目関連及び進度について】

1 年次・2 年次に学習した基礎看護技術を基本とし、生活の場で看護を適応させるためにどのような工夫や配慮が必要かを学ぶ。そのため、「基礎看護技術」や「診療の補助技術」と関連が深い科目である。

また、日々の生活におけるリスクや災害対策については、3 年次の「災害看護」へと学びを発展させる。

#### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

**【評価方法】**

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

**【テキスト】**

系統看護学講座 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤（医学書院）

系統看護学講座 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践（医学書院）

**【参考文献】**

新体系看護学全書 地域・在宅看護論（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版（メヂカルフレンド社）

**【授業外における学修方法及び時間】**

毎回シラバスで、テキストの該当する範囲を確認し授業に臨む。

自身の生活や家族の生活の様子に今一度目を向け、家庭にあるものを日常生活援助技術で利用したり、工夫して活用したりすることができないか、日頃の周囲の環境や物品に関心を寄せる。

## 専門分野

### 【科目】地域看護方法論Ⅲ

【単元】地域・在宅における経過別、症状別看護<sup>1)2)3)4)5)6)7)</sup>、地域・在宅における看護<sup>3)</sup>、地域で生活を継続するための看護<sup>8)9)</sup>、地域で生活を継続するための看護<sup>3)</sup>

【単位数・時間】2単位60時間

【担当講師】梯真菜美<sup>1)</sup> 中神雪絵<sup>2)</sup> 西元智子<sup>3)</sup> 隅元美乃里<sup>4)</sup> 谷口貴子<sup>5)</sup> 出口由美<sup>6)</sup>  
田上淑子<sup>7)</sup> 久保良美<sup>8)</sup> 川東梨恵<sup>9)</sup>

【開講時期】2学期

【配当年次】2年次

【所属・職位等】1) 都城医療センター副看護師長 2) 都城医療センター看護師 3)6) 専任教員  
4) 訪問看護ステーション cocoro 美 代表取締役・看護師  
5) 訪問看護ステーション手と手所長・看護師  
7) 社会医療法人如月会若草病院理事 在宅部門部長・看護師  
8) 株式会社ライフファクトリー ライフデイサービス丸谷 社会福祉士・看護師  
9) 特別養護老人ホーム霧島荘 居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員

【実務経験】3) 看護師 18 年 6) 看護師 14 年

### 【授業における到達目標】

＜地域・在宅における経過別、症状別看護＞

1. 外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までのさまざまな時期の地域・在宅看護を理解する。
2. 地域・在宅看護がロングタームケアであることを理解する。

＜地域・在宅における看護＞

1. 地域・在宅看護過程の特徴、各段階におけるポイントを理解する。
2. 地域・在宅看護の特性を踏まえた地域・在宅看護過程の展開方法を理解する。
3. 看護を展開するプロセスを通して、地域・在宅看護を発展させる視点について考える。

＜地域で生活を継続するための看護＞

1. 多様な療養者と家族の背景、歴史があり、それに応じた看護があることを理解する。
2. 対象者や家族の「物語」に合わせ、暮らしや思い、人生の経過を理解し、対象者や家族の価値観にそって看護を展開する活動であることを理解する。
3. 地域での生活を支援する多職種と連携し、地域で暮らす人々の生活を包括的に支援する方法について理解する。
4. 看護師が創造した地域・在宅看護活動の展開例を学び、地域・在宅看護活動の創造とはなにかを考えることができる。

＜地域・在宅看護における安全と健康危機管理＞

1. 暮らしのなかにあるリスクについて学び、看護の役割について理解する。
2. 災害対策における地域・在宅看護の役割を理解する。

### 【授業の概要】

本科目では、地域における生活を支援する多職種と連携し、地域で暮らす人々の生活を包括的に支援する方法について学ぶ。病院から地域生活に移行する人、地域で暮らす療養者、障がい者（児）など看護を必要とする人がどのような支援を必要としているかアセスメントし、多職種で解決していく看護実践のプロセスを学ぶ。

### 【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
1	経過別・地域・在宅における看護	・ 外来受診期における看護 ・ 入院時の看護	講義	梯	
2	経過別・地域・在宅における看護	・ 在宅療養準備期（退院前）の看護 退院調整と退院支援 在宅療養生活への移行における包括的支援 ・ 在宅療養移行期の看護	講義	中神	



回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅療養安定期の看護</li> <li>急性増悪期の看護</li> <li>終末期の看護</li> <li>在宅療養終了期の看護</li> </ul>	講義	西元	
4		<b>【在宅療養児と家族の理解と地域・在宅看護のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケア児と家族への看護</li> </ul> 医療的ケア児の理解、医療的ケア児を支えるケアシステム 人工呼吸器装着児の在宅移行支援	講義	隈元	
5		<b>【難病を患う療養者の理解と地域・在宅看護のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>筋委縮性側索硬化症（ALS）の療養者の看護</li> </ul>	講義	谷口	
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>パーキンソン病の療養者の看護</li> </ul> ロングタームでのケア	講義	谷口	
7・ 8・ 9		<b>【精神疾患を有する人の理解と地域・在宅看護のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>統合失調症の療養者の看護</li> </ul> 地域生活の継続に向けた支援（障害者総合支援法による自立支援給付および地域生活支援事業、生活の場を中心とする疾患管理、地域での居場所づくり、当事者の力量を生かす相互支援）リワークプログラム、アウトリーチ	講義	出口	
10		<b>【高齢者の理解と地域・在宅看護のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症高齢者の看護</li> </ul> 一人暮らしで身寄りが少ない療養者の支援	講義	田上	
11・ 12		<b>【がん治療中の療養者の理解と地域・在宅看護のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>がん終末期の療養者の看護</li> </ul> 在宅での見取りの支援	講義	隈元	
13	地域・在宅における看護	<b>【地域・在宅看護における看護①】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域・在宅看護における看護の基本</li> </ul> ICFモデル、家族システム理論と地域・在宅看護過程 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域・在宅看護過程の構成要素とその特徴</li> </ul>	講義	西元	
14・ 15		<b>【地域・在宅看護における看護②③】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント</li> </ul>	講義 演習		
16・ 17		<b>【地域・在宅看護における看護④⑤】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事例患者家族の看護計画</li> </ul>	講義 演習		
18・ 19		<b>【地域・在宅看護における看護⑥⑦】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域・在宅看護の実施 シミュレーション</li> </ul>	講義 演習		
20・ 21		<b>【地域・在宅看護における看護⑧⑨】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域・在宅看護の実施 シミュレーション</li> </ul>	演習		
22		<b>【地域・在宅看護における看護⑩】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域・在宅看護の評価</li> </ul>	講義 演習		
23	地域で生活を継続するための看護	<b>【地域・在宅看護をさらに発展させる視点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>制度の谷間にあるニーズを拾うケアに目を向けていく取組</li> <li>複雑困難事例を支えるケアシステム</li> <li>複雑困難事例への支援</li> </ul>	講義	久保	
24		<b>【地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働の実践①】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域・在宅看護における多職種チーム</li> <li>地域共生社会の実現に向けた連携・協働</li> <li>地域・在宅看護の現場における連携・協働</li> </ul> （訪問看護における連携・協働、医師との連携・協働、介護支援専門員との連携・協働、保健師との連携・協働、介護職との連携・協働）	講義		

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
25		<b>【地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働の実際②】</b> ・連携・協働のための会議（地域ケア会議、サービス担当者会議） ・医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 ・地域資源の可視化と地域資源開発のプロセス	講義	川東	
26		<b>【地域・在宅看護マネジメント①】</b> ・マネジメントの考え方と地域・在宅看護マネジメント ・地域・在宅看護マネジメントの捉え方 ・多様な場における地域・在宅看護マネジメント ―病棟で行う地域・在宅看護マネジメント― （地域連携クリティカルパス活用）	講義		
27		<b>【地域・在宅看護マネジメント②】</b> ・多様な場における地域・在宅看護マネジメント ―外来における地域・在宅看護マネジメント― ―介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント―	講義		
28		<b>【地域・在宅看護マネジメント③】</b> ・地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメント	講義		
29	康 危 機 管 理  お け る 安 全 と 健 に 地 域 ・ 在 宅 看 護 に	在宅看護における安全と健康危機管理 <b>【地域・在宅看護における安全をまもる看護】</b> ・地域での暮らしにおけるリスク ・できる限り安全に暮らしつづけるための援助	講義	西元	
30		<b>【地域・在宅看護における安全をまもる看護】</b> ・地域での暮らしにおける災害対策 ・地域・在宅看護と災害対策	講義		
		終了試験			

#### 【科目関連及び進度について】

成人看護学、小児看護学、老年看護学、精神看護学で学習した内容をもとに、学習をすすめる。

#### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

レポート課題は、授業中に提示する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

#### 【テキスト】

系統看護学講座 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤（医学書院）

系統看護学講座 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践（医学書院）

#### 【参考文献】

新体系看護学全書 地域・在宅看護論（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版（メヂカルフレンド社）

#### 【授業外における学修方法及び時間】

毎回シラバスを確認し、テキストの該当する範囲の事前学習を行う。

演習が主となる講義もある。計画的・積極的に課題に取り組む姿勢と講義前後に1時間程度の学習時間の確保が必要である。事例展開を行うため疾患の学習やレポートの追加・修正を行う。

専門分野

【科目】成人看護方法論Ⅰ

【単元】(慢性期にある患者の保健行動を促進する学習支援、慢性期にある患者の看護、自己管理や生活の再構築に向けた看護)

【単位数・時間】2単位(60時間)

【担当講師】今田南生人<sup>1)</sup> 脇田由紀子<sup>2)</sup> 新地沙織<sup>3)</sup> 峯茉那<sup>4)</sup>

【開講時期】通年 【配当年次】2年

【所属・職位等】1)2)専任教員 3)都城医療センター看護師 4)宮崎東病院副看護師長

【実務経験】1)看護師11年 2)看護師27年

【授業における到達目標】

1. 慢性期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。
2. 慢性期にある対象のアドヒアランスや主体性を尊重した健康学習支援について理解できる。
3. 慢性期にある対象の生活調整に向けた自己モニタリングや自己管理への支援について理解できる。
4. 慢性期にある対象の療養生活にかかわる多職種連携と社会資源の活用、退院支援について理解できる。

【授業の概要】

慢性疾患や難病により、症状をコントロールし病気と共に生活を送るために、対象の心理・社会的変化を理解し、セルフマネジメントするための援助方法及び家族への支援について学ぶ

健康障害により日常生活が規制され、生涯にわたり身体機能障害とともに生きる対象の心理・社会的変化を理解し、身体機能障害への適応、残存機能の維持、社会復帰への援助方法及び家族への支援について学ぶ。

【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	慢性期にある患者の保健行動を促進する学習支援	慢性期の疾患を抱える人と医療、看護のあり方 病いの慢性期とは 慢性期にある人々への看護のあり方 生きる方策の発見を支援すること	講義	今田	
2		進行性慢性期・再燃と寛解を繰り返す慢性期の患者の特徴と看護の役割 社会資源活用の現状と退院支援	講義	今田	
3		進行性慢性期・再燃と寛解を繰り返す慢性期の患者病みの軌跡モデル(事例)	講義	今田	
4・5		1. セルフマネジメントとは 学習援助型教育・3つのマネジメント (シンプトン・サイン・ストレス) セルフマネジメントの主要概念 (問題解決・意志決定・自己効力感) 健康学習支援の3領域 2. セルフマネジメントのための対象理解 ・本人と病気の位置関係モデル コンプライアンス・アドヒアランス、コンコーダンス ・健康信念モデル ・コミュニケーション理論 3. セルフマネジメントを推進する看護方法 ・共同目標(スモールステップ) ・アクションプラン ・シンプトンマネジメント、サインマネジメント、 ストレスマネジメント ・評価	講義	今田	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
6	慢性期にある患者の看護	糖尿病とともにある生活の特性と看護	講義	脇田	
7		糖尿病と共に生きる人への看護介入 症状マネジメント 意思決定支援 糖尿病自己管理教育・支援 地域・多職種連携 家族ケア	講義	脇田	
8		糖尿病患者の看護① 情報収集、疾病受容、病状と生活習慣	講義	脇田	
9		糖尿病患者の看護② アセスメント 症状コントロール、日常生活の規制と患者心理 自己管理、セルフモニタリング	講義	脇田	
10		糖尿病患者の看護③ アセスメント・看護問題 職場・家庭における役割の変更・喪失 家族および周囲のサポート体制	講義	脇田	
11		糖尿病患者の看護④ 看護計画 退院後の生活を支える社会資源と社会保障	講義	脇田	
12・13		糖尿病の患者の自己管理に向けた支援⑤ 血糖自己測定 インスリン自己注射	演習	脇田	
14・15		糖尿病をもつ患者の看護⑥ 血糖コントロール不良患者の看護（学習支援）	演習	脇田	
16・17		糖尿病をもつ患者の看護⑦ 学習支援のシミュレーション	演習	脇田	
18		慢性腎臓病とともに生きる人へのセルフケアマネジメント支援 慢性腎臓病と共にある生活の理解とアセスメント	講義	新地	
19		慢性腎臓病とともに生きる人へのセルフケアマネジメント支援 慢性腎臓病と共に生きる人への看護介入	講義	新地	
20	自己管理や生活の再構築に向けた看護	がんとともに生きる人へのセルフマネジメント支援 化学療法時の看護・妊孕性	講義	脇田	
21		がんとともに生きる人へのセルフマネジメント支援 放射線治療時の看護	講義	脇田	
22		がんとともに生きる人へのセルフマネジメント支援 仕事を継続するための社会資源・社会保障制度	講義	脇田	
23		がんとともに生きる人へのセルフマネジメント支援 痛みのアセスメント・疼痛コントロール	講義	脇田	
24・25		がんとともに生きる人へのセルフマネジメント支援 シンプτονマネジメントとサインマネジメント シミュレーション	演習	脇田	
26		筋委縮性側索硬化症とともに生きる人へのセルフマネジメント支援 進行性の身体機能低下に対する看護 患者の治療と看護の現状と政策医療	講義	峯	
27		筋委縮性側索硬化症とともに生きる人へのセルフマネジメント支援 意思決定への支援 自己概念の揺らぎ・ボディイメージの変容	講義	峯	
28		筋委縮性側索硬化症とともに生きる人へのセルフマネジメント支援 もてる力を生かした学習支援	講義	脇田	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
29・30		筋委縮性側索硬化症とともに生きる人へのセルフマネジメント支援 もてる力を生かした学習支援（シミュレーション）	演習	脇田	
		終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

病理学総論、病理学Ⅰ腎・泌尿器系、病理学Ⅲ内分泌系、病理学Ⅱ循環器系の授業が1年次に終了している上で4月より開講予定。病理学Ⅳ脳・神経講義の進捗状況に合わせて進行性慢性期にある筋委縮性側索硬化症の講義を計画する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	○

【テキスト】

ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版  
新体系 看護学全書 慢性期看護 経過別成人看護学3 メヂカルフレンド社  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院  
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院  
系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院  
系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院  
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院  
系統看護学講座 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院

【参考文献】

看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版 Gakken

【授業外における学修方法及び時間】

1. 糖尿病の事例を用いて、対象理解をすすめ看護計画立案に関する事前課題を提示するため、事前課題に取り組む。

## 専門分野

### 【科目】成人看護方法論Ⅱ

【単元】外科医療・救急・集中治療の基盤<sup>1)2)</sup>、周術期看護の理解と展開<sup>1)3)</sup>、看護実践の展開<sup>1)</sup>

【単位数・時間】2単位 45時間

【担当講師】西裕也<sup>1)</sup> 梶浦健汰<sup>2)</sup> 山菅詠子<sup>3)</sup>

【開講時期】通年 【配当年次】2年

【所属・職位等】1)専任教員 2)都城医療センター看護師

3)都城医療センター副看護師長・手術看護認定看護師

【実務経験】1)看護師15年（外科病棟・手術室勤務経験あり）

### 【授業における到達目標】

1. 成人期にある患者と家族の急性期特有の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。
2. 急性期における生体反応・アセスメント結果を統合し、優先度を判断できる。
3. 周術期における患者と家族の心理・社会的背景を理解し、看護過程を展開できる。
4. 代表的手術を受ける成人患者の特徴と看護問題を説明できる。
5. 急変時の看護師の役割と家族支援を理解し、行動を言語化できる。
6. 成人期患者の退院支援・社会復帰支援を生活背景と関連づけて説明できる。
7. フィンク・アギュラの理論を急性期の看護援助に応用できる。

### 【授業の概要】

本授業では、南江堂『成人看護学 急性期看護Ⅰ』および『成人看護学 急性期看護Ⅱ』を基本テキストとし、周術期看護、救急・集中治療、循環管理、急性冠症候群（ACS）、術後合併症、地域・在宅療養への移行について学ぶ。外科治療の総論的理解や看護技術の補強には医学書院『臨床外科看護総論』等を副教材として活用する。既習科目（病理学Ⅱ、臨床看護総論、治療法総論、看護技術）で学んだ呼吸・循環・救急処置・麻酔・ME機器・フィジカルアセスメントを前提に、成人の生活背景（就労・家族・役割・経済）を踏まえ、急性期・周術期・救急・集中治療を受ける成人患者と家族への看護を検討する。

とくに、急性心筋梗塞に対するPCI・PCPS、および膀胱がんに対する尿路変更術（尿路ストーマ）を代表事例として取り上げ、救急・集中治療・周術期・在宅移行における看護内容を具体的に理解する。後半では、周術期の胃癌患者の事例を用い、看護過程の視点（アセスメント→問題整理→目標→計画→評価）を通して、これらの内容を整理・統合し、最終回の統合シミュレーションにつなげる。

本授業は講義を基盤とし、必要に応じて事例検討・演習・ディスカッション等を取り入れ、臨床判断力の育成を図る。

### 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	外科医療・救急・集中治療の基盤	<b>科目の全体像を知る</b> 1. 本科目の位置づけ・到達目標の理解 2. 急性期看護を「身体・心理・社会を統合して捉える」視点の導入 3. 外科治療を“連続した流れ（救急→治療→回復→生活）”として理解する準備 <b>急性期すべての基礎理論①（侵襲と全身反応）</b> 1. 侵襲に対する生体反応とサイトカイン 2. SIRSの概念と全身炎症反応 3. 循環破綻とショックの基礎 4. 急性期における臨床判断の基礎	講義	西	使用テキスト： 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第1部「急性期看護とは／急性の状態にある患者の身体的・心理的反応／急性期における看護と臨床判断」 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・第1章「クリティカルケアとは何か：定義・関連領域との関係・看護の場」 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第1部「急性期概論」侵襲反応補完：南江堂『急性期看護Ⅱ』基礎編（救急医療の概論）

回数	単元	内容	方法	講師	備考
2	外科医療・救急・集中治療の基盤	<b>急性期すべての基礎理論②(ショックと急性期における心理的危機)</b> 1. ショックの分類と病態 2. 循環不全の評価視点 3. 初期対応の原則 4. 急性期患者と家族の心理反応 5. フィンク・ラザルス・アギュラ理論の活用 6. 心理支援と意思決定支援	講義	西	南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第1部「ショック」「心理的反応」 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・急変対応・救急外来の導入部分 ＊危機理論は既習内容
3		<b>救急医療の流れと初期対応</b> 1. 救急来院時の初期対応の流れ(一次評価・二次評価) 2. ABC(気道・呼吸・循環)評価と緊急度判断 3. ショック・呼吸不全・意識障害を疑う所見の整理 4. 急性期における優先度判断と報告の要点(SBAR) 5. 来院直後の患者・家族の心理的反応への対応	講義 演習	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・第Ⅶ章[救急外来における看護:アセスメントと初期対応、身体的・心理的援助、家族支援] ・第Ⅷ章[急変した入院患者への看護:急変時対応、SBARによる報告、院内急変体制] ・第Ⅸ章[救命救急処置:一次・二次救命処置] 一次救命処置は履修済
4		<b>胸痛患者への初期看護の実際</b> 1. 胸痛患者の初期評価(疼痛の性状・放散・持続時間、バイタルサイン、12誘導心電図) 2. 狭心症・急性心筋梗塞を疑う所見と緊急度判断 3. 急性冠症候群(ACS)の初期治療(酸素・安静・薬物療法・検査)と看護 4. PCIにつなぐまでの看護(静脈路確保・採血・検査準備・患者・家族への説明) 5. 急性期における患者・家族の心理的反応と支援	講義 事例検討	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・第Ⅻ章①[激しい胸痛—急性心筋梗塞:病態・診断・治療、救急外来での看護、ICUにおける看護] ・第Ⅶ章[救急外来における看護:初期アセスメント、受け入れ時対応、心理・家族支援] ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 医学書院
5		<b>ICU患者の特徴と環境</b> 1. ICUに入室する患者の身体的・心理的特徴 2. ICU環境と看護師の役割 3. ICU入室患者の初期アセスメント(意識・呼吸・循環) 4. 集中治療における家族支援と意思決定の基本 5. 多職種連携によるチーム医療の意義 6. ICUにおける危機理論の適用	講義	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・第Ⅴ章[ICU・救急外来で治療を受ける患者と家族の特徴] ・第Ⅱ章[集中治療の現状:多職種連携・集中治療の場] ・第Ⅵ章[導入][ICU入室患者のアセスメント]
6		<b>ACS後の集中治療(心臓救急をICUの視点で考える)</b> 1. PCI後に起こりやすい循環動態変化と合併症(出血・再虚血・不整脈・心原性ショック) 2. 循環動態の系統的評価(血圧・心拍数・尿量・乳酸・末梢循環・モニタ波形) 3. ショックを疑う所見と初期対応の優先順位	講義 事例検討	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・第Ⅻ章①[急性心筋梗塞:ICUにおける看護] ・第Ⅻ章⑦[ショック—アナフィラキシー:病態と初期対応] ・第Ⅵ章[ICUにおける循環

回数	単元	内容	方法	講師	備考
		4. 集中治療における看護師の役割と報告(SBAR) 5. 身体的危機に直面した患者・家族への初期対応			管理] ・第Ⅷ章[急変した入院患者への看護:SBAR・院内急変対応] 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第1部②[ショックの基礎・侵襲反応]
7		<u>周術期とICUの橋渡し(麻酔法と呼吸管理)</u> 1. 麻酔法の種類(全身・区域・局所)と患者への影響 2. 麻酔下・術後患者に対する観察と看護上の注意点 3. 酸素療法の目的・適応・方法とアセスメント 4. 機械的人工換気の基本用語とモニタリング項目 5. 麻酔法・呼吸管理が救急・集中治療・周術期看護に及ぼす影響	講義	梶浦	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第Ⅲ章[手術期の看護:麻酔導入時の看護] ・第Ⅳ章③[呼吸状態のアセスメントと看護] 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・第Ⅵ章②A[呼吸機能の維持] ・第Ⅶ章(該当事例)[呼吸困難・ICU管理]
8		<u>術後管理の土台(体液・循環・栄養管理)</u> 1. 侵襲・手術に伴う体液・電解質バランスの変化 2. 術前・術後・ICUにおける循環管理の基本(輸液・輸血) 3. 急性期における栄養管理の基礎(経口・経腸・静脈栄養) 4. 尿量・循環指標・栄養指標からみる全身評価 5. 体液・循環・栄養を統合した看護判断の基本姿勢	講義	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第Ⅳ章④[循環動態のアセスメントと看護] ・第Ⅳ章⑦[栄養状態のアセスメントと看護] ・第Ⅴ章[退院に向けた指導・支援:栄養管理の視点] 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・第Ⅵ章②B[循環機能の維持] ・第Ⅵ章②F[栄養管理] ・第Ⅷ章[急変した入院患者への看護:循環不全対応]
9	周術期看護の理解と展開	<u>周術期看護の基礎理解(周術期概論と安全管理)</u> 1. 周術期(術前・術中・術後)の概念と位置づけ 2. 周術期における看護の役割と責務 3. 周術期安全管理(タイムアウト・部位確認) 4. インフォームドコンセントと意思決定支援 5. 救急・ICUから周術期へ連続する治療プロセス	講義	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第Ⅱ章[周術期看護とは] 補完: 医学書院『臨床外科看護総論』周術期概論
10		<u>術前看護の理解(評価・説明・心理支援)</u> 1. 術前評価(全身状態・併存疾患・生活背景) 2. 術前説明とオリエンテーション 3. 患者・家族の不安軽減 4. 術前リスク評価 5. 尿路ストーマ予定患者を事例とした術前支援	講義	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第Ⅱ章／第Ⅴ章[退院支援への接続] 補完: 医学書院『臨床外科看護総論』 ・泌尿器科関連章 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器科 医学書院



回数	単元	内容	方法	講師	備考
11		<b>術後急変と救急対応—異常の早期察知と初期対応</b> 1. 術後患者にみられる正常経過と逸脱の判断 2. 術後急変の代表的病態(出血・低酸素・意識障害・ショック) 3. 意識・呼吸・循環を中心とした系統的アセスメント 4. ABCDE アプローチによる初期対応と優先順位判断 5. SBAR を用いた報告と多職種連携 6. 術前・術中情報を踏まえた急変リスクの予測 7. 急変時における患者・家族への初期対応	講義	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第Ⅳ章1(A～D)、2、3、4 [術後急変の初期評価] 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・第Ⅷ章[急変した入院患者への看護]
12		<b>術中看護—安全管理と術後リスク予測</b> 1. 手術室環境と医療チーム体制の理解 2. 麻酔中の患者状態の把握(呼吸・循環・体温) 3. 手術体位の特徴と合併症予防(呼吸・循環の影響、神経障害・褥瘡など) 4. 感染管理・無菌操作および安全管理(誤認防止・体温・出血管理) 5. 器械出し・外回り看護師の役割 6. 術中情報(麻酔法・術式・体位・出血量・術中バイタル)を術後の優先観察項目・合併症リスク予測へ結びつける視点	講義	山菅	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第Ⅲ章[手術期の看護] 補完: 医学書院『臨床外科看護総論』手術室看護・安全管理関連章
13		<b>術後の回復を促す看護—ERAS と看護支援</b> 1. 術後回復過程とERAS(回復促進プログラム)の基本 2. ムーアの術後生理分類と回復過程の理解 3. 術後疼痛管理と回復・QOL への影響 4. 術後呼吸管理(呼吸訓練・無気肺予防) 5. 早期離床・活動促進の意義と安全配慮 6. 術後栄養管理(経口開始・経腸栄養・栄養評価) 7. 合併症予防(DVT・SSI など)と看護の関連 8. 患者の自己回復力を引き出す看護支援	講義	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第Ⅳ章[疼痛・呼吸・循環・栄養・離床] ・第Ⅴ章[退院に向けた指導・支援] 補完: 医学書院『臨床外科看護総論』 ・ERAS・術後回復関連章
14		<b>術後合併症の理解と看護—予防・早期発見・初期対応</b> 1. 術後合併症の種類(呼吸・循環・感染・創傷・消化管・精神心理) 2. 合併症発生の要因(手術侵襲・麻酔・基礎疾患・加齢・生活背景) 3. 合併症予防の基本(疼痛管理・体位・呼吸訓練・離床・栄養・感染対策) 4. 早期発見のための観察視点と系統的アセスメント 5. 急変につながる兆候と初期対応の考え方 6. ムーアの術後生理分類を踏まえた異常兆候の判断 7. 術前・術中・術後情報を統合したリスク予測と臨床判断	講義	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・第Ⅳ章[術後合併症とアセスメント] 南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・ICU・救急外来における合併症対応関連章 補完: 医学書院『臨床外科看護総論』 ・術後合併症解説章
15		<b>ストーマ造設患者の看護—術後管理から生活再構築へ</b> 1. ストーマ造設の目的と術後経過の理解 2. 術後早期のストーマ管理(観察・合併症予防・創部管理)	講義 事例検討	西	使用テキスト: 南江堂『急性期看護Ⅰ』 ・周術期事例章(胃切除・直腸・前立腺など排泄機能関連)

回数	単元	内容	方法	講師	備考
		3. ストーマ装具の基本とケア手順 4. 排泄機能変化に伴う生活への影響の理解 5. 退院支援とセルフケア獲得に向けた教育支援 6. 心理社会的支援(ボディイメージ変容・家族支援・社会復帰) 7. 多職種連携と地域支援(WOC ナース・在宅ケア) 8. 術前支援(第 11 回)から術後・在宅移行までを統合する視点			南江堂『急性期看護Ⅱ』 ・排泄機能変化・ICU 後支援 関連節 補完: 医学書院『臨床外科看護総論』 ・ストーマ管理・排泄ケア関連章
16		<u><b>患者の全体像理解</b></u> 1. 看護過程の基本構造と進め方の理解 2. 就労中の成人・胃がん患者(K さん事例)を用いた情報収集・整理の理解 3. 身体(手術リスク・循環背景)／心理(不安の表出困難・役割責任感)／社会(家族・仕事・生活背景)を統合した患者理解の視点の理解 4. 術前情報から術後を見据えた課題予測(疼痛・呼吸・合併症・仕事復帰・家族支援)の理解 5. チーム内での情報共有とアセスメント基盤づくりの理解	講義	西	本科目における看護過程学習の基盤を形成する回である。 患者を疾患のみで捉えるのではなく、生活・家族・就労など多面的背景をもつ一人の人間として理解する視点を養うことを目的とする。 本回で扱う K さんの事例は以降も継続して活用し、段階的に理解を深める。
17	看護実践の展開 ＊隔週に 1 回ずつ	<u><b>周術期における問題抽出・優先度判断と看護目標設定</b></u> 1. 第 17 回で整理した K さん(就労中の胃がん患者)事例情報の振り返りと整理の理解 2. 身体面(術前状態・循環危険因子・回復リスク)／心理面(不安・葛藤)／社会面(家族役割・仕事・生活背景)における問題抽出の理解 3. 安全・生命・生活影響を踏まえた問題の優先度判断の視点の理解 4. 術前～術後・退院後を見据えた短期・中期の看護目標設定の理解 5. 看護問題・共同問題の整理と焦点化の理解 6. チームで共有可能な問題リスト作成の視点の理解	講義	西	患者の問題を単に列挙するのではなく、安全・生命維持・生活への影響の観点から優先度を判断する力の育成を目指す。 第 19 回以降の合併症予防および急変対応につながる内容である。
18		<u><b>合併症予防・急変対応の視点の統合</b></u> 1. 第 18 回で整理した優先課題の振り返り 2. 胃がん周術期における合併症リスク(呼吸・循環・感染・DVT・創部・精神心理)の理解 3. ムーアの術後生理分類を活用した回復過程の理解 4. 正常経過と異常兆候の違いを踏まえた観察視点の理解 5. 異常兆候出現時の初期対応(ABC)と報告判断の理解 6. 合併症予防・早期発見・回復促進につながる看護介入の理解	講義 演習	西	「起きてから対応する看護」ではなく、「起こる前に予測し備える看護」を意識した臨床判断力の育成を目標とする。 これまで学修してきた救急および集中治療の内容とも関連づけて理解を深める回である。
19		<u><b>退院支援・心理社会的支援と生活再建</b></u> 1. 身体回復だけでなく退院後生活を見据えた継続看護の視点の理解 2. 就労・家族役割・社会参加を踏まえた退院支援の理解 3. 術後生活・セルフケア・服薬・再発予防に関する支	講義	西	退院後を見据えた継続看護の視点を重視し、身体的回復のみならず、不安・仕事・家族・社会生活を含めた支援を総合的に検討する。 心理・社会的側面を理論的

回数	単元	内容	方法	講師	備考
		援視点の理解 4. ラザルスのストレス・コーピング理論を用いた不安理解の視点の理解 5. アギュララ危機理論を用いた心理支援の構造理解 6. 生活再建に向けた心理・社会的支援計画づくりの理解			に理解し、実践に基づいた計画立案の基礎を養うことを目的とする。
20		<u>統合整理と臨床実践への展開</u> 1. 第 17～20 回の学習内容の統合理解 2. 看護過程を「書式」ではなく臨床判断プロセスとして活用する視点の理解 3. 患者理解の言語化とカンファレンス展開の理解 4. ロールプレイなどを通じた関わり方の実践的理解 5. 看護過程を臨床で“使える力”として運用する視点の理解	講義 演習	西	第 17 回からの内容を総合的に統合するまとめの回である。 看護過程を「書式」ではなく、臨床判断のプロセスとして活用できる力を確認することを目的とする。 患者理解と看護実践を結び付け、自身の学びを整理し、臨床場面へ活用する視点を明確にする回である。
21		<u>シミュレーション</u> 1. これまでの学修内容を統合した臨床場面想定 of 理解 2. AMI・周術期・ICU ケアの判断と対応の理解 3. 患者・家族への支援視点を含めた看護実践の理解 4. 看護過程を臨床判断プロセスとして活用する視点の理解	演習	西	これまで学修してきた救急・集中治療・周術期看護および看護過程の内容を統合し、実践場面を想定した判断と対応を確認する
22		5. 自己評価および振り返りによる学修整理の理解	演習	西	
23		終了試験（45 分）		西	

#### 【科目関連及び進度について】

解剖生理学、病理学、臨床外科総論、成人看護学概論、看護技術を想起しながら、学習していく。

#### 【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

#### 【テキスト】

<メインテキスト>

成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂

成人看護学 急性期看護Ⅱ クリティカルケア 南江堂

臨床外科看護総論 医学書院

<補完>

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器科 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 医学書院

**【参考文献】**

病気がみえる 呼吸器 メディックメディア  
病気がみえる 消化器 メディックメディア

**【授業外における学修方法及び時間】**

1. 次回の講義に対する事前の課題を提示するため、毎回 1 時間程度の事前学習を要する

## 専門分野

【科目】成人看護方法論Ⅲ

【単元】全人的苦痛の緩和や人生の最終段階に向けた看護<sup>1)2)</sup>、終末期にある患者の看護<sup>1)</sup>

【単位数・時間】1単位（30時間）

【開講時期】後期

【配当年次】2年

【担当講師】田尻朝恵<sup>1)</sup> 清武香<sup>2)</sup>

【所属・職位等】1)専任教員 2)都城医療センター副看護師長・緩和ケア認定看護師

【実務経験】1)看護師15年

### 【授業における到達目標】

1. 終末期にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的（スピリチュアル）特徴を理解できる。
2. 終末期にある対象の身体的苦痛に対する治療、看護について理解できる。
3. 終末期にある対象の精神的苦痛に対する治療、看護について理解できる。
4. 終末期にある対象の社会的苦痛やスピリチュアルペインに対する看護を述べることができる。
5. 終末期における対象とその家族とのコミュニケーションについて説明できる。
6. 在宅緩和ケアを受ける患者への支援や調整について理解できる。
7. 緩和ケアにおける倫理的問題について理解できる。
8. 患者家族・遺族の思い、生じる問題、支援方法について理解できる。
9. 終末期にある対象・家族を支えるために必要な看護を展開できる。

### 【授業の概要】

終末期看護及び緩和ケアを必要とする成人とその家族を支えるために、人間の尊厳を考え、最期まで生きることを支えるケアについて学習する。

### 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	全人的苦痛の緩和や人生の最終段階に向けた看護	1. 死の理解 2. 終末期と終末期医療の理解 3. 終末期のある患者・家族の理解 4. 終末期医療と看護の理解	講義	田尻	
2		1. 終末期医療における看護の機能・役割 1) 終末期医療における看護 2) 終末期医療における看護の成果 3) 終末期医療における看護の専門性 2. 終末期における患者・家族とのコミュニケーション 1) 悪い知らせを伝える際のコミュニケーション 2) 意思決定支援 3) アドバンスケアプランニング（ACP） 3. 終末期における退院支援・地域連携 終末期医療における多職種連携と看護の役割	講義	清武	
3		1. 終末期における倫理 2. がんの終末期で直面する倫理的課題 IC、安楽死・尊厳死、延命治療の差し控えと中止、鎮静、倫理的ジレンマ	講義	清武	
4		1. 全人的苦痛の緩和① 1) 緩和ケアとは 2) 緩和ケアにおける看護の役割 症状マネジメントと看護 症状マネジメントモデル コンフォート理論の活用	講義	清武	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
		3) 終末期の身体的苦痛へのケア ・倦怠感、食欲不振、呼吸困難、悪心・嘔吐、 腹部膨満、便秘、下痢、浮腫、悪液質 ・疼痛マネジメント ・WHOがん疼痛ガイドライン			
5		1. 全人的苦痛の緩和② 4) 終末期の精神的苦痛へのケア 精神症状のマネジメントと看護 不安、抑うつ、悲哀/悲嘆、不眠、せん妄 5) 終末期の社会的苦痛へのケア 社会的苦痛、家族関係、経済的問題	講義	清武	
6		1. 全人的苦痛の緩和③ 6) スピリチュアルケア スピリチュアリティとは スピリチュアルペイン スピリチュアルペインを和らげるケア 死にゆく人の心理過程（キューブラロス）	講義	清武	
7		1. 終末期における日常生活のケア 整容・清潔、口腔ケア、移動・移乗、体位変換、 食事、排泄、睡眠、環境調整	講義	田尻	
8		1. 臨死期の看護 臨死期の理解 臨死期における看護の役割 臨死期における症状マネジメント 臨終前後の看護 ・臨終までの一般的な経過、死の徴候 ・看護師の役割 エンゼルケア・ビリーブメントケア	講義	田尻	
9		1. 家族への緩和ケア グリーフケア、家族の危機 家族機能・家族システムの変化 ソーシャルサポート 臨終を迎えるまでの家族の心理過程 残された家族の家族機能の再構築への支援 悲嘆反応、悲嘆のプロセス 予期悲嘆、悲嘆と遺族ケア 看護師が行う全人的ケア 2. 医療従事者へのグリーフケア 医療従事者が経験する喪失悲嘆 喪失悲嘆に対するケア・デスカンファレンス	講義	清武	
10	終末期にある患者の看護	膵臓がんの終末期にある成人期の対象の看護 1. 対象の理解① 1) 臨床経過の把握 2) 症状のメカニズム	講義	田尻	
11		膵臓がんの終末期にある成人期の対象の看護 1. 対象の理解② 1) 症状マネジメント	講義		
12		膵臓がんの終末期にある成人期の対象の看護 1. 対象の理解③	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
		2) 精神的苦痛の理解 3) 社会的苦痛の理解 4) 霊的苦痛の理解			
13		膵臓がんの終末期にある成人期の対象の看護 2. 症状緩和の看護 1) 症状緩和 2) エネルギー消耗を最小限にしたケアの工夫	講義		
14 15		膵臓がんの終末期にある成人期の対象の看護 1. 看護の実践 1) 症状緩和 2) エンゼルケア、グリーフケア	演習		
		終了試験(45分)			

#### 【科目関連及び進度について】

解剖生理学、病理学、臨床看護総論、フィジカルアセスメントに関する授業の学びを関連付け、臨床判断に基づいて思考する。

単元「終末期にある患者の看護」は、緩和ケア認定看護師とがん疼痛看護認定看護師による講義が終了後、開講する。

#### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

#### 【テキスト】

新体系看護学全書 経過別成人看護学4 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア（メジカルフレンド）

病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図（医学書院）

看護過程に沿った対症看護 第5版 病態生理と看護のポイント（学研）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器（医学書院）

#### 【参考文献】

国民衛生の動向

系統看護学講座 別巻 緩和ケア（医学書院）

#### 【授業外における学修方法及び時間】

15時間の自己学習時間は校外授業、文献講読、看護過程の展開等の課題に取り組む。

## 専門分野

【科目名】 老年看護方法論Ⅱ 【単位数・時間】 1 単位 (30 時間)  
 【単元】 健康障害のある高齢者の看護<sup>1)</sup>、高齢者の経過期に応じた看護<sup>2)3)</sup>、  
 高齢者に特有の疾患についての看護<sup>4)5)</sup>  
 【担当講師】 永田歩<sup>1)</sup>、古川理沙<sup>2)</sup>、榎田美香<sup>3)</sup>、河野仁彦<sup>4)</sup>、田上淑子<sup>5)</sup>  
 【開講時期】 第 2 学期 【配当年次】 2 年次  
 【所属・職位等】 1) 専任教員 2) 都城医療センター副看護師 3) 都城医療センター副看護師長  
 4) 医療法人一誠会 都城新生病院院長  
 5) 社会医療法人如月会若草病院理事 在宅部門部長・看護師  
 【実務経験】 看護師 18 年

### 【授業における到達目標】

1. 健康障害をもつ高齢者及びその家族が「もてる力」を活かし、その人らしい生活を支える援助を理解する。
2. 健康障害をもつ高齢者及びその家族を支える看護を展開できる。

### 【授業の概要】

本授業では、老年看護学概論や老年看護方法論Ⅰにて学習した高齢者の特徴や高齢者に応じた生活支援の方法を土台に、高齢者の療養生活の支援の在り方について学ぶ。高齢者の経過期に応じた看護、検査・治療を受ける高齢者の看護、高齢者特有の疾患のある対象の看護について学習する。その後、演習を行い高齢者の意思決定支援について理解を深めていく。

### 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	健康障害のある高齢者の看護	1. 高齢者の療養生活の支援 1) 外来を受診する高齢者の看護 2) 安全・安楽な検査の援助 (1) 加齢による検査結果への影響 (2) 検査を受ける高齢者への身体機能・認知機能に応じた援助 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 (1) 高齢者の薬物動態の特徴 (2) 高齢者の服薬行動の特徴 (3) ポリファーマシー (4) 身体機能・認知機能に応じた服薬管理支援	講義	永田	
2		1. 医療施設から退院する高齢者の看護 1) 医療施設の入退院の現状 (1) 医療施設から退院する高齢者の特徴 (2) 療養生活の再構築 2) 医療施設退院時の看護の実際 (1) 入院前からの情報収集 (2) 退院支援・退院調整 (3) 家族との協働 (4) 退院時における多職種連携	講義	永田	
3	高齢者の経過期に応じた看護	1. 経過期に応じた看護 1) 急性期の高齢者の看護 (1) 急性期入院医療の特徴と高齢者への影響 (2) 急性期における高齢者の特徴と看護 2) 手術療法を受ける高齢者の看護 3) 高齢者のリハビリテーション看護	講義	古川	



回数	単元	内容	方法	講師	備考
4		1. 経過期に応じた看護 4) 慢性期の高齢者の看護 (1) 慢性期の高齢者の特徴 (2) 慢性期における高齢者の看護 5) 終末期の高齢者の看護 (1) 高齢者のエンドオブライフケア：有終の美を飾るケア (2) 高齢者の疾病と死への軌跡 (3) 尊厳の保持：生を支える (4) 高齢患者の看護に関する意思決定についての課題 (5) 高齢者の尊厳を支える看取り (6) 家族が高齢者の死を受容するための支援	講義	榎田	
5	高齢者に特有の疾患についての看護	1. 高齢者特有の疾患 1) 認知症の病態・症状 2) 脳血管性認知症、アルツハイマー型	講義	河野	
6		1. 高齢者特有の疾患 3) うつ 4) せん妄	講義	河野	
7		2. 高齢者特有の疾患のある対象の看護 1) 認知症高齢者の看護	講義	田上	
8		2) 高齢者のうつと看護	講義	田上	
9	健康障害のある高齢者の看護	1. 脳血管疾患後遺症のある患者の看護 1) 複数疾患を併存する病態理解 2) 加齢変化をふまえた心理的特徴の理解	講義	永田	
10		1. 脳血管疾患後遺症のある患者の看護 3) 長い生活歴からとらえる価値観	講義	永田	
11		1. 脳血管疾患後遺症のある患者の看護 4) 高齢者の家族の状況の理解 5) 自助・互助・共助・公助の視点で社会資源をとらえる	講義	永田	
12		1. 脳血管疾患後遺症のある患者の看護 6) ICFの視点で対象のもてる力を把握	講義	永田	
13		1. 脳血管疾患後遺症のある患者の看護 7) 高齢者のもてる力を活かす関わり 8) 生活の再構築へむけた関わり	講義	永田	
14・15		1. 脳血管疾患後遺症のある患者の看護 9) 高齢者のもてる力を活かした排泄援助の実践 10) 在宅での生活に向けた対象・家族への支援の実践	演習	永田	
		終了試験			

#### 【試験・課題等の内容】

講義の学びを深めるために事前学習を行う。

#### 【評価方法】

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

#### 【テキスト】

看護学テキスト NiCE 老年看護学概論改訂第4版～「老いを生きる」を支えることとは～(南江堂)

看護学テキスト NiCE 老年看護学技術改訂第 4 版～最後までその人らしく生きることを支援する～  
(南江堂)

【参考文献】

生活機能からみた老年看護過程 ＋病態・生活機能関連図 医学書院  
病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

授業の振り返りと次回の授業の準備で毎回 1 時間ほどの時間を要する

専門分野

【科目】小児看護方法論Ⅰ 【単位数・時間】1単位(30時間)  
 【担当講師】入江慎二  
 【開講時期】第1学期 【配当年次】2年  
 【所属・職位等】周産期・母子医療副センター長 新生児集中治療室長

【授業における到達目標】

小児の成長・発達及び各疾患の病態・症状・診断・治療について理解できる。

【授業の概要】

小児の正常な身体の成長・発達をふまえ、小児に特有の各疾患の病態・症状・診断・治療について教授し、小児看護学方法論Ⅱで学ぶ健康障害をもつ小児の看護につなげていく。

【授業計画】

回数	内容（方法）	方法	講師	備考
1	正常な身体の成長・発達、形態的・機能的発達	講義		
2	呼吸器系疾患：肺炎、クループ症候群、急性気管支炎	講義		
3	感染症：麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、突発性発疹	講義		
4	感染症：急性灰白髄炎、流行性髄膜炎、手足口病	講義		
5	膠原病：アレルギー疾患：小児気管支喘息、アトピー性皮膚炎	講義		
6	循環器系疾患：心房中隔欠損、心室中隔欠損、ファロー四徴症、川崎病、動脈管開存症、	講義		
7	代謝系疾患：Ⅰ型小児糖尿病	講義		
8	腎・泌尿器系疾患：ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、ウィルムス腫瘍	講義		
9	運動器系疾患：先天性股関節脱臼、骨折	講義		
10	内分泌系疾患：成長ホルモン分泌不全性低身長症	講義		
11	血液・造血器系疾患：血友病、白血病	講義		
12	脳神経系疾患：脳性麻痺、脳腫瘍、二分脊椎、水頭症、てんかん、熱性痙攣	講義		
13	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常：ダウン症候群、18トリソミー	講義		
14	精神疾患：発達障害、神経症性障害	講義		
15	事故・外傷：頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症、乳幼児突然死症候群	講義		
	終了試験(45分)			

【科目関連及び進度】

小児看護学概論で学んだ小児の成長・発達に関する知識や、解剖学や病理学での知識と関連させて学ぶ。なお、本科目における知識は小児看護学方法論Ⅱで活用する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院

【参考文献】

参考文献については適宜紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】※15 時間（900 分）

1. DVDを視聴し、気管支喘息の患児の看護、川崎病について理解する。  
Vol.1 喘息発作で入院した小児の看護事例  
Vol.3 急性胃腸炎で入院した小児の看護事例  
Vol.5 川崎病で入院した小児の看護事例
2. 小児に特有な各疾患の病態・症状・診断・治療の理解を深めるための学習

## 専門分野

**【科目】** 小児看護方法論Ⅱ  
**【単元】** 健康障害のある小児の看護<sup>1)2)3)4)5)6)</sup>、子どもへの看護技術<sup>1)</sup>  
**【単位数・時間】** 2単位(45時間)  
**【担当講師】** 今田南生人<sup>1)</sup> 後藤有美<sup>2)</sup> 福丸和也<sup>3)</sup> 山田恵<sup>4)</sup> 田中有希<sup>5)</sup> 加藤友章<sup>6)</sup>  
**【開講時期】** 通年 **【配当年次】** 2年  
**【所属・職位等】** 1)専任教員 2)都城医療センター看護師 3) 都城医療センター副看護師長  
4)都城医療センター看護師 5) 都城医療センター副看護師長  
6)宮崎病院副看護師長  
**【実務経験】** 1)看護師 11年

### 【授業における到達目標】

成長・発達及び健康障害のある小児と家族の特徴と必要な看護について理解できる。

### 【授業の概要】

成長・発達及び健康障害のある小児と家族の特徴について、代表的な疾患を用いながら講義・演習を交えて授業を展開する。各疾患については、小児看護方法論Ⅰで学んだことを活用し、VTR等も用いて健康障害をもつ小児をイメージ化できるように授業を行っていく。

### 【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
1	健康障害のある小児の看護	病気や入院が小児と家族に与える影響とその看護 入院中の子どもと家族の看護	講義	今田	
		地域、外来、病院における看護と保健・医療・福祉システム 看護・他職種の役割と連携			
2		・外来における看護 ・在宅療養中の小児と家族の看護 先天的な問題を持つ患児と家族の看護	講義	後藤	
3		小児の急性期における看護 ・手術を受ける患児と家族の看護	講義	福丸	
4		小児の慢性期における看護 ・喘息をもつ患児と家族の看護		福丸	
5		小児の終末期における看護 ・白血病の患児と家族の看護		福丸	
6		低出生体重児と家族の看護 ・NICU・GCU に入院している患児の特徴 胎外生活適応促進に向けた看護 ディベロップメンタルケア ・NICU・GCU に入院している患児の家族の特徴と看護	講義	山田	
7		先天異常・心身障害のある子どもと家族への看護	講義	今田	
8		重症心身障害児(者)とその家族の看護		加藤	
9		子どもの健康障害に伴う症状と看護① 不機嫌や啼泣の意味、発熱、痛み	講義	田中	
10	子どもの健康障害に伴う症状と看護② 嘔吐、下痢、脱水	講義	田中		

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
11		子どもの健康障害に伴う症状と看護③ 発疹、呼吸困難、痙攣	講義	田中	
12	子どもへの看護技術	子どもに対するコミュニケーション技術	講義	今田	
13		子どもへのフィジカルアセスメント① 全身状態の把握	講義	今田	
14		子どもへのフィジカルアセスメント② バイタルサイン、身長・体重・胸囲・頭囲の測定	演習	今田	
15		検査処置を受ける子どもへの看護技術① 検体採取（採血・採尿）、与薬法、輸液療法	講義	今田	
16		検査処置を受ける子どもへの看護技術② 検体採取、与薬法の演習	演習	今田	
17		検査処置を受ける子どもへの看護技術③ 腰椎穿刺、骨髄穿刺、吸引、吸入、プレパレーション、 ディストラクション	講義	今田	
18		検査処置を受ける子どもへの看護技術④ 腰椎穿刺、骨髄穿刺、プレパレーションの演習	演習	今田	
19		疾患をもつ子どもの看護過程① 小児における看護過程の考え方	講義	今田	
20		疾患をもつ子どもの看護過程② 疾患や治療の理解と考察	講義	今田	
21		疾患をもつ子どもの看護過程③ 発達の評価、生活や家族の理解と評価	講義	今田	
22		疾患をもつ子どもの看護過程④ 子どもへの看護計画立案	講義	今田	
23	終了試験(45 分)				

#### 【科目関連及び進度】

小児看護学方法論Ⅰ 3 回目終了後から本科目を開始し、小児特有の疾患と関連させて学ぶ。

#### 【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

#### 【テキスト】

小児看護学Ⅰ—小児看護学概論・小児看護技術—改訂第4版(南江堂)

小児看護学Ⅱ—小児看護支援論—改訂第4版(南江堂)

#### 【授業外における学修方法及び時間】

1. 次回の授業に対する事前課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

2. DVDを視聴し、気管支喘息の患児の看護、川崎病の患児の看護について理解する。

Vol.1 喘息発作で入院した小児の看護事例

Vol.3 急性胃腸炎で入院した小児の看護事例

Vol.5 川崎病で入院した小児の看護事例

## 専門分野

【科目】母性看護学方法論Ⅰ

【単元】妊娠期の看護 1)2)、分娩期の看護 1)、産褥期の看護 1)、新生児期の看護 2)3)

【単位数・時間】2単位(45時間)

【担当講師】西畑久美子<sup>1)</sup> 一柳明日香<sup>2)</sup> 山田恵<sup>3)</sup>

【開講時期】第1学期

【配当年次】2年

【所属・職位等】1)みまた助産院 助産師 2)専任教員 3)都城医療センター看護師  
新生児集中ケア認定看護師

【実務経験】2)看護師 7年

### 【授業における到達目標】

正常な経過をたどる妊娠・分娩・産褥・新生児期の特徴と看護について理解する。また、母子愛着形成や新たな役割獲得に向けた支援について理解する。

### 【授業の概要】

妊娠・分娩・産褥期における身体的・心理的・社会的特徴と看護、新生児の生理的特徴と看護について教授する。また、母性看護学における対象理解と必要な看護について考えるため看護過程を展開し、母親のセルフマネジメントを支援するための学習支援について学ぶ。

### 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	妊 娠 期 の 看 護	1. 非妊時の身体的特徴 2. 妊娠の成立と妊娠の診断 3. 妊娠期間と分娩予定日 4. 妊娠期の身体的特徴 (1) 妊娠時期に応じた生殖器の変化 (2) 妊娠に伴う全身の変化	講義	西畑	
2		1. 妊娠期の心理的特徴 (1) 妊婦の複雑な情緒的变化 (2) 妊婦の情緒的变化がもたらすパートナーと子どもたちへの影響 (3) 親役割取得過程	講義		
3		1. 胎児の発育と胎児付属物の機能 2. 妊婦健康診査の概要 3. ヘルスアセスメントに必要な技術 4. 妊婦への検査	講義		
4		1. 母性看護学における看護の特徴 1) ウェルネス診断 2) セルフケア確立に向けた援助 3) 愛着形成・役割獲得に向けた看護目標・看護計画	講義	一柳	
5		2. 妊娠期の看護 1) 妊婦のアセスメント	演習		事例を用いる
6		2) 妊娠期の看護計画立案 指導計画立案	演習		事例を用いる

回数	単元	内容	方法	講師	備考
7		3) 妊婦の看護（演習） ※技術演習 レオポルド触診法 腹囲・子宮底測定	演習		基礎看護実習室
8	分娩期の看護	1. 出産準備への看護（出産準備教育） 1) 分娩を理解するための教育・学習 2) 安楽な分娩のための教育・学習 3) 満足感のある出産体験とするための教育・学習 (1) バースプラン 4) 母親役割に伴う知識と技術の学習 (1) 育児の準備 (2) 母乳育児の準備 5) 父親役割に伴う知識と技術の学習	講義	西畑	
9		1. 分娩の要素 1) 分娩期とは 2) 分娩期にある対象の特性 3) 産婦の分類、分娩の分類、分娩経過 4) 分娩の3要素 5) 正常分娩の機転	講義		
10		1. 分娩開始の予知 2. 分娩開始の判断 (1) 分娩開始とは (2) 分娩開始の徴候 3. 分娩経過の判断 1) 陣痛の評価 2) 分娩所要時間の評価 3) 破水の評価 4) 児頭先進部下降の評価 5) 胎児と骨産道均衡の評価 4. 胎盤娩出状態の判断 5. 胎児の健康状態の判断	講義		
11		1. 正常分娩の経過 2. 分娩が母体に及ぼす影響 3. 分娩が胎児に及ぼす影響 4. 分娩経過に影響を及ぼす因子 5. 産痛 (1) 産痛の発生機序 (2) 産痛に影響を与える因子 (3) 分娩各期における産痛部位の変化 (4) 産痛の観察と評価 (5) 産痛緩和とゲートコントロール理論 (6) 産痛緩和と $\beta$ エンドルフィンの働き 6. 産婦の心理 (1) 産婦の心理的特性 7. 分娩期の夫の心理と夫・家族への支援	講義	西畑	



回数	単元	内容	方法	講師	備考
12		1. 分娩期の看護 2. 分娩第1期の看護 (1) 病院への来院時期      (2) 日常生活の援助 (3) 安全な分娩への援助    (4) 産痛緩和の援助 (5) 不安緩和の援助 (6) 自己コントロール感への援助 3. 分娩第2・3期の看護 (1) 日常生活の援助 (2) 自己コントロール感への援助 (3) 安全な分娩への援助 (4) 母親役割獲得への援助 4. 分娩直後の看護 (1) 安全な分娩への援助 (2) 日常生活の援助 (3) 自己コントロール感への援助	講義		
13	産褥期の看護	1. 産褥経過の理解 1) 産褥の定義 2) 産婦の復古現象 3) 乳汁分泌 4) 全身の変化	講義	西畑	
14		2. 褥婦の理解と看護 1) 褥婦のアセスメント (1) 産褥経過の診断 (2) 褥婦の健康状態のアセスメント	講義	西畑	
15		2) 褥婦と家族の看護 (1) 身体機能回復及び進行性変化への看護 (2) 児との関係確立への看護 (3) 育児技術に関わる看護 (4) 家族関係再構築への看護 3) 退院後の看護 (1) 育児不安と育児支援      (2) 職場復帰	講義	西畑	
16	新生児の看護	1. 新生児の生理 1) 新生児の生理 2) 新生児の健康診断	講義	山田	
17		2. 新生児の理解と看護 1) 新生児のアセスメント (1) 新生児の診断 (2) 新生児の健康状態のアセスメント	講義		
18		2) 新生児の看護 (1) 出生直後の看護 (2) 出生後から退院までの看護	講義		
19		3) 新生児のアセスメント 4) 新生児の看護計画	演習	一柳	事例を用いて沐浴を立案

回数	単元	内容	方法	講師	備考
20		1. 新生児の沐浴（演習）	演習		基礎看護実習室 A・Bクラスに分けて実施
21・ 22		看護実践（育児技術）	ロールプレイ	一柳	基礎看護実習室
23		終了試験(45分)			

#### 【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅰ及び母性看護学概論の学びを想起し、母性看護方法論Ⅰ・Ⅱに関連させて学ぶ。

#### 【試験・課題等の内容】

- ・技術チェック：沐浴
- ・終了試験は授業で教授した内容から出題する。
- ・グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。
- ・沐浴の技術チェックは、評価基準に則り、評価を行う。学生は、技術チェックについては、必ず年度内に合格する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

#### 【テキスト】

母性看護学Ⅰ（概論）女性・家族に寄り添い健康を支えるウィメンズヘルスケアの追求 医歯薬出版株式会社

母性看護学Ⅱ（周産期各論）質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得 医歯薬出版株式会社

根拠と事故防止からみた 母性看護技術 医学書院

#### 【参考文献】

新体系看護学全書 母性看護概論／ウィメンズヘルスと看護 母性看護学① メヂカルフレンド社  
新体系看護学全書マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 母性看護学② メヂカルフレンド社

写真でわかる母性看護技術 インターメディカ

病気が見える(9)婦人科・乳腺外科 メディックメディア

病気が見える(10)産科 メディックメディア

ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版

ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院

#### 【授業外における学修方法及び時間】

- ・次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

## 専門分野

【科目】母性看護方法論Ⅱ

【単元】異常な妊娠・分娩・産褥のメカニズム<sup>1)</sup>、異常な妊娠・分娩・産褥の看護<sup>2)</sup> 3)

【単位数・時間】1 単位 (30 時間)

【担当講師】古田賢<sup>1)</sup> 甲斐小百合<sup>2)</sup> 木下純佳<sup>3)</sup>

【開講時期】第 2 学期

【配当年次】2 年

【所属・職位等】1) 都城医療センター周産期・母子医療センター長 2) 3) 都城医療センター助産師

### 【授業における到達目標】

妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常な経過をたどる対象を理解し、適切な看護の知識と援助方法を学ぶ。

### 【授業の概要】

遺伝相談と看護、不妊治療と看護、妊娠の異常と看護、分娩の異常と看護、新生児の異常と看護、産褥の異常と看護、児を亡くした褥婦と家族の看護、精神障害がある妊婦・産婦・褥婦の看護、継続看護（妊娠期から産褥期にかけて）を教授する。

### 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	異常な妊娠・分娩・産褥のメカニズム	1. 遺伝相談 1) 遺伝相談とは 2) 出生前診断 3) 出生前診断の実際 4) 着床前診断 5) 胎児治療と遺伝子治療 2. 不妊治療 1) 不妊とその原因 2) 不妊検査 3) 不妊治療	講義	古田	
2		3. 妊娠の異常 1) ハイリスク妊娠（妊娠糖尿病を含む） 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患（妊娠悪阻を含む） 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 6) 妊娠合併症 7) 子宮外妊娠 8) 胎児および附属物の異常	講義		
3		4. 分娩の異常 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児の異常による分娩障害（胎位・胎向・回旋の異常） 4) 胎児の付属物の異常 5) 分娩時損傷 6) 分娩第 3 期および分娩直後の異常 7) 分娩時異常出血と処置 8) 産科処置と手術（分娩誘発、会陰切開、骨盤位牽出術、帝王切開術）	講義		
4		5. 新生児の異常 1) 新生児仮死 新生児一過性多呼吸＜TTN＞ 2) 呼吸窮迫症候群＜RDS＞ 3) 胎便吸引症候群＜MAS＞ 4) 高ビリルビン血症 5) 新生児ビタミン K 欠乏症 6) 低血糖症	講義		

回数	単元	内容	方法	講師	備考
5		6. 産褥期の異常 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 乳腺炎 3) マタニティブルーズ 4) 産後うつ病	講義		
6	異常な妊娠・分娩・産褥の看護	1. 遺伝相談と看護 1) 出生前診断を受ける人への看護 2. 不妊治療と看護 1) 不妊治療を受けている対象の心理・社会的特徴 2) 不妊夫婦の看護	講義	甲斐木下	
7・8		3. 妊娠の異常と看護 1) ハイリスク妊娠（妊娠糖尿病を含む） 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患（妊娠悪阻を含む） 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 6) 妊娠合併症 7) 子宮外妊娠 8) 胎児および附属物の異常	講義		
9・10		4. 分娩の異常と看護 1) 分娩の異常時の看護 2) 産科処置と手術（分娩誘発、会陰切開、骨盤位牽出術、帝王切開術）時の看護 3) 異常のある産婦の看護 （1）破水が生じた産婦の看護（前期破水） （2）分娩遷延のリスクがある産婦の看護 （3）胎児ジストレスを生じる恐れのある産婦の看護 （4）急速遂娩の産婦の看護 （5）緊急帝王切開を受ける産婦の看護 （6）分娩時異常出血のある産婦の看護	講義		
11		5. 帝王切開を受ける対象の看護 1) 妊娠期（産前） 2) 手術中 3) 産褥期（術後）	講義		
12		6. 新生児の異常と看護 1) 早産児 2) 低出生体重児 3) 高ビリルビン血症 4) 新生児ビタミンK欠乏症 5) 新生児蘇生	講義		
13		7. 産褥期の健康問題に対する看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 3) 乳房トラブル 4) 帝王切開術後	講義		
14		8. 児をなくした褥婦・家族の看護 1) グリーフケア 9. 精神障害がある妊婦・産婦・褥婦の看護 1) マタニティーブルーズ 2) 産後うつ病	講義		
15		10. 継続看護（妊娠期から産褥期にかけて） 1) 女性のライフサイクルと周産期の看護 2) 妊娠・分娩・産褥期の継続看護	講義		
		終了試験(45分)			

【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅰ及び母性看護学概論の学びを想起し、母性看護方法論Ⅰ・Ⅱに関連させて学ぶ。  
産後うつ病については、精神看護学方法論の学びを関連させて学ぶ。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

母性看護学Ⅱ(周産期各論)質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得 医歯薬出版株式会社  
根拠と事故防止からみた 母性看護技術 医学書院

【参考文献】

新体系看護学全書マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 母性看護学② メヂカルフレンド社  
病気が見える(9)婦人科・乳腺外科 メディックメディア  
病気が見える(10)産科 メディックメディア

## 専門分野

【科目】精神看護方法論Ⅰ	【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】河野 仁彦	
【開講時期】第1学期	【配当年次】2年次
【所属・職位】医療法人一誠会 都城新生病院 院長	

### 【授業における到達目標】

1. 精神疾患/障害の診断基準と分類を説明できる。
2. 主な精神疾患/障害の疾患概念と定義、病因、症状と状態、治療と支援を説明できる。
3. 精神疾患/障害の主な治療法を説明できる。
4. 代表的な精神療法の適応・技法・治療機序を説明できる。
5. 医療機関で行われる精神科リハビリテーションの適応と目的を説明できる。

### 【授業の概要】

主な精神疾患/障害の症状と状態像、主な検査と治療法を学習する。

### 【授業計画】

回	内容	方法	講師	備考
1	I 精神症状と状態像 II 精神科的診察 1. 診察 2. 一般検査・画像検査 3. 心理検査	講義	河野	
2	III 精神疾患/障害の診断基準・分類 IV 主な精神疾患/障害と治療・対応 1. 神経発達症/障害群 2. 統合失調症スペクトラム障害	講義	河野	
3	IV 主な精神疾患/障害と治療・対応 3. 双極性障害および関連障害群 4. 抑うつ障害群 5. 不安症/障害群 6. 強迫症および関連症/障害群	講義	河野	
4	IV 主な精神疾患/障害と治療・対応 7. 心的外傷およびストレス因関連傷害群 8. 解離性症/障害群 9. 身体症状症および関連症群 10. 食行動障害および摂食障害群	講義	河野	
5	IV 主な精神疾患/障害と治療・対応 11. パーソナリティ障害群 12. てんかん	講義	河野	
6	V 精神疾患の主な治療法 1. 薬物療法 2. 電気けいれん療法	講義	河野	
7	V 精神疾患の主な治療法 3. リハビリテーション療法 4. 精神科デイケア VI 精神療法	講義	河野	
8	終了試験（45分間）			

### 【科目関連及び進度について】

精神看護の実践的内容となる精神看護方法論Ⅱに繋がる学習内容である。

【試験・課題等の内容】

- ・試験  
教授内容の理解を問う。
- ・課題  
必要時提示する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【参考文献】

新体系看護学全書 精神看護学 1 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社

【授業外における学修方法及び時間】

本科目は講義以外に 30 時間程度の学修を必要とする。

## 専門分野

【科目】精神看護方法論Ⅱ  
 【単元】精神障害をもつ人の経過に応じた看護<sup>1)</sup>、精神疾患・症状をもつ人の看護<sup>2)</sup>、  
 精神障害をもつ人の特徴と看護<sup>3)</sup>  
 【単位数・時間】2単位(45時間)  
 【担当講師】出口由美<sup>1)3)</sup> 中山秋子<sup>2)</sup>  
 【開講時期】1学期 【配当年次】2年次  
 【所属・職位等】1)3)専任教員 2)一般社団法人藤元メディカルシステム藤元病院 元看護部長  
 【実務経験】1)3)看護師 18年

### 【授業における到達目標】

1. 精神障害をもつ人を主体的存在として捉え、障害・疾患、スティグマ、ICF、リカバリーの概念を踏まえて生活機能と回復の視点から説明することができる。
2. ペプロウの人間関係の看護論を基盤に、治療的な患者—看護師関係の構築過程と看護師の役割を説明できる。
3. 精神障害をもつ人との関係形成に必要な基本的態度およびコミュニケーション技法を説明できる。
4. プロセスレコードを用いた患者—看護師関係を振り返り方が説明できる。
5. 薬物療法、電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法における看護師の役割と支援方法を説明できる。
6. 服薬アドヒアランスやセルフマネジメントの重要性を理解し、患者の主体性を尊重した支援のあり方を説明できる。
7. 統合失調症を中心に、急性期・回復期・慢性期・退院移行期に応じた看護の特徴と関わり方を説明できる。
8. リエゾン精神看護、司法精神医療、各精神疾患に対する看護および精神科病棟における安全管理・倫理的配慮の重要性を説明できる。
9. 精神看護における看護過程を、ストレングスの活用、患者のペースの尊重、目標志向の視点で展開できる。

### 【授業の概要】

本授業では、精神障害をもつ人を主体的存在として理解し、治療的な患者—看護師関係を基盤とした看護実践を学ぶ。まず、看護の対象理解として精神障害をもつ人の生活機能と回復の視点を学ぶ。次に、治療的な対人関係の重要性とその構築過程、治療を受ける患者の看護、服薬アドヒアランスやセルフマネジメント支援について理解する。経過別看護では、統合失調症を中心に急性期・回復期・慢性期・退院移行期それぞれの特徴と、セルフケア支援・関わり方を学ぶ。また、リエゾン精神看護、司法精神医療、各精神疾患（うつ病、依存症、人格障害、発達障害等）に対する看護、および精神科病棟における安全管理・倫理的配慮について理解を深める。最後に、精神看護における看護過程として、アセスメント・看護診断・看護計画・実践・評価を、ストレングスの活用、患者のペースの尊重、目標志向を軸に実践を通して理解を深める。

### 【授業計画】

回	単元	内容	方法	講師	備考
1	精神障害をもつ人の経過に応じた看護	精神医療・看護の対象者の理解 ・障害と疾患 ・スティグマと障害者差別	講義	出口	
2		経過に応じた看護（統合失調症） 1. 急性期の看護 2. 回復期の看護	講義		
3		経過に応じた看護（統合失調症） 3. 慢性期の看護 4. 退院移行期の看護	講義		



回	単元	内容	方法	講師	備考
4		精神障害をもつ人と「患者—看護師」関係の構築 ・精神障害をもつ人との関わり方 ・ペプロウ：人間関係の看護論：療的な対人関係の発展 ・「患者—看護師」関係におけること	講義		
5		精神障害をもつ人とのコミュニケーション ・精神障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴 ・障害に沿ったコミュニケーションを支援する方法 ・コミュニケーション技法	講義		
6		精神障害をもつ人との関係の振り返り ・関係を振り返る意味 ・自己理解と他者理解	講義		
7		治療を受ける患者の看護 1. 薬物療法を受ける患者の看護 ・精神看護で用いる薬物の特徴 ・服薬継続への支援 2. 電気けいれん療法を受ける患者の看護	講義		
8		治療を受ける患者の看護 3. リハビリテーション療法を受ける患者の看護 SST 心理教育 精神科デイケア 精神科作業療法 4. 精神療法を受ける患者の看護 認知行動療法	講義		
9		リエゾン精神看護 司法精神看護	講義		
10	精神疾患・症状をもつ人の看護	1. 統合失調症をもつ人の看護 幻覚・妄想のある人の看護	講義	中山	
11		2. うつ病をもつ人の看護 希死念慮のある人の看護	講義		
12		3. アルコール依存症の人の看護 断酒に向かう人への看護	講義		
13		4. 強迫性障害のある人の看護 強迫観念・行為を繰り返す人の看護	講義		
14		5. 摂食障害のある人の看護 認知の歪みをもつ人の看護	講義		
15		6. 境界性人格障害のある人の看護 見捨てられ不安と自己破壊的行動のある人の看護	講義		
16		7. 注意欠如・多動性障害をもつ子の看護 不注意、多動性、衝動性をもつ子の看護	講義		
17		8. 精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮 1) 安全管理 2) 病棟環境の整備 3) 自殺・自殺企図・自傷行為の予防と対応 4) 包括的暴力防止プログラム 5) 離院の予防と発生時の対応 6) 隔離・身体拘束時の看護	講義		
18	精神障害をもつ人の特徴と	精神症状のアセスメントと援助《統合失調症》 ～環境の観察、接近、情緒的共感～	演習	出口	
19		アセスメントの検討	講義		
20		関連因子の分析と看護診断の特定	講義		

回	単元	内容	方法	講師	備考
21		看護計画の検討 ～スモールステップ、ステップバイステップの援用～	講義		
22		セルフマネジメント ～服薬継続の支援～	演習		
23		終了試験			

【科目関連及び進度について】

看護技術、精神看護学概論、精神看護方法論Ⅰの学修内容を活用しながら学習していく。

【試験・課題等の内容】

- ・試験  
教授内容についての理解を問う
- ・課題  
必要時課題を提示する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	○

【テキスト】

- ・新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社
- ・新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【参考文献】

- ・看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア 南江堂
- ・看護学テキスト NICE 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 対象の力を引き出し支える 南江堂
- ・ストレングスに基づく看護ケア テクニック編 監訳：白石裕子 看護の科学社
- ・リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術 萱間真美 医学書院
- ・ザ・ロイ適応看護モデル 第2版 著：シスター・カリスト・ロイ 監訳：松本光子 医学書院
- ・セルフケア概念と看護実践 監修：南裕子 稲岡文昭 編集：粕田孝行 へるす出版

【授業外における学修方法及び時間】

授業以外に 45 時間の学修を必要とする科目である。学修した看護過程の内容を確認して臨む必要がある。

## 専門分野

【科目】看護研究	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】山本真由美	
【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・職位等】	
【実務経験】看護師16年	

### 【授業における到達目標】

1. 看護研究の意義と必要性について理解することができる。
2. 研究課題を明確にし、研究目的達成に向けてグループで研究活動に取り組むことができる。
3. 研究成果を発表することができる。

### 【授業の概要】

看護研究は看護の質の向上を目指し行われる看護活動の一つである。本科目では、科学的根拠に基づいて看護を実践するための基盤を養うために、研究という手法を用いて学び、考え、実際に検証するという体験を通して学びを深めていく。学生はこれまでに学校の授業で学んだ内容や実習での体験を通して疑問に感じた看護現象での問いを研究疑問として明らかにし、関連研究のクリティークや文献レビューを行いながら研究課題を明らかにしていく。そして研究目的を明らかにするために適切な研究デザインを選択し、研究計画書の作成、研究活動をグループで行う。そして最終的には、実際に取り組んだ結果を研究論文としてまとめ、発表を行う

### 【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	1. 看護研究とは何か 2. エビデンスに基づく看護実践と看護研究 3. 看護研究の意義	講義	山本	
2	1. 研究疑問の導きと研究疑問の焦点化 2. 看護研究の進め方（研究のプロセス）	講義		
3	1. 研究倫理 1) 看護研究と倫理原則 2) インフォームド・コンセント 3) 個人情報の保護とプライバシーの尊重 4) 研究者としてのモラル	演習		
4	1. 文献検索と文献検討 1) 文献検索エンジンの種類と活用 2) 文献レビューの方法とクリティークの視点 3) 情報リテラシー 2. 文献レビューの作成と文献クリティーク	講義 演習		
5	1. 研究デザイン 1) 研究デザインの種類と特徴 2) 研究疑問を解決するための研究方法 2. 量的研究と質的研究	講義		
6	1. 量的研究の分析方法（Part. 1） 1) データの入力 ①Excelの活用方法 ②名義尺度の使用 2) 記述統計	演習		情報科学室にてパソコンを用いた演習を行う
7	1. 量的研究の分析方法（Part. 2） 3) 推測統計	演習		
8	1. 質的研究の分析方法	演習		

回数	内容	方法	講師	備考
9	1. 研究計画書の作成 1) 研究計画書の枠組みと記載方法 2) 研究対象者の選定 ①サンプリング 3) 研究方法の決定	講義 演習		
10	1. 研究計画書の作成 2. 研究準備 1) 研究説明書の作成 2) 研究同意書と同意撤回書の準備 3) 手順書の作成 ・質問紙：質問紙の準備（プレテスト含む） ・実験介入：追試可能な具体的方法の決定 条件合わせ など ・インタビュー：インタビューガイドの作成	演習	指導 教員	
11	1. 研究活動	演習	指導 教員	
12	1. 研究活動	演習	指導 教員	
13	1. 研究論文の作成	講義 演習	山本	
14	1. プレゼンテーション	講義 演習		
15	1. 研究発表		指導 教員	
	終講試験			

#### 【科目関連及び進度について】

本科目までに学んだ看護学の分野からテーマを決定していく。研究テーマに従ってグループを編成し、各グループに指導教員がついて指導を担当する。論文の記述に関しては、「日本語表現法」で学んだことを活かす。また、本科目での学びを活かし、3年次の「課題研究演習」では各自で事例研究に取り組む。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

#### 【テキスト】

NiCE 看護学テキスト 看護と研究 根拠に基づいた実践 南江堂  
 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

#### 【参考文献】

看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理 保健・医療データの活用 実教出版  
 看護師基礎教育テキスト 看護における研究 第3版 日本看護協会出版会  
 黒田裕子の看護研究 Step by Step 第6版 医学書院

#### 【授業外における学修方法及び時間】

1 単位 30 時間の講義であるため、授業時間とは別に 15 時間の自己学習時間を必要とする。実際の研究活動を授業時間内ですべて行うのは難しいため、データ収集や分析、論文の作成など授業時間外の学習時間を使って研究活動に取り組む必要がある。

## 専門分野

【科目】基礎看護学実習Ⅱ	【単位数・時間】2単位（90時間）
【開講時期】7月	【配当年次】2年
【担当講師】西裕也	【所属・職位等】専任教員
【実務経験】看護師15年	

### 【授業における到達目標】

- 1.受け持ち患者のアセスメントができる。
- 2.受け持ち患者の看護問題を明確にできる。
- 3.看護計画を立案できる。
- 4.患者の状態に応じた援助を実施できる。
- 5.実施した看護の評価ができる。
- 6.受け持ち患者との関わりから自己の傾向・課題がわかる。
- 7.看護チームの一員であることを自覚し、看護者として責任ある行動がとれる。

### 【授業の概要】

基礎看護学実習Ⅱでは、受け持ち患者を1名担当し、看護過程の思考過程を用いて対象を理解し、必要な看護を実践する。

### 【実習期間】

令和8年7月13日～令和8年7月30日のうち連続する12日間

### 【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

### 【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習Ⅱ 要項参照

### 【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100点）

### 【授業外における学修方法及び時間】

- 1.実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
- 2.受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習

## 専門分野

【科目】地域看護論実習Ⅰ	【単位数・時間】2単位（60時間）
【担当講師】西元 智子	【開講時期】第2学期
【配当年次】2年	【所属・職位等】専任教員
【実務経験】看護師18年	

### 【授業における到達目標】

1. 地域で生活する高齢者の特徴が理解できる。
2. 高齢者の生活機能（もてる力）を活かした援助が見学または一部実施ができる。
3. 高齢者に関わる保健・医療・福祉専門職の役割と機能が理解できる。
4. 多職種チームの一員であることを自覚し、看護者として責任ある行動がとれる。

### 【授業の概要】

地域で生活する高齢者の特徴を理解し、それぞれの生活状況に応じた支援や看護を学ぶ。

### 【実習期間】

令和8年10月19日～令和8年11月6日のうち10日間

### 【実習施設】

【介護老人福祉施設】	
社会福祉法人 恵愛会特別養護老人ホーム恵寿苑	都城市社会福祉事業団特別養護老人ホーム白寿園
社会福祉法人 観音の里特別養護老人ホーム高城園	宮崎県社会福祉事業団特別養護老人ホーム霧島荘
【介護老人保健施設】	
医療法人 魁成会 介護老人保健施設こんにちわセンター	
【デイサービス】	
社会福祉法人恵愛会恵寿苑デイサービスセンター	都城市社会福祉事業団庄内デイサービスセンター
社会福祉法人観音の里高城園デイサービスセンター	高齢者総合支援センターきりしま 霧島荘デイサービスセンター
【グループホーム】	
社会福祉法人まりあ グループホーム まりあ	社会福祉法人 恵愛会 グループホーム めぐみ
有限会社 未来企画 グループホーム オルゴール	
【養護老人ホーム】	
たちばな荘	友愛園
【包括支援センター】	沖水包括支援センター

### 【授業計画】

詳細は、地域看護論実習Ⅰ要項参照

### 【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

### 【授業外における学修方法及び時間】

詳細は、地域看護論実習Ⅰ実習要項参照

## 専門分野

【科目】成人・老年看護学実習Ⅳ

【単位数・時間】2単位（90時間）

【開講時期】2月

【配当年次】2年

【担当講師】脇田由紀子

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師 27年

### 【授業における到達目標】

1. 慢性的な経過をたどる対象及び家族に必要な支援を総合的に理解することができる。
2. 長期にわたる自己管理や症状コントロール能力を中心としたアセスメントができる。
3. 対象の自己管理や生活調整に向けた看護を実践できる。
4. 自己管理や生活調整に必要な社会資源や多職種連携について理解できる。
5. 受け持ち患者や家族と良い人間関係を築くことができる。
6. 医療チームの一員であることを自覚し、多職種の連携の在り方や看護師の役割が理解できる。

### 【授業の概要】

慢性的な病とともにある成人期・老年期にある対象や家族の特徴をとらえ健康問題・生活上の課題を理解しその人に応じた看護について学ぶ。

### 【実習期間】

令和9年2月24日～令和9年3月10日

### 【実習施設】

独立行政法人国立病院機構 宮崎東病院

独立行政法人国立病院機構 南九州病院

### 【授業計画】

詳細は、成人・老年看護学実習Ⅳの実習要項参照

### 【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

### 【授業外における学修方法及び時間】

- 1.実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の病態及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
- 2.受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習を行う。
- 3.慢性期患者の生活で利用可能な社会資源について学習を行う。

# 3 年次

## 目次

### 【基礎分野】

1. 家族関係論

### 【専門分野】

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1. 医療安全        | 7. 成人・老年看護学実習Ⅱ |
| 2. 災害看護        | 8. 成人・老年看護学実習Ⅲ |
| 3. 看護マネジメント論   | 9. 小児看護学実習     |
| 4. 統合看護技術      | 10. 母性看護学実習    |
| 5. 地域看護論実習Ⅱ    | 11. 精神看護学実習    |
| 6. 成人・老年看護学実習Ⅰ | 12. 看護総合実習     |



## 基礎分野

【科目】 家族関係論	【単位数・時間】 1 単位 (15 時間)
【担当講師】 金子 幸	
【開講時期】 通年	【配当年次】 3 年
【所属・職位等】 周南公立大学人間健康科学部 福祉学科	准教授

### 【授業における到達目標】

家族および家族関係について理解を深める。

### 【授業の概要】

講義やグループワーク、演習を行い、自らの考えを深める授業である。

### 【授業計画】

回数	内容	方法	講師	備考
1	1. 家族構造の理解 2. 現代の家族とその課題 ①現代家族の様相と課題 ②特別養子縁組	講義	金子	
2	1. 家族構造の理解 ジェノグラム、エコマップについて	講義		
3	1. 家族の育児機能について	講義		
4	1. 家族の発達段階と発達課題について	講義		
5	1. きょうだい児支援の在り方	講義		
6	1. 家族看護過程の展開 1) 家族を支える理論と介入法 (1) 家族を理解するための理論 (2) 家族システム論 (2) 家族に変化をもたらすための介入 (1) 家族療法 (2) 家族を支える介入	講義		
7	1. 家族看護視点での事例検討	演習		
8	終了試験 (45 分)			

### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。適宜レポート課題あり。

### 【評価方法】

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

### 【テキスト】

系統看護学講座 家族看護学 医学書院

### 【授業外における学修方法及び時間】

毎回、1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

## 専門分野

【科目】医療安全	【単位数・時間】1 単位（30 時間）
【単元】医療事故のメカニズム <sup>1)</sup> 、事故防止と対策 <sup>2)</sup>	
【担当講師】福田幸子 <sup>1)</sup> 西元智子 <sup>2)</sup>	
【開講時期】通年	【配当年次】3 年
【所属・職位等】1) 都城医療センター医療安全係長 2) 専任教員	
【実務経験】2) 看護師 18 年（医療安全管理者 4 年）	

### 【授業における到達目標】

1. 事故防止の考え方を説明できる。
2. 診療の補助の事故防止について説明できる。
3. 療養上の世話の事故防止について説明できる。
4. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因について説明できる。
5. 医療安全とコミュニケーションについて説明できる。
6. 看護師の労働安全衛生上の事故防止について説明できる。
7. 組織的な安全管理体制について説明できる。

### 【授業の概要】

医療事故や医療事故訴訟に関する事例を用いて、医療安全対策としての組織的な取り組みについて学ぶ。また、医療事故の構造の総合的な理解と事故予防のためのメタ認知能力を養うために、医療事故事例の分析やリフレクションを行う。

### 【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
1	医療事故のメカニズム	事故防止の考え方 1. 医療事故と看護業務 1) 医療事故とは 2) 医療行為と関連の有無 3) 事故の視点で看護業務 2. 看護事故の構造 1) 看護業務と事故の分類 ・診療の補助業務 ・療養上の世話業務 2) 事故防止の視点の違い ・診療の補助業 ・療養上の世話業務 3. 看護事故防止の考え方	講義	福田	
2		医療安全対策の国内外の潮流 1. わが国の医療安全対策の潮流 1) 厚生労働省の取り組み ・医療関係者の共同行動 ・医療安全管理室の設置 ・医療安全対策検討会議の設置 ・医療法施行規則による医療安全管理体制の義務づけ ・医療事故事例収集の開始 ・看護基礎教育での医療安全教育の開始 2) 日本医療機能評価機構の取り組み 3) 医療品医療機器総合機構(PMDA)の取り組み 4) 日本看護協会の取り組み	講義	福田	
3		組織的な安全管理体制への取り組み 1. 組織としての医療安全対策 1) 組織的な医療安全管理の考え方 2) 組織的な医療安全管理の土台としての安全文化の醸成 3) 報告によるリスク把握－分析－対策体制の確立 ・事故報告とヒヤリハット報告	講義	福田	

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
	事故防止と対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故やヒヤリハット事例の分析と対策の検討</li> <li>・医療安全管理のための職員研修</li> </ul> 2. システムとしての事故防止（具体例） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者間違いを防止するシステム改善の例</li> <li>2) 療養上の事故を防止するシステム改善の例</li> <li>3) 診療の補助の事故を防止するシステム改善の具体例</li> </ol>			
4		1. 事故発生のメカニズム <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事故発生のメカニズム               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間特性：生理的特性、認知的特性、集団的特性</li> <li>(2) エラーを誘発しやすい環境</li> </ol> </li> <li>2. 医療安全とコミュニケーション               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安全な医療・看護のための医療者間のコミュニケーション</li> <li>2) 安全な医療・看護のための患者・家族とのコミュニケーション</li> <li>3) 療養上の世話における患者とのコミュニケーション</li> <li>4) I-SBAR-C を用いたコミュニケーション</li> </ol> </li> <li>3. 看護師の労働安全衛生上の事故防止               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職業感染</li> <li>2) 抗がん剤の曝露</li> <li>3) 放射線被曝</li> <li>4) ラテックスアレルギー</li> </ol> </li> </ol>	講義	福田	
5		診療の補助の事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 投与における事故防止</li> <li>2. 注射業務と事故防止               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事故防止の視点からみた注射業務と形態と特性</li> <li>2) 注射業務での間違いと重大事故</li> <li>3) 注射事故の防止</li> </ol> </li> <li>3. 輸液ポンプ・シリンジポンプの事故防止               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 輸液ポンプ・シリンジポンプの構造と機能</li> <li>2) 操作間違いによる事故の防止</li> <li>3) ポンプ注入の危険性に対する事故防止</li> </ol> </li> </ol>	講義	西元	
6		1. 輸液業務と事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ABO 血液型不適応輸血</li> <li>2) ABO 血液型不適合輸血事故の防止</li> <li>3) BO 血液型不適合輸血以外の間違いや問題</li> </ol> 2. 内服与薬業務と事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事故防止の視点からみた内服予約業務</li> <li>2) 内服与薬事故の防止</li> </ol>	講義	西元	
7		1. 経管栄養業務と事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事故防止の視点から経管栄養業務の危険とその要因</li> <li>2) 経管栄養事故の防止</li> </ol> 2. チューブ管理と事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) チューブ留置の目的と看護の役割</li> <li>2) チューブ管理における事故防止の視点</li> <li>3) チューブごとの危険</li> <li>4) チューブトラブルを事故につなげないために</li> <li>5) 急性の生命リスクのある患者の自己抜去対策としての抑制</li> </ol>	講義	西元	
8		療養上の世話の事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 転倒・転落事故防止               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 転倒・転落事故防止の考え方</li> <li>2) 転倒・転落防止</li> <li>3) 看護介入下での転倒・転落防止</li> </ol> </li> </ol>	講義	西元	

回数	単元	内容（方法）	方法	講師	備考
		4) 自力行動中の転倒・転落防止 5) 転倒・転落による傷害防止 2. 入浴中の事故防止 1) 入浴中の事故防止の考え方 2) 入浴中の事故につながる事象の発生防止 3) 入浴中の事故につながる障害の防止			
9		1. 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 1) 窒息・誤嚥防止の考え方 2) 誤嚥の防止 3) 窒息・誤嚥性肺炎の防止 2. 異食事故防止 1) 異食事故防止の考え方 2) 異食の防止 3) 異食による事故の防止	講義	西元	
10・ 11		事故分析の方法 1. フレームワークを用いた分析 1) 4M-4E、pm-SHELL モデルとは 2) pm-SHELL モデルを用いた事例分析と対策	演習	西元	
12・ 13		2. 危険予知トレーニング(シミュレーション) 1) 事例演習 診療の補助場面: 与薬	演習		
14・ 15		3. 危険予知トレーニング(シミュレーション) 1) 事例演習 診療の補助場面: ドレーン管理	演習		
		終了試験(45分)			

#### 【科目関連及び進度について】

医療安全の概要については、看護技術Ⅰで学習しているため関連させて教授する。また、組織的な安全管理体制などについては、看護マネジメントとも関連させて教授する。

医療事故分析、対策については、看護技術Ⅰ～Ⅶ、臨床看護総論、各専門分野実習等の科目と関連させて、具体的事例を用いて教授する。

#### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

#### 【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート		技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○

#### 【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2]医療安全（医学書院）  
医療安全ワークブック 第4版（医学書院）

#### 【参考文献】

看護の統合と実践② 医療安全（ナーシンググラフィカ）

#### 【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習を要する。

## 専門分野

【科目】災害看護  
 【単元】災害看護の概念と構造、対象別看護、グローバルな視点と統合  
 【単位数・時間】1単位（30時間）  
 【担当講師】田上博喜  
 【開講時期】第1学期 【配当年次】3年  
 【所属・職位等】国立大学法人宮崎大学医学部看護学科 教授

### 【授業における到達目標】

1. 災害の種類と特徴を説明できる。
2. 災害時の保健・医療体制と看護職の役割を理解し説明できる。
3. 各災害フェーズにおける看護の視点と実際を理解できる。
4. トリアージの原則を理解し、シナリオに基づいた判断ができる。
5. 被災者の心身の特性や生活背景を配慮した支援の在り方を説明できる。
6. 世界共通の健康目標と国際的健康課題を理解し、看護職の役割を説明できる。
7. 多文化・多様な背景を考慮した看護の視点を理解できる。

### 【授業の概要】

本講義では、自然災害や人為的災害など多様な災害の発生時において、看護職に求められる役割と実践について学ぶ。近年の災害は激甚化・複雑化するのみならず、地球規模での健康課題や国際的な支援・協力とも密接に関連している。被災者の健康と生活を守るためには、迅速かつ倫理的な判断力、多文化背景をふまえた支援力が看護職に強く求められている。

本講義では、災害時の限られた資源や時間の中で必要となるトリアージや避難所支援をはじめ、各災害フェーズにおける対応を事例やシミュレーションを通して体験的に学ぶ。また、国際看護の視点から国際機関の役割や人道原則（公平・中立・独立）、多文化看護について理解を深める。

成人・老年・精神・小児・母性・公衆衛生看護の学びを統合し、非常時における看護の本質を主体的に考察する応用的な学習の場であるとともに、国際的な視野を備えた専門職としての成長をめざす。国立病院機構の一員として、社会的使命と倫理観をもって地域と世界に貢献できる看護職の育成を目的とする。

### 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	災害看護の概念と構造	<b>災害看護の概念と構造</b> 1. 災害看護の定義と目的 2. 災害の種類：自然災害（地震、津波、台風、豪雨、火山噴火）、人為災害（交通事故、原発事故、テロ、感染症流行） 3. 特殊災害：NBC（核・生物・化学）、マスギャザリング災害 4. 災害サイクル：前兆期・超急性期・亜急性期・慢性期・復旧期 5. 救急医療と災害医療の違い（資源制限・多数傷病者対応・トリアージ）	講義	田上	
2		<b>災害時の保健・医療体制と法制度</b> 1. 日本の災害医療体制：災害拠点病院、広域搬送体制、災害医療コーディネーター 2. チーム医療：DMAT、DPAT、DHEAT、赤十字救護班 3. 行政の役割（国・自治体・保健所） 4. 災害関連法制度：災害対策基本法、災害救助法、感染症法、BCP（事業継続計画） 5. 看護職の役割と多職種連携	講義	田上	
3		<b>各災害フェーズにおける看護①（急性期・亜急性期）</b> 1. 超急性期：外傷対応、ショック、蘇生・呼吸・循環管理、感染対策 2. 亜急性期：基礎疾患の増悪管理（糖尿病・高血圧・透析患者）、栄養管理、服薬継続支援 3. 災害と健康障害（圧挫症候群、クラッシュ症候群、DVT、低体	講義	田上	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
		温症) 4. 避難所の立ち上げと生活環境整備（水・食料・トイレ・衛生環境）			
4		<u>各災害フェーズにおける看護②（慢性期・復旧期）</u> 1. 慢性期：生活不活発病予防、介護ニーズの増加、在宅復帰支援 2. 復旧期：地域包括ケアとの連携、生活再建支援 3. 災害関連死、災害後の心的ストレス、長期健康障害 4. 災害後の社会的影響（孤立・格差・貧困）	講義	田上	
5		<u>トリアージの原則と実際</u> 1. トリアージの定義と必要性 2. START 法（呼吸・循環・意識による一次トリアージ） 3. PAT 法（二次トリアージ） 4. トリアージタグの使い方と記録 5. CSCATTT 原則 6. 倫理的ジレンマ（救える命を優先／重症でも救えない場合）	講義	田上	
6		<u>被災者の特性に応じた看護①（高齢者・小児・妊産婦・障害者）</u> 1. 高齢者：複合疾患・認知症・ADL 低下・生活不活発病 2. 小児：感染症、脱水、心理的影響、保護者支援 3. 妊産婦：妊娠合併症、出産、母乳栄養の継続 4. 障害者：医療的ケア児、在宅酸素・人工呼吸器使用者の災害時対応	講義	田上	
7		<u>被災者の特性に応じた看護②（精神疾患・要配慮者・文化的配慮）</u> 1. 精神疾患患者の症状増悪と支援 2. 要配慮者（外国人、独居高齢者、低所得層）の支援 3. 多文化背景に応じた配慮：言語・宗教・食習慣・価値観 4. コミュニケーションの工夫（やさしい日本語、通訳、翻訳ツール）	講義	田上	
8	対象別看護	<u>避難所生活と健康課題</u> 1. 避難所の設営と運営（ゾーニング、プライバシー確保） 2. 生活環境：水・衛生・空調・照明 3. 健康課題：慢性疾患増悪、DVT、感染症、低体温症、熱中症 4. 集団生活によるリスク：ノロウイルス・インフルエンザ集団発生	講義	田上	
9		<u>災害とこころのケア</u> 1. 被災者の心理反応（ASD、PTSD、うつ、不安） 2. PFA（サイコロジカル・ファーストエイド）の基本 3. DPAT の活動と役割 4. グリーフケア（遺族・喪失体験） 5. 支援者のメンタルヘルスケア（二次的外傷性ストレス）	講義	田上	
10		<u>災害と感染症・公衆衛生</u> 1. 災害時に流行しやすい感染症（呼吸器感染症、消化器感染症、皮膚感染症） 2. ワクチン接種の継続 3. 上下水道・衛生環境の破綻と健康被害 4. 公衆衛生の役割（健康教育、集団感染予防）	講義	田上	
11		<u>災害看護における倫理</u> 1. トリアージにおける生命倫理（公平性・最大多数の最大幸福） 2. 被災者・遺族への配慮（尊厳保持・人権尊重） 3. 支援者の安全と倫理	講義	田上	
12	グローバルな視点と統合	<u>国際看護①：国際的健康課題と国際機関の役割</u> 1. 国際的健康課題：新興・再興感染症（COVID-19、エボラ）、NCDs、紛争・難民、気候変動 2. グローバルヘルスの基本 3. 世界共通の健康目標：PHC、SDGs、UHC、人間の安全保障 4. 国際機関の役割：WHO、国際赤十字、国境なき医師団、JICA、NGO 5. 日本の国際緊急援助隊の活動	講義	田上	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
13		<b>国際看護②：多文化看護と国際的災害支援</b> 1. 多文化看護：レイニンガーの文化看護理論 2. 在留外国人への看護：言語・医療制度の違い・生活習慣 3. 国際的災害支援の事例（フィリピン台風、ネパール地震、シリア難民キャンプなど） 4. 看護師の役割と必要な能力（語学、文化理解、倫理、安全管理）	講義	田上	
14		<b>災害看護演習（演習）</b> 1. トリアージシミュレーション（START 法＋CSCATTT） 2. 避難所支援ロールプレイ（要配慮者・多文化対応） 3. 優先順位の判断と倫理的ジレンマ	演習	田上	
15			演習	田上	
		<b>終了試験（45分）</b>			

【科目関連及び進度について】

要配慮者への看護については、成人看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学で学んだ看護を基盤とし、災害時の看護を考える。

【試験・課題等の内容】

講師の提示に応じて課題に取り組む

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

【テキスト】

災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院

【参考文献】

- ・災害看護学 看護の専門知識を統合して実践につなげる 南江堂
- ・ナースィング・グラフィカ 看護の統合と実践③災害看護 メディカ出版

【授業外における学修方法及び時間】

1. 課題に取り組むことで、法律・政策の理解を深める。
2. 避難所での準備・看護について自己学習し演習に取り組む。

## 専門分野

【科目】看護マネジメント論	【単位数・時間】1単位(30時間)
【単元】マネジメントの諸理論 <sup>1) 2)</sup> 、マネジメントの基礎知識と法制度 <sup>1) 2)</sup> 、看護マネジメントの実践 <sup>1) 3)</sup>	
【担当講師】山本真由美 <sup>1)</sup> 吉村由美 <sup>2)</sup> 松本尚子 <sup>3)</sup> 千代森夕子 <sup>4)</sup>	
【開講時期】第1学期	【配当年次】3年
【所属・職位等】1) 都城医療センター附属看護学校教育主事 2) 宮崎東病院副看護部長（認定看護管理者） 3) 都城医療センター看護部長 4) 都城医療センター副看護部長（認定看護管理者）	
【実務経験】1) 看護師16年（うち、看護管理者7年）	

### 【授業における到達目標】

1. 看護におけるマネジメントの様々な考え方を知り、自らの考えを述べることができる。
2. 組織における看護部門の役割・機能を知り、患者に安全で安楽なサービスを提供するための看護マネジメントの実践について理解することができる。

### 【授業の概要】

看護管理とは、看護職が看護の対象者により良い看護を提供することを目指して行う一連の活動のことである。本科目では、組織における看護師の役割を理解し、病院の機能と看護サービスのマネジメントについて学ぶ。また、チーム医療および多職種との連携・協働のなかで、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できるよう具体的方法について学ぶ。看護管理の対象である、ヒト・モノ・カネ・情報・時間のマネジメントの実践を知り、看護専門職業人としての自己の姿勢やあり方、さらには将来的なキャリアマネジメントについても考える機会とする。

### 【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	マネジメントの諸理論	1. マネジメントの定義と役割・機能 2. 看護と組織 1) 良い組織とは 2) 組織構造と基本となる原則 3) 組織のシステム 3. 組織におけるマネジメント(考え方の変遷) 1) 古典的組織論      2) 人間関係論 3) 近代組織論      4) システム論	講義	山本	
2		1. リーダーシップの各理論 1) リーダーシップスタイル 2) PM理論とSL理論 2. リーダーシップとフォロワーシップ 1) リーダーとしての役割 2) フォロワーとしての役割 3) チーム医療を活かすコミュニケーションのあり方	講義	山本	
3		1. 人材を活かすための諸理論 1) 動機づけ理論 2) エンパワーメント 3) 変化・変革のプロセス	講義	吉村	
4		1. 看護の質保証 1) 看護ケアの質保証 2) 患者の権利の尊重 3) 安全性の確保	講義	山本	



回数	単元	内容	方法	講師	備考
5	と法制度 マネジメントの基礎知識	1. チーム医療とマネジメント 1) チーム医療に必要な機能 2) 看護チーム間での連携 3) 多職種との協働によるチーム活動 4) 多職種チームにおける看護師の役割	講義	吉村	
6		1. マネジメントに必要な法制度 1) 看護職にかかわる法・制度 2) 医療保険制度 3) 労働者にかかわる法・制度	講義	山本	
7		1. 組織としての看護サービスのマネジメント 2. 組織目的達成のマネジメント 3. 看護サービス提供のしくみづくり	講義	松本	
8		1. 人材のマネジメント 1) 人材フローのマネジメント 2) 労働環境	講義		
9		1. 施設・設備環境のマネジメント 1) 医療施設の施設・設備環境 2) 療養環境の整備 (1) 安全性の確保 (2) 快適性の確保 3) 作業環境の整備 (1) 機能性の確保 (2) 安全性の確保 2. 物品のマネジメント 1) 物品管理の原則 2) 物品提供システム 3) 医薬品・医療機器等の管理	講義		
10	看護マネジメントの実際	1. 財的資源のマネジメント 1) 医療・看護サービスに係る費用 2) 病院経営の指標 2. 情報のマネジメント 1) 情報の種類と管理 2) 医療情報の取り扱い (1) 守秘義務 (2) セキュリティ (3) 個人情報と倫理 3) 情報開示への対応 3. 看護サービスの質の保証 1) サービスの質の評価 2) 医療機能の評価	講義	千代森	
11		事例を用いた看護マネジメント①	演習		
12		事例を用いた看護マネジメント②	演習		
13		事例を用いた看護マネジメント③	演習		
14		事例を用いた看護マネジメント④	演習		
15		1. 看護職のキャリア形成 1) 現任教育と卒後教育 2) キャリアディベロップメント 3) キャリアアンカー 4) より専門性の高い看護職の養成 (1) ジェネラリストとスペシャリスト (2) 専門資格制度と教育課程 2. 看護専門職としての成長 1) 社会化 2) タイムマネジメントとストレスマネジメント	講義	山本	
		終講試験			

【科目関連及び進度について】

これまで学んできた看護についての知識をもとに管理という立場で統合した学びとする。ここでの学びは、総合看護実習につながる。

【試験・課題等の内容】

課題レポートは、授業で提示する。

事例を用いた看護マネジメントに関する演習を行う。

試験は授業全般である。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度		出席状況	

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院

新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社

【参考文献】

新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 メヂカルフレンド社

【授業外における学修方法及び時間】

1 単位 30 時間の講義であるため、授業時間とは別に終講試験実施前までに 15 時間の予習・復習時間を必要とする。講義の中で出された課題や看護師国家試験の過去問を解くなどして講義で学んだ知識の確認を行い、不足している学習内容については自分で調べて学ぶ等、主体的に学習に取り組む。

専門分野

【科目】 統合看護技術	【単位数・時間】 1 単位 (30 時間)
【単元】 多重課題への対応、複数患者への看護、課題研究演習	
【担当講師】 一柳明日香 <sup>1)</sup> 出口由美 <sup>2)</sup>	
【開講時期】 通年	【配当年次】 3 年
【所属・職位等】 1) 2) 専任教員	
【実務経験】 1) 看護師 7 年、2) 看護師 18 年	

【授業における到達目標】

1. 多重課題への対応、複数の対象への看護を考えることができる。
2. 対象の状態・状況に応じて、看護技術を組み合わせ応用して提供するための考え方が理解できる。
3. 課題研究演習については、科学的根拠に基づいて、自己の看護実践を検証する。
4. 実践した看護を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。

【授業の概要】

1. 事例から臨床判断モデルを用いて、臨床判断を高めるための判断や実践について学ぶ。
2. 複数患者の看護実践について学ぶ。優先順位の決定、タイムスケジュールの作成について学ぶ。
3. 臨地実習で受け持った患者の事例を取り上げ、実施した看護について事例研究を行う。

【授業計画】

回数	単元	内容	方法	講師	備考
1	多重課題への対応、複数患者への看護	1. 業務遂行のためのマネジメント 1) 複数患者を受け持つための情報収集・管理 (1) 患者を受け持つために必要な情報収集・管理 (2) 受け持ち患者データ情報源 2) 1 日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 (1) スケジュール管理のための工夫 ・優先順位を決定するための情報整理の工夫 (2) 業務時間の管理	講義	一柳	
2		1. 多重課題への対処 1) 多重課題の危険性 (1) 今日の医療現場の状況と看護の多重課題 (2) 看護現場の実際 2) 多重課題遂行時の危険性について (1) 多重課題とヒューマンエラー (2) 多重課題遂行のために必要な看護師の姿勢 3) 多重課題発生時の対処の原則 (1) 看護の現場における多重課題 (2) 多重課題への対処の原則	講義		
3・4		—臨床判断演習①— 患者への看護実践場面を通して	演習		基礎看護実習室使用
5		複数患者への看護実践 —複数患者の対象理解、情報整理、看護目標・看護計画立案—	講義		
6		複数患者（事例 1）の看護実践 —事例 1 患者の臨床判断—（シミュレーション）	演習		基礎看護実習室使用
7		複数患者（事例 2）の看護実践 —事例 2 患者の臨床判断—（シミュレーション）	演習		基礎看護実習室使用
8・9		複数患者への看護実践 —模擬患者への看護実践（シミュレーション）— ・優先順位を考えた看護 ・多重課題への対応	演習		基礎看護実習室使用
10	課題	事例研究 研究計画書	講義	出口	

回数	単元	内容	方法	講師	備考
11	研究 演習	事例研究 研究目的・研究方法	演習		
12		事例研究 研究結果・分析	演習		
13		事例研究 研究結果・分析	演習		
14・ 15		研究発表	演習		
		終講試験			

【科目関連及び進度について】

専門分野における学びを統合し、事例における臨床判断、臨地実習で受け持った患者の事例を取り上げた事例研究について学ぶ。

【試験・課題等の内容】

試験問題は、授業の内容の範囲から出題する。

演習課題及びレポート課題は、授業中に提示する。

【評価方法】

詳細は別紙「評価計画」参照

筆記試験	○	レポート	○	技術試験	
口頭試問		授業態度	○	出席状況	

【テキスト】

看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メディカルフレンド社  
看護学テキストシリーズ NiCE 看護と研究 根拠に基づいた実践 南江堂  
よくわかる中範囲理論（第3版）学研

【参考文献】

系統学看護講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

本科目は、統合分野であり、これまでの知識・技術を活用して学びを深めていく。よって、授業時間以外にも学習時間を確保し、主体的かつ計画的に学べるよう課題を提示する。

## 専門分野

【科目】地域看護論実習Ⅱ	【単位数・時間】2単位（90時間）
【担当講師】西元 智子	【開講時期】第2学期
【配当年次】3年	【所属・職位等】専任教員
【実務経験】看護師18年	

### 【授業における到達目標】

#### ＜地域保健活動、居宅介護支援事業所＞

1. 多様な場で生活する、様々な健康レベルにある人々をアセスメントできる。
2. 人々が暮らす地域の特性をアセスメントできる。
3. 地域で暮らす人々のセルフケア能力を高め、自らが望む暮らしを実現できるように支援する看護について理解し、指導者とともに実施できる。
4. 地域で暮らす人々を支援するための多職種連携・協働・調整の方法を理解できる。

#### ＜在宅療養者とその家族への看護＞

1. 地域で生活している療養者とその家族を理解できる。
2. 地域で生活している療養者とその家族の状況に応じた看護が指導者とともに実践できる。
3. 保健医療福祉チームの一員として行動できる。

### 【授業の概要】

地域や在宅で療養している人と家族が持つ健康及び生活上の課題を理解し、その人に応じた看護について学ぶ

### 【実習期間】

令和8年6月29日～令和8年10月8日のうち10日間

### 【実習施設】

【市町村】	
都城市役所	三股町健康管理センター
【居宅支援事業所】	
ケアプランサービス ゆう	霧島荘居宅介護総合支援事業所
居宅介護支援事業所 夢路	
【訪問看護ステーション】	
都城市郡医師会立訪問看護ステーション	くぼはら訪問看護ステーション
訪問看護ステーション優癒	リハケアステーション都城
訪問看護ステーションほほえみの園	訪問看護ステーションCOCORO美
訪問看護ステーション手と手	

### 【授業計画】

詳細は、地域看護論実習Ⅱ要項参照

### 【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

### 【授業外における学修方法及び時間】

詳細は、地域看護論実習Ⅱ実習要項参照

## 専門分野

【科目】成人・老年看護学実習Ⅰ

【単位数・時間】3単位（90時間）

【開講時期】通年

【配当年次】3年

【担当講師】永田歩

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師18年

### 【授業における到達目標】

1. 回復期にある成人期・老年期の患者および家族の特徴について理解できる。
2. 回復期にある対象が地域で生活するための機能回復や自立に向けた看護が実践できる。
3. 対象の退院支援について考えることができる。
4. 医療チームの一員であることを自覚し、多職種連携のあり方や看護師の役割が理解できる。
5. 看護実践を通して、患者を尊重した態度がとれる。

### 【授業の概要】

病棟において成人期・老年期にある患者を受持ち、回復期にある対象の機能回復に向けた看護の実践を学ぶ。また、地域医療連携室実習においては、多職種連携における看護師の役割について学ぶ。

### 【実習期間】

令和8年2月2日(月)～令和8年10月29日(金)のうち連続する12日間

### 【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 在宅サポート病棟、地域医療連携室

### 【授業計画】

詳細は、成人老年看護学実習Ⅰ要項参照

### 【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100点）

### 【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う実習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前学習を行う。

## 専門分野

【科目】成人・老年看護学実習Ⅱ

【単位数・時間】3単位（90時間）

【開講時期】通年

【配当年次】3年

【担当講師】西 裕也

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師 15年

### 【授業における到達目標】

1. 周術期の身体変化を理解し、必要な観察と援助ができる
2. 心理的变化を理解し、対象に応じた支援ができる
3. 生活背景と社会的役割を踏まえて看護を展開できる
4. 周術期から退院後生活への移行を支援する視点を持ち、多職種と連携して看護を展開できる
5. 周術期における安全確保のための判断と報告ができる
6. 実習全体を通して学習を統合し、看護実践に活かす

### 【授業の概要】

病棟において、急性期にある成人期・老年各期の対象とその家族との関わりを通して危機的状態からの生命維持や適応に向けた看護について学ぶ。外科外来・病棟・手術室で得た情報を統合し、「周術期における変化を理解し、看護実践へ活かす力」を養う。外来では【心理的反応・生活背景・意思決定】を、手術室では【術中情報の理解と術後アセスメントへの結びつき】を、病棟では【術前～術後のアセスメント・看護実践】を学ぶ。

### 【実習期間】

令和8年2月2日～令和8年10月29日のうち連続する12日間

### 【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 3病棟・手術室・外科外来

### 【授業計画】

詳細は、成人老年看護学実習Ⅱ要項参照

### 【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100点）

### 【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う実習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前学習を行う。

## 専門分野

【科目】成人・老年看護学実習Ⅲ

【単位数・時間】3 単位 (90 時間)

【開講時期】通年

【配当年次】3 年

【担当講師】田尻朝恵

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師 13 年

### 【授業における到達目標】

#### ＜慢性期＞

1. 慢性的な経過をたどる対象及び家族に必要な支援を総合的に理解することができる。
2. 長期にわたる自己管理や症状コントロール能力を中心としたアセスメントができる。
3. 対象の自己管理や生活調整に向けた看護を実践できる。
4. 自己管理や生活調整に必要な社会資源や多職種連携について理解できる。
5. 受け持ち患者や家族と良い人間関係を築くことができる。
6. 医療チームの一員であることを自覚し、多職種の連携の在り方や看護師の役割が理解できる。

#### ＜終末期＞

1. 終末期の成人期・老年期にある対象の特徴が理解できる。
2. 終末期にある成人期・老年期の患者に安全・安楽な看護を実践できる。
3. 終末期にある家族への看護が理解できる。
4. 終末期における医療チームの一員として自己の役割を認識し、多職種連携や社会資源の活用について述べるができる。
5. 受け持ち患者や家族と良い人間関係を築くことができる。
6. 医療チームの一員として、看護者の役割を自覚し責任ある行動をとることができる。

### 【授業の概要】

慢性的な病とともにある成人期・老年期にある対象や家族の特徴をとらえ健康問題・生活上の課題を理解しその人に応じた看護について学ぶ。

終末期にある成人期・老年期にある対象や家族の特徴をとらえ対象の全人的苦痛（身体的・精神的・社会的・霊的）の 4 側面からの苦痛を理解し、安全・安楽な看護が実践することを学ぶ。

### 【実習期間】

令和 8 年 2 月 2 日（月）～10 月 29 日（木）連続する 12 日間

### 【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 5 病棟、外来

### 【授業計画】

詳細は、成人・老年看護学実習Ⅲ実習要項（慢性期・終末期）参照

### 【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100 点）

### 【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習を行う。



## 専門分野

【科目】小児看護学実習

【単位数・時間】2単位(60時間)

【開講時期】通年

【配当年次】3年

【担当講師】今田南生人

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師 11年

### 【授業における到達目標】

1. 小児の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、成長・発達に応じた援助が実践できる
2. 健康障害のある小児及び家族の特徴について理解できる。
3. 患児及び家族の健康障害に応じた看護が実践できる。
4. 医療的ケアを必要とする児とその家族への看護が理解できる。
5. 地域で生活する小児とその家族を支える社会資源について理解できる。
6. 小児を尊重し、保健医療福祉チームの一員として、責任ある行動を取ることができる。

### 【授業の概要】

小児看護学実習では、保育園・保育所において地域で生活する小児とのかかわりをとおして、小児の特徴や成長・発達に応じた援助について学ぶ。また、病棟・外来では健康障害のある児を担当し、患児と家族に対して、成長・発達及び健康障害に応じた看護について学ぶ。新生児集中治療室において医療的ケアを必要とする児とその家族への看護について学ぶ。都城市ファミリー・サポート・センターにおいて子育ての現状とその支援について学ぶ。

### 【実習期間】

令和8年2月2日(月)～令和8年10月30日(金)のうち連続する12日間

### 【実習施設】

社会福祉法人しらゆり福祉会 幼保連携型認定こども園 早水保育園
社会福祉法人 都北保育園 とほく認定こども園
社会福祉法人小鳩会 志比田こども園
社会福祉法人エンゼル会 こおりもと保育園
社会福祉法人みのり福祉会 祝吉小放課後児童クラブ
独立行政法人国立病院機構都城医療センター 2病棟・小児科外来・新生児集中治療室

### 【授業計画】

詳細は、小児看護学実習要項参照

### 【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100点)

### 【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患児の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患児に必要な看護技術の事前練習

## 専門分野

【科目】母性看護学実習

【単位数・時間】2単位（60時間）

【開講時期】通年

【配当年次】3年

【担当講師】一柳明日香

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師7年

### 【授業における到達目標】

1. 周産期にある対象の身体的特徴および心理・社会的特徴を理解できる。
2. 新生児の特徴が理解できる。
3. 周産期にある対象の健康上の課題を明らかにできる。
4. 周産期の対象の健康の維持増進に向けた援助を実践できる。
5. 新生児の安全・安楽な援助が実践できる。
6. 母子とその家族の愛着形成・役割の獲得に向けた看護が実践できる。
7. 母性における継続看護と社会資源の活用必要性が理解できる。
8. 保健医療チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。

### 【授業の概要】

妊産褥婦及び新生児の特徴を理解し、母子とその家族の健康を維持・増進するために必要な看護を学ぶ。

### 【実習期間】

令和8年2月2日～令和8年10月30日うち連続する10日間

### 【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター  
都城市子育て世代活動支援センター「ふれぴか」

### 【授業計画】

詳細は、母性看護学実習要項参照

### 【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

### 【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち妊婦の病態及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児にまつわる必要な看護技術の事前練習
3. 褥婦の退院後の生活で利用可能な社会資源

## 専門分野

【科目】精神看護学実習	【開講時期】通年	【配当年次】3年
【単位数・時間】2単位（60時間）	【所属・職位等】専任教員	
【担当講師】出口由美		
【実務経験】看護師18年		

### 【授業における到達目標】

1. 精神障害をもつ患者の身体的・心理的・社会的背景を統合し、総合的にアセスメントすることができる。
2. 患者のニーズ・生活の困難さ・ストレングスや可能性を把握することができる。
3. 患者の持つストレングスや可能性を活かした看護実践ができる。
4. 患者の目標志向に基づく看護実践ができる。
5. 自己の感情や行動特性に気づき、治療的な患者-看護師関係を構築できる。
6. 医療チームの一員として「安全・個人情報保護・協働・学習姿勢・倫理的配慮」に係る責任を認識し、行動ができる。

### 【授業の概要】

精神看護学実習は、患者との関わりを通して治療的対人関係を形成し、精神障害をもつ患者の心理的・社会的背景や生活状況を理解することを目的とする。学生は面接や観察、プロセスレコードを用いた振り返りを通して患者理解と自己理解を深め、患者のニーズやストレングスを踏まえた看護を実践する。また、看護計画の立案・実施・評価の過程を学びながら、患者の主体性や回復を支援する看護実践能力を養うとともに、倫理的配慮や多職種連携、安全管理など専門職としての基本的態度を身につける。

### 【実習期間】

令和8年2月2日（月）～7月10日（金）うち連続する12日間

### 【実習施設】

一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元病院

### 【授業計画】

精神看護学実習要項参照

### 【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

### 【授業外における学修方法及び時間】

精神看護学実習要項参照

## 専門分野

【科目】看護総合実習

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】2学期

【配当年次】3年

【担当講師】一柳明日香

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師7年

### 【授業における到達目標】

1. 複数の受け持ち患者の状態や周囲の状況を判断し、その状況に応じて必要な看護が実践できる。
2. 看護チームの一員として、受け持ち患者に必要な看護を安全に実践できる。
3. 24時間看護が継続されるよう、看護を実践することができる。
4. 患者に必要な資源を活用し、看護を実践することができる。
5. 看護師としての倫理観を持ち、看護師としての役割と責任について理解できる。

### 【授業の概要】

チームの一員として、看護実践に必要なマネジメントを理解し、対象を取り巻く人々との調整や連携を学ぶ。

### 【実習期間】

令和8年10月9日(木)～11月18日(火)のうち連続する12日間

### 【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 1病棟～5病棟

### 【授業計画】

詳細は、看護総合実習要項参照

### 【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。(配点：100点)

### 【授業外における学修方法及び時間】

授業ノートの整理と見直しを行い、実習期間中は学習したノートを持参する。学習内容に不足がある場合は、追加学習を行う。

1. 実習病棟に特徴的な疾患について(病態・治療処置・看護目標や看護の方法)
2. 看護マネジメント論で学習した病棟での看護マネジメント
3. 医療安全で学習した医療安全対策と管理
4. 統合看護技術